

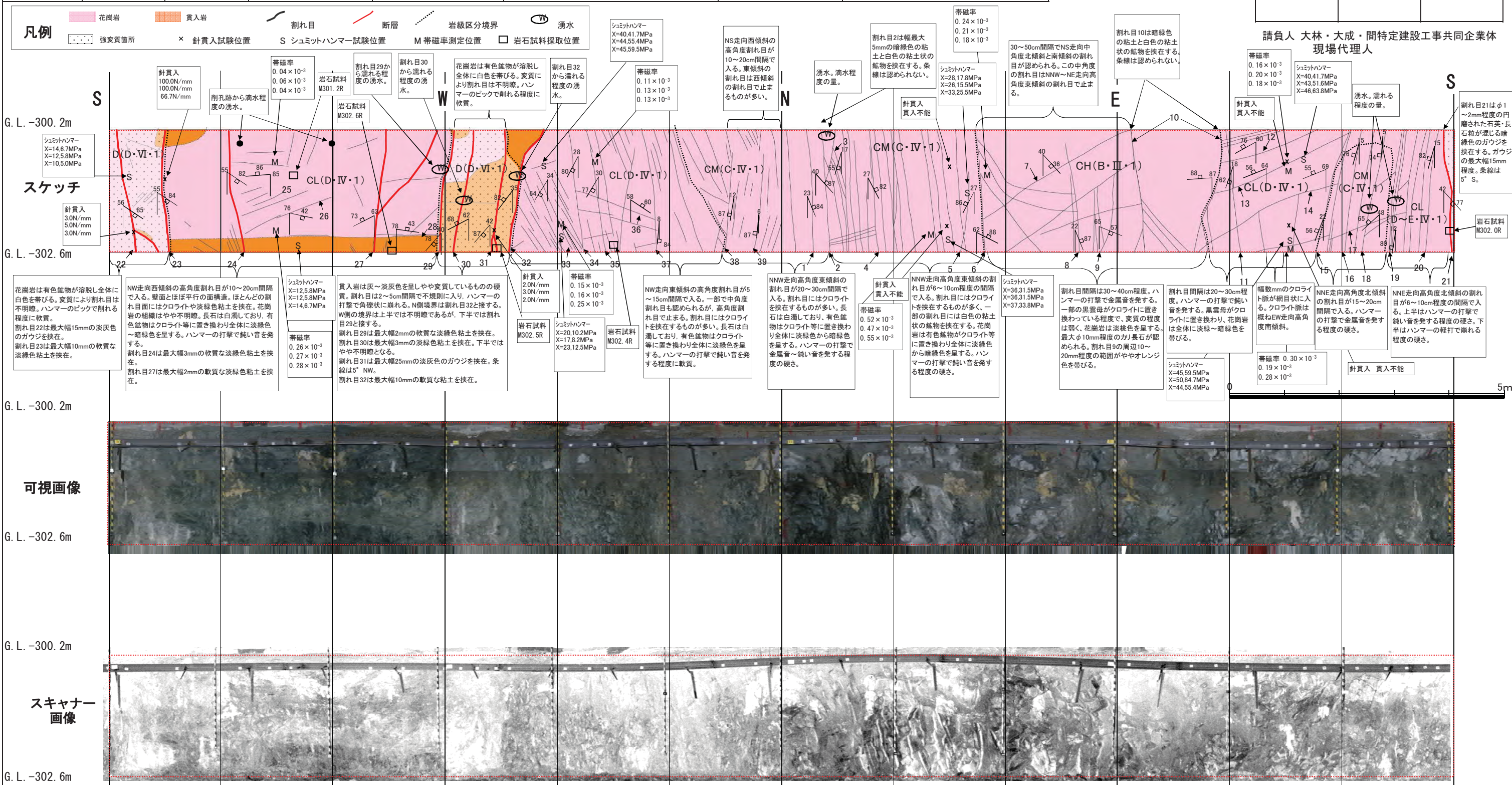
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090410

シート番号(注)	160	日時	2009/4/10 3:00~6:20	位置・深度	STEP242, 243 G.L. -300.2 m~G.L. -302.6 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員



岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -300.2m~-301.3m CH/CM/CL/D G.L. -301.3m~-302.6m CH/CM/CL/D	<b>特記事項</b> 湧水は割れ目2から滴水程度の量、割れ目18、19、29、30、32から濡れる程度の量で認められた。また、SW側の削り跡から滴水程度の湧水が認められた。 岩級区分は、割れ目38付近から割れ目6の間と割れ目15と割れ目19の間の下半は、割れ目間隔が10~30cm程度でハンマーで鈍い音~金属音をたてる程度の硬さであることから、CH(C-IV-1)級。割れ目6から割れ目10の間は割れ目間隔が30~40cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることからCH(B-III-1)級。割れ目10から割れ目21の間、割れ目23から29の間、割れ目32から割れ目38付近の花崗岩は割れ目間隔が概ね5~30cm程度で、ハンマーの打撃で鈍い音をたてる程度の硬さであることからCL(D-IV-1)級。割れ目21から割れ目23の間、割れ目29から32の花崗岩と貫入岩は割れ目が不明瞭あるいは割れ目間隔が2~5cm程度で、ハンマーのピックで割れる~ハンマーの打撃で鈍い音を発する程度の硬さであることからD(D-VI-1)級と評価した。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色、淡桃色) ②貫入岩(暗灰色、淡灰色)	RMR値	G.L. -300.2m~-301.3m 30.8 G.L. -301.3m~-302.6m 31.5	
風化	α	岩石試料番号	M302.0R(ガウジ)、M302.5R(花崗岩)、M302.4R(ガウジ)、M302.6R(花崗岩)、M301.2R(花崗岩)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			



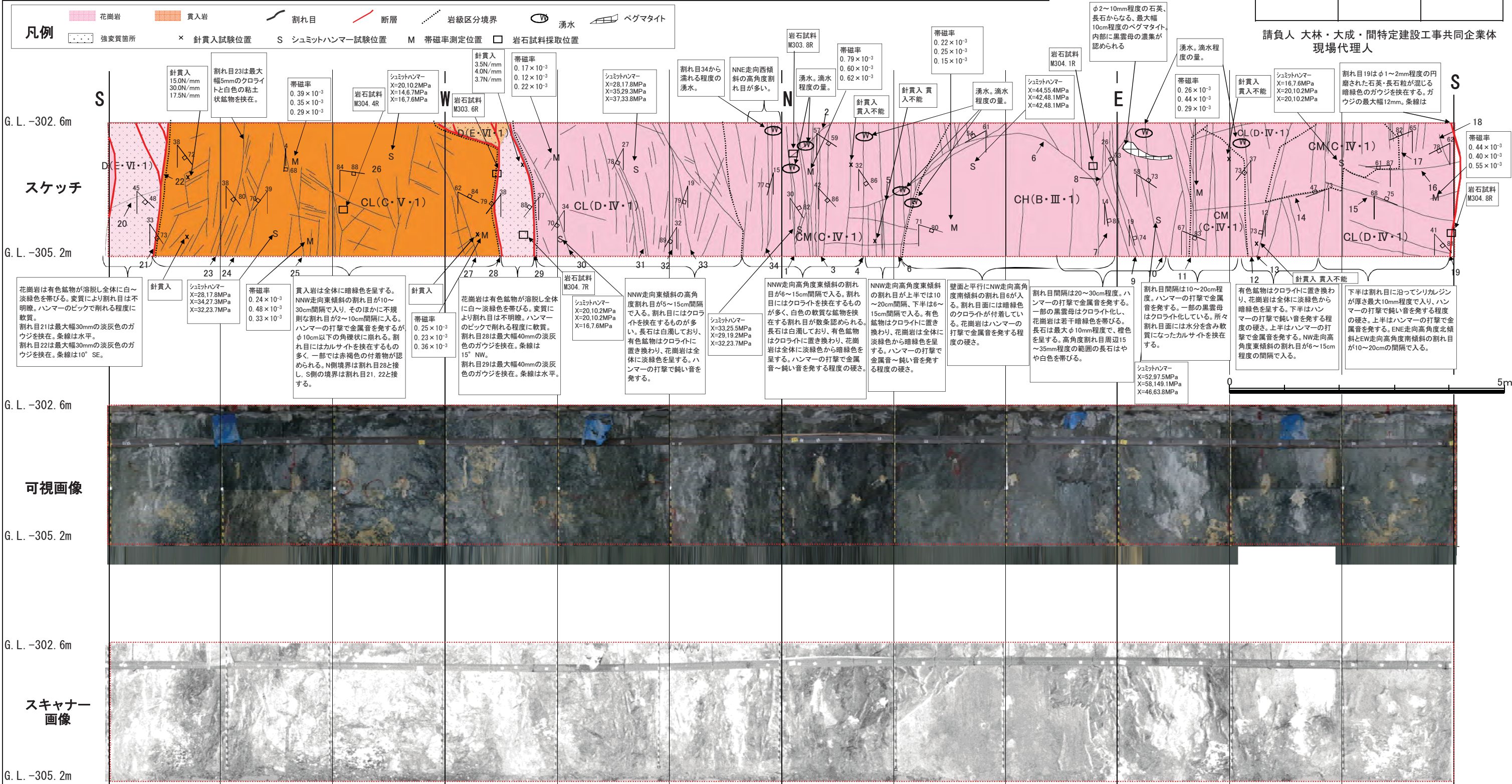
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090415

シート番号(注)	161	日時	2009/4/15 13:00~16:00	位置・深度	STEP244, 245 G.L. -302.6 m~G.L. -305.2 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員



請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -302.6m~-303.9m CH/CM/CL/D G.L. -303.9m~-305.2m CH/CM/CL/D	<b>特記事項</b> 岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒花崗岩②貫入岩である。貫入岩は割れ目21から割れ目28までの間に認められる。花崗岩の石英の粒径は概ねφ2~7mm程度であるが、NE側壁ではφ10mm程度の長石が認められる。花崗岩はNE側を除き全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクォーartzに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。最も花崗岩が硬質であったNE側では一部の黒雲母がクォーartzに置き換わり、花崗岩は若干暗緑色を呈する。貫入岩は最も硬質なNW側で暗緑色を呈し、所々φ1~2mm程度の緑色の鉱物が認められる他は粒径を肉眼では確認できない程度の細粒である。花崗岩と貫入岩の境界は割れ目21の上半、割れ目22、割れ目28で明瞭である。主な割れ目は34条である。割れ目の主要な走向傾斜はNNE走向高角度東傾斜とNNW~NW走向高角度東傾斜である。割れ目19、21、22、28、29は条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。割れ目19は最大厚さ12mm程度、割れ目21、22は最大厚さ30mm程度、割れ目28、29は最大厚さ40mm程度の淡緑~緑灰色のガウジを挟んでいる。断層に認められる条線は概ね水平から低角度である。 湧水は割れ目1、2、4、5、6、10、12から滴水程度の量、割れ目34から濡れる程度の量で認められた。 岩級区分は、割れ目6から割れ目11までは、割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることからCH(B・Ⅲ・1)級と評価した。割れ目34から割れ目6まで、割れ目11と割れ目12の間、割れ目13と割れ目17の間の上半は、割れ目間隔が20~30cm程度でハンマーで鈍い音をたてる程度の硬さであることからCM(C・Ⅳ・1)級と評価した。割れ目12から割れ目19の間の下半と、割れ目29から割れ目34付近までは、割れ目間隔が概ね5~30cm程度で、ハンマーの打撃で鈍い音をたてる程度の硬さであることからCL(D・Ⅳ・1)級。また、割れ目22から割れ目28の間の貫入岩は割れ目間隔が2~10cm程度でハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることからCL(C・Ⅴ・1)級と評価した。割れ目19から22の間、及び割れ目28から割れ目29の花崗岩は割れ目が不明瞭でハンマーのビックで割れる程度の硬さであることからD(E・Ⅵ・1)級と評価した。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色、淡桃色)②貫入岩(暗灰色、淡灰色)	RMR値	G.L. -302.6m~-303.9m 29.5 G.L. -303.9m~-305.2m 32.5	
風化	α	岩石試料番号	M303.8R(花崗岩)、M304.1R(花崗岩)、M304.8R(花崗岩)、M304.7R(花崗岩)、M303.6R(ガウジ)、M304.4R(貫入岩)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			



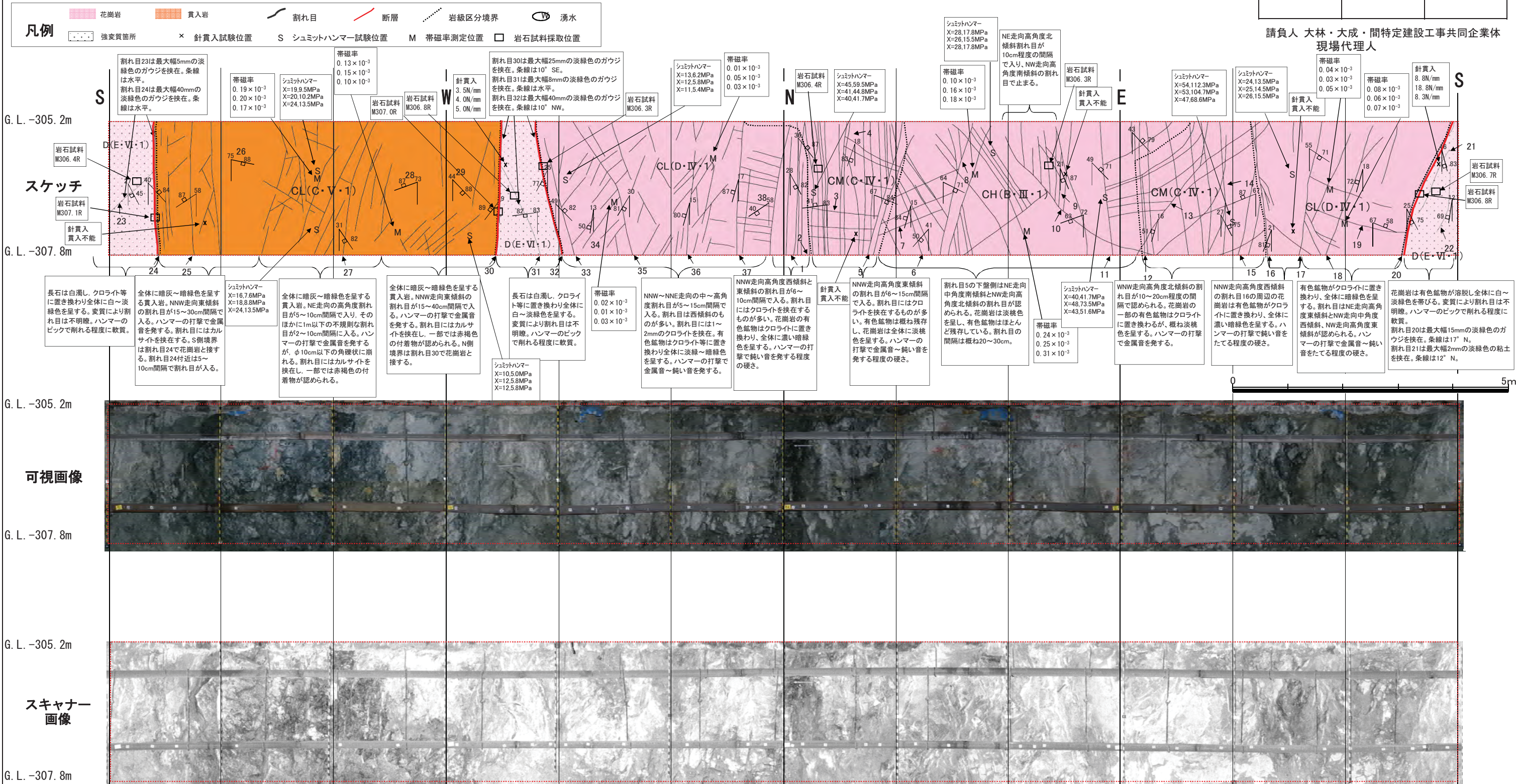
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090420

シート番号(注)	162	日時	2009/4/20 17:00~19:30	位置・深度	STEP246, 247 G.L. -305.2 m~G.L. -307.8 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員



請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -305.2m~-306.5m CH/CM/CL/D G.L. -306.5m~-307.8m CH/CM/CL/D	特記事項 岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒花崗岩②貫入岩である。貫入岩は割れ目24から割れ目30の間に認められる。花崗岩の石英の粒径はφ2~7mm程度であるが、NE側ではφ10mm程度の長石が認められる。花崗岩はNE側をのぞき強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。最も花崗岩が硬質であったNE側では有色鉱物が残存し、花崗岩は淡桃色を呈する。貫入岩は灰色~暗灰色を呈し、所々φ1~2mm程度の緑色の鉱物が認められる他は粒径を肉眼では確認できない程度の細粒である。花崗岩と貫入岩の境界は割れ目24と割れ目30で比較的明瞭である。 主な割れ目は38条である。割れ目の主要な走向傾斜はNNW走向高角度東傾斜とNE走向東傾斜である。割れ目20, 24, 30, 32はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。割れ目20, 24, 30, 32は最大厚さ10~40mmの灰色~暗緑色のガウジを挟んでいる。断層に認められる条線は概ね水平から低角度である。花崗岩は割れ目にクロライトを挟んでいることが多く、貫入岩ではカルサイトの挟在が多く認められた。 湧水は切羽全体においてほとんど認められなかった。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色、淡桃色) ②貫入岩(暗灰色、淡灰色)	RMR値	G.L. -305.2m~-306.5m 33.5 G.L. -306.5m~-307.8m 33.5	
風化	α	岩石試料番号	M306.4R(花崗岩), M306.3R(花崗岩), M306.7R(ガウジ), M306.8R(ガウジ), M306.4R(ガウジ), M307.1R(ガウジ), M307.0R(ガウジ), M306.8R(ガウジ), M307.0R(ガウジ)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	湿っぽい			



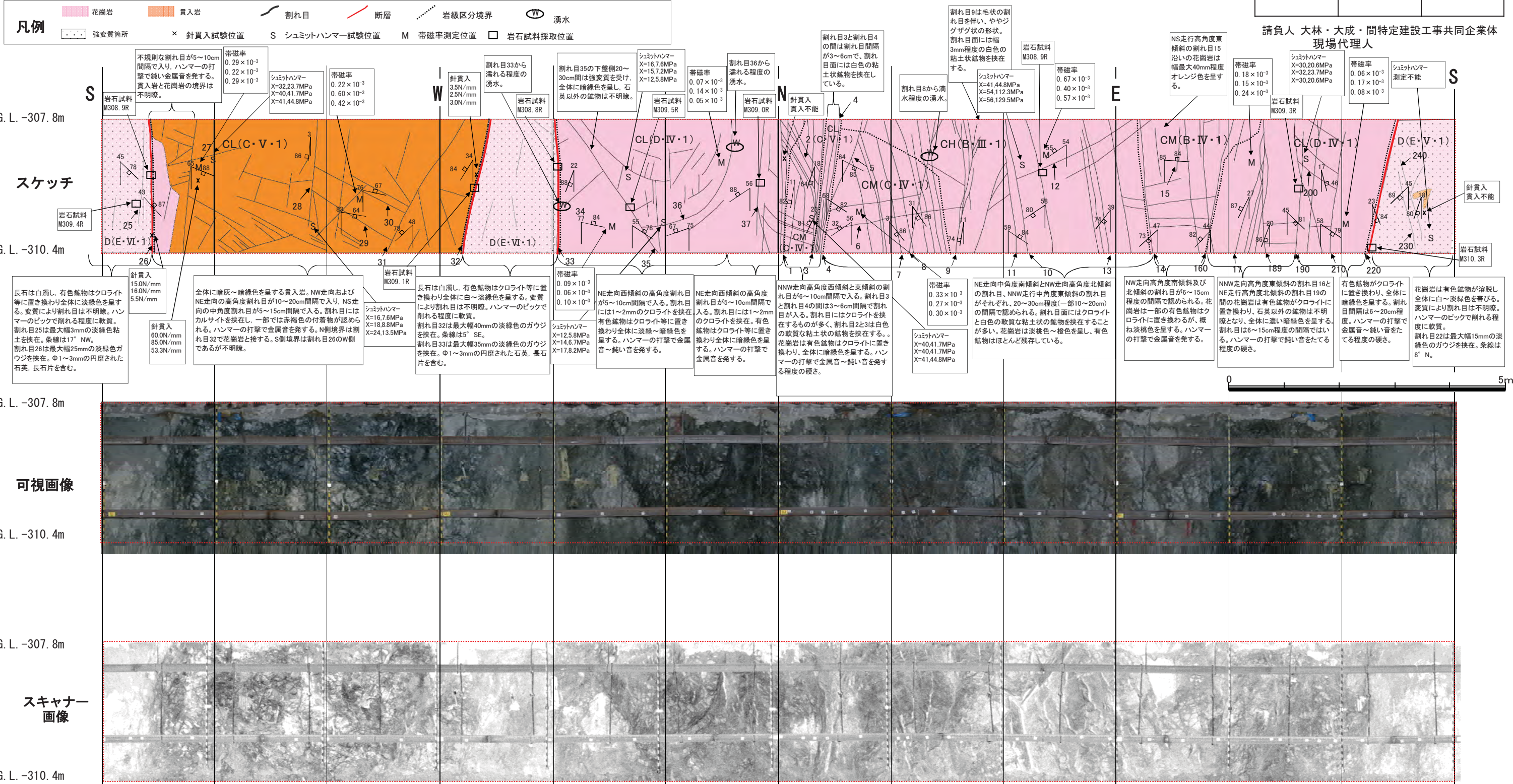
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090423

シート番号(注)	163	日時	2009/4/23 11:50~14:20	位置・深度	STEP248, 249 G.L. -307.8 m~G.L. -310.4 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員



請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -307.8m~-309.1m CH/CM/CL/D G.L. -309.1m~-310.4m CH/CM/CL/D	特記事項 岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒花崗岩②貫入岩である。貫入岩は主に割れ目26付近から割れ目32の間に分布し、割れ目24付近にも局所的に不規則形状で分布する。花崗岩の石英の粒径はφ2~7mm程度であるが、NE側ではφ10mm程度の長石が認められる。花崗岩はNEからE側を除き全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。最も花崗岩が硬質であったNEからE側では有色鉱物が残存し、花崗岩は淡桃色~橙色を呈する。貫入岩は灰色~暗灰色を呈し、所々φ1~2mm程度の緑色の鉱物が認められる他は粒径を肉眼では確認できない程度の細粒である。花崗岩と貫入岩の境界は割れ目24付近と割れ目26付近は不明瞭であるが、割れ目32では明瞭である。 主な割れ目は37条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向高角度東傾斜と西傾斜である。割れ目22, 26, 32, 33はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。割れ目22, 26, 32, 33は最大厚さ15~40mmの灰色~暗緑色のガウジを挟んでいる。断層に認められる条線は概ね水平から低角度である。花崗岩は割れ目にクロライトと白色の軟質な粘土状の鉱物を挟んでいることが多く、貫入岩ではカルサイトの挟が多く認められた。 湧水は割れ目8から滴水程度の量、割れ目33, 36から濡れる程度の量で認められた。岩級区分は、NNE~E側の割れ目5から割れ目14の間は、割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることからCH(B・Ⅲ・1)級と評価した。N~NNE側の割れ目1と割れ目3の間と割れ目4から割れ目9付近までと、EからESE側の割れ目14から割れ目16の間は花崗岩は割れ目間隔が10~20cm程度でハンマーで鈍い音~金属音をたてる程度の硬さであることから、CM(C・Ⅳ・1)級。WNW側の割れ目33から1の間は花崗岩は割れ目16と割れ目22の間は、割れ目間隔が5~15cm程度でハンマーの打撃で鈍い音~金属音を発する程度の硬さであることからCL(D・Ⅳ・1)級。NE側の割れ目3と4の間、W側の割れ目26から32の間は花崗岩と貫入岩は割れ目間隔が5~20cm程度でハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることからCL(C・Ⅴ・1)級。S側の割れ目22から26、WNW側の割れ目32から33の間は花崗岩は割れ目が不明瞭でハンマーのピックで割れる程度の硬さであることからD(E・Ⅵ・1)級と評価した。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色、淡桃色)②貫入岩(暗灰色)	RMR値	G.L. -307.8m~-309.1m 30.5 G.L. -309.1m~-310.4m 30.3	
風化	α	岩石試料番号	M308.9R(花崗岩), M309.3R(花崗岩), M310.3R(ガウジ), M309.4R(ガウジ), M308.9R(ガウジ), M309.1R(ガウジ), M308.8R(ガウジ), M309.5(花崗岩), M309.0R(花崗岩)	
変質	2~4	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			



# A工区地質記載シート

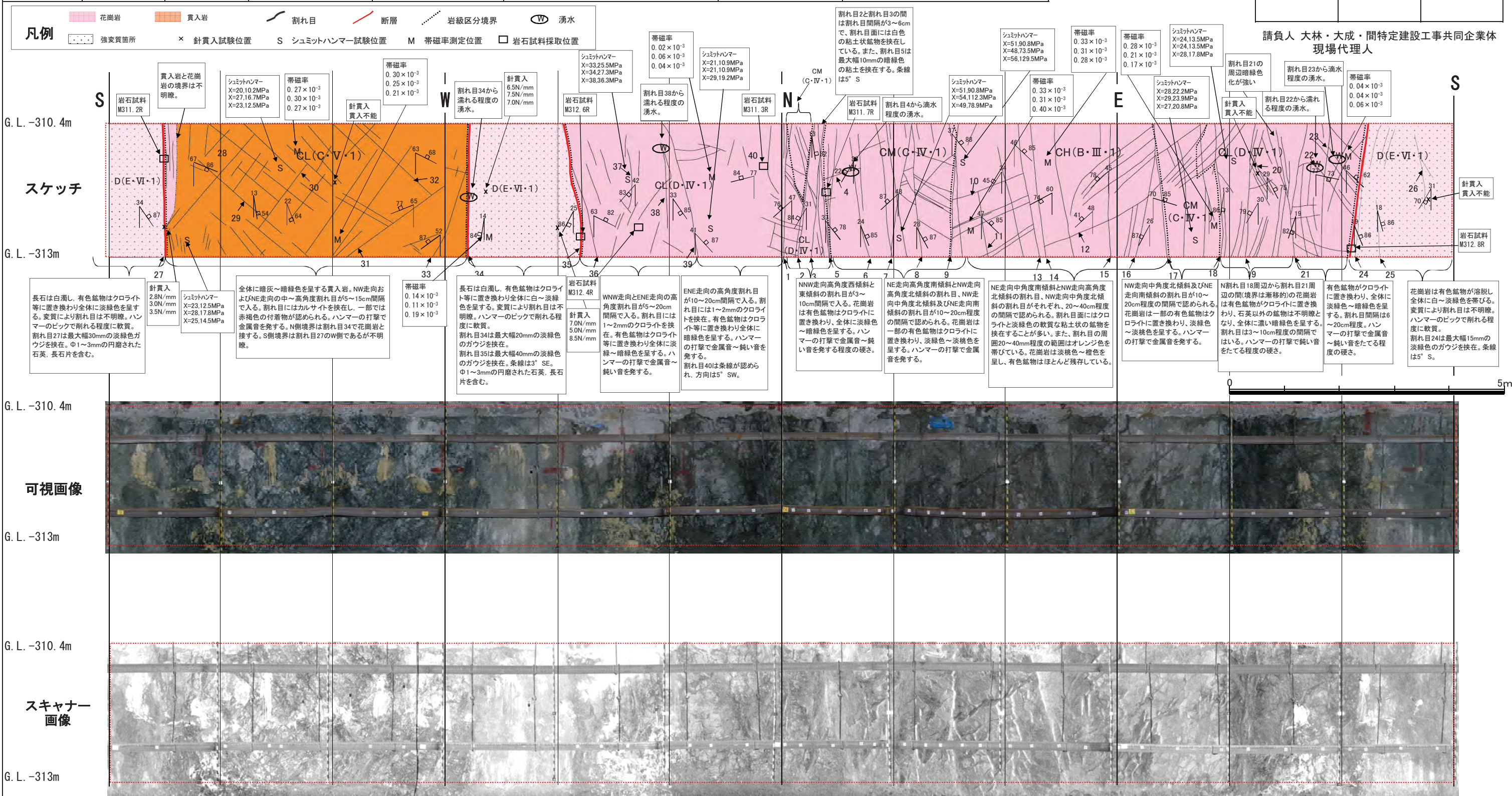
(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090425

シート番号(注)	164	日時	2009/4/25 13:00~16:00	位置・深度	STEP250、251 G.L. -310.4 m~G.L. -313.0 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人



岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -310.4m~-311.7m CH/CM/CL/D G.L. -311.7m~-313m CH/CM/CL/D	特記事項 岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒花崗岩②貫入岩である。貫入岩は割れ目27付近から割れ目34の間に認められる。花崗岩の石英の粒径はφ2~7mm程度であるが、NE側ではφ10mm程度の長石が認められる。花崗岩はNE側を除き全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクォーライトに置き換わり、全体に淡緑色~暗緑色を呈する。特にN側とSE側では、花崗岩は濃い暗緑色を呈し石英以外の鉱物は不明瞭になる箇所が認められる。WNW側の割れ目34から割れ目35の間とS側の割れ目24から割れ目27の間は変質の度合いが特に強く、全体に白色~淡緑色を呈し、割れ目は不明瞭である。また、最も花崗岩が硬質であったNE側では、有色鉱物が残存し花崗岩は淡桃色を呈する。貫入岩は暗緑~暗灰色を呈し、全体に細流で粒径を肉眼では確認できない。花崗岩と貫入岩の境界は割れ目27付近は不明瞭であるが、割れ目34では明瞭である。 主な割れ目は40条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向高角度東傾斜とNE走向東傾斜である。割れ目24、27、34、35はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。割れ目24、27、34、35は最大厚さ15~40mmの淡緑色~暗緑色のガウジを挟んでいる。断層に認められる条線は概ね水平から低角度である。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色、淡桃色) ②貫入岩(暗灰色、暗緑色)	RMR値	G.L. -310.4m~-311.7m 24.5 G.L. -311.7m~-313m 27.0	
風化	α	岩石試料番号	M311.7R(割れ目挟在物)、M312.8R(ガウジ) M311.2R(ガウジ)、M312.6R(ガウジ)、 M312.4(花崗岩)、M311.3R(花崗岩)	
変質	2~4	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			



# A工区地質記載シート

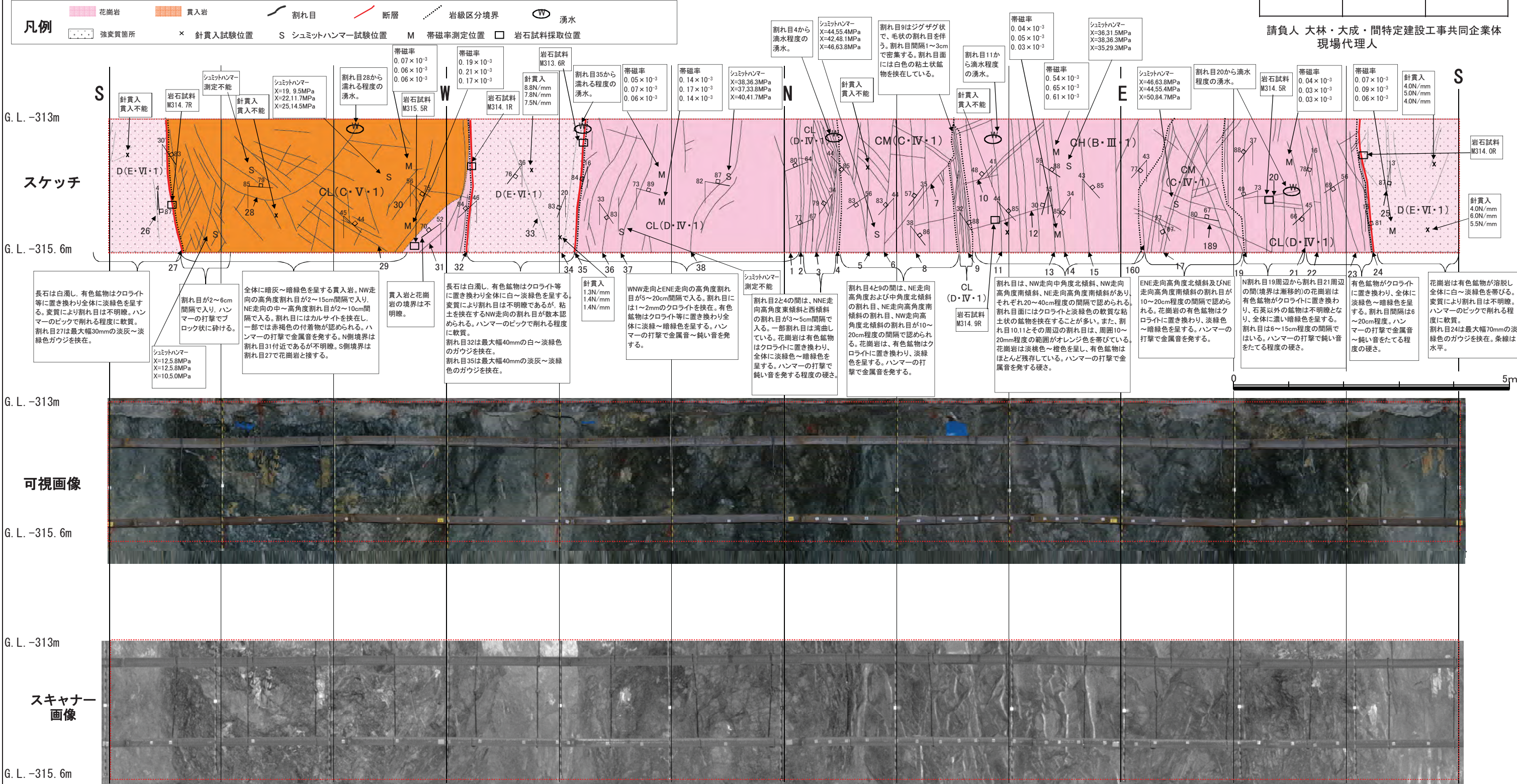
(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090515

シート番号(注)	165	日時	2009/5/15 13:00~16:00	位置・深度	STEP252、253 G.L. -313.0 m~G.L. -315.6 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人



岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -313m~-314.3m CH/CM/CL/D G.L. -314.3m~-315.6m CH/CM/CL/D	<b>特記事項</b> 岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒花崗岩②貫入岩である。貫入岩は割れ目27から割れ目31付近の間に認められる。花崗岩の石英の粒径はφ2~7mm程度であるが、NE側ではφ10mm程度の長石が認められる。花崗岩は長石が概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わり、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、S側の割れ目24から割れ目27の間とWNW側の割れ目32から割れ目35の間は変質の程度が特に強く、全体に白色~淡緑色を呈し、割れ目は不明瞭である。最も花崗岩が硬質であるNE側では有色鉱物が残存し、花崗岩は淡桃色を呈する。貫入岩は暗緑~暗灰色を呈し、全体に細粒で粒径を肉眼では確認できない。花崗岩と貫入岩の境界は割れ目27では明瞭であるが、割れ目31では不明瞭である。 主な割れ目は38条である。割れ目の主要な走向傾斜はN側ではWNW走向高角度北傾斜、E側ではNE走向高角度東傾斜、W側ではNW走向高角度西傾斜である。割れ目24、27、32、35はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。割れ目24、27、34、35は最大厚さ30~70mmの淡緑色、淡灰色のガウジを伴っている。断層に認められる条線は概ね水平から低角度である。花崗岩は割れ目にクロライトを挟んでいることが多く、貫入岩ではカルサイトの挟みが多く認められた。 湧水は割れ目4、11、20から滴水程度の量、割れ目28、35から濡れる程度の量で認められた。 岩級区分は、NE~E側の割れ目9付近から割れ目16付近の花崗岩は、割れ目間隔が20~40cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることからCH(B・Ⅲ・1)級と評価した。NE側の割れ目4から9の間、割れ目16から19付近までの花崗岩は割れ目間隔が10~20cm程度でハンマーで金属音をたてる程度の硬さであることから、CM(C・Ⅳ・1)級。NW側の割れ目35からN側の割れ目4の間とSE側の割れ目19付近から24までの間の花崗岩は割れ目間隔が5~20cm程度でハンマーの打撃で鈍い音を発する程度の硬さであることからCL(D・Ⅳ・1)級。SW~W側の割れ目27から32の花崗岩と貫入岩は割れ目間隔が2~15cm程度でハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることからCL(C・Ⅴ・1)級。S側の割れ目24から27、WNW側の割れ目32から35の花崗岩は割れ目が不明瞭でハンマーのピックで割れる程度の硬さであることからD(E・Ⅵ・1)級と評価した。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色、淡桃色)②貫入岩(暗灰色)	RMR値	G.L. -313m~-314.3m 22.8 G.L. -314.3m~-315.6m 26.5	
風化	α	岩石試料番号	M314.9R(花崗岩), M314.5R(花崗岩), M314.0R(ガウジ) M314.7R(ガウジ), M315.5R(花崗岩), M314.1R(ガウジ), M313.6R(花崗岩)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			



# A工区地質記載シート

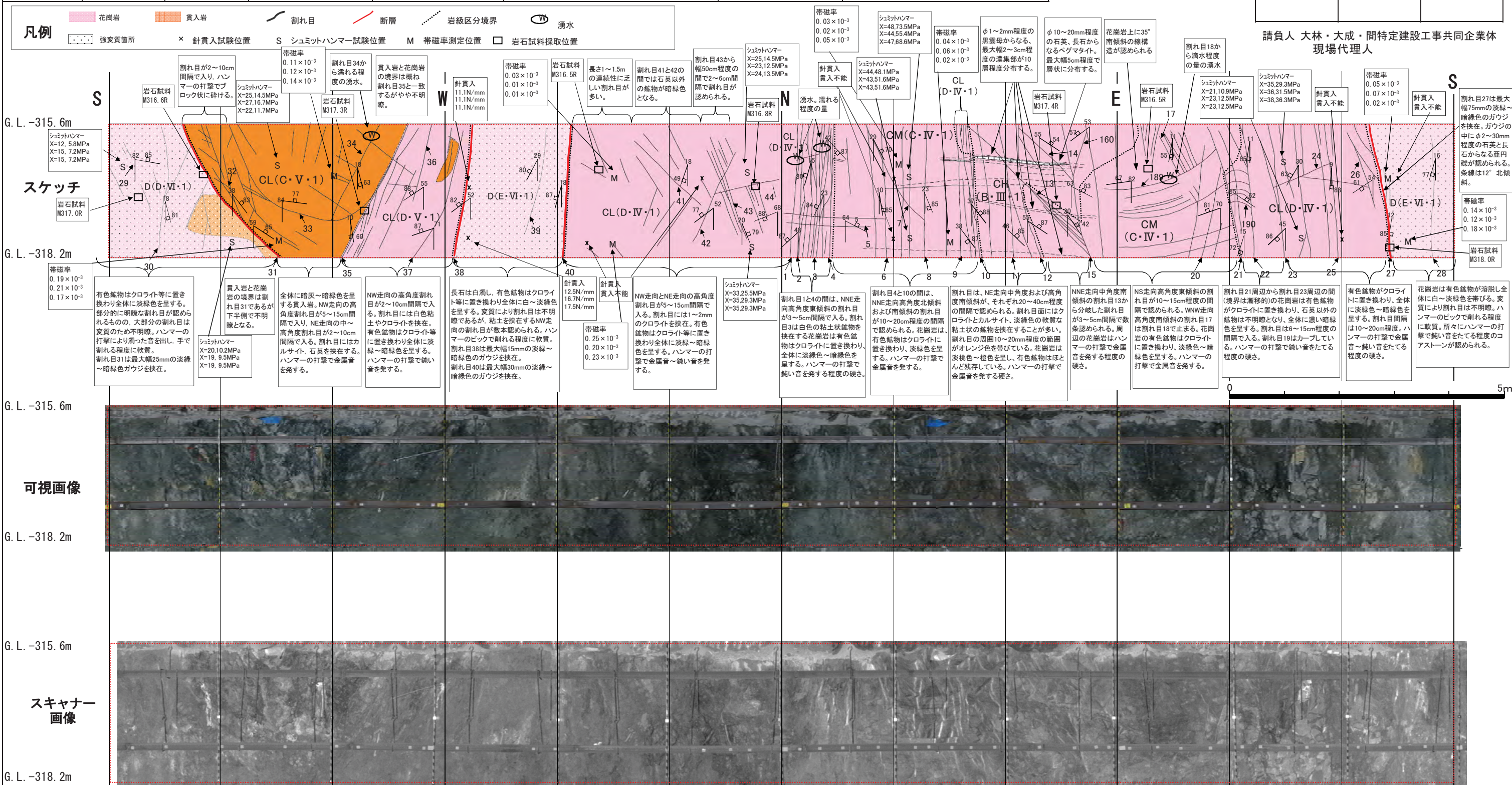
(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090519

シート番号(注)	166	日時	2009/5/19 13:00~16:00	位置・深度	STEP254, 255 G.L. -315.6 m~G.L. -318.2 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人



岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -315.6m~-316.9m CH/CM/CL/D G.L. -316.9m~-318.2m CH/CM/CL/D	<b>特記事項</b> 湧水は割れ目18から滴水程度の量、割れ目1, 3, 34から濡れる程度の量で認められた。 岩級区分は、NE~E側の割れ目9から12付近までの間の花崗岩は、割れ目間隔が20~40cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることからCH(B・III・1)級と評価した。NE側の割れ目4から9付近の間と割れ目12付近から21付近までの間の花崗岩は割れ目間隔が10~20cm程度でハンマーで金属音をたてる程度の硬さであることから、CM(C・IV・1)級と評価した。W側の割れ目35から38の間の花崗岩と貫入岩、NW側の割れ目40からN側の割れ目4の間の花崗岩、SE側の割れ目21付近から27までの間の花崗岩は、割れ目間隔が2~20cm程度でハンマーの打撃で鈍い音を発する程度の硬さであることからCL(D・IV・V・1)級。SW~W側の割れ目31から35の間の貫入岩は割れ目間隔が2~15cm程度でハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることからCL(C・V・1)級と評価した。S側の割れ目27から31、WNW側の割れ目38から40の間の花崗岩と貫入岩は割れ目が不明瞭でハンマーのビックで割れる程度の硬さであることからD(D~E・VI・1)級と評価した。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色、淡桃色) ②貫入岩(暗灰色)	RMR値	G.L. -315.6m~-316.9m 26.8 G.L. -316.9m~-318.2m 28.5	
風化	α	岩石試料番号	M317.4R(花崗岩), M316.5R(花崗岩), M318.0R(貫入岩), M316.8R(花崗岩), M316.5R(花崗岩), M317.3R(花崗岩), M316.6R(貫入岩), M317.0R(花崗岩)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			



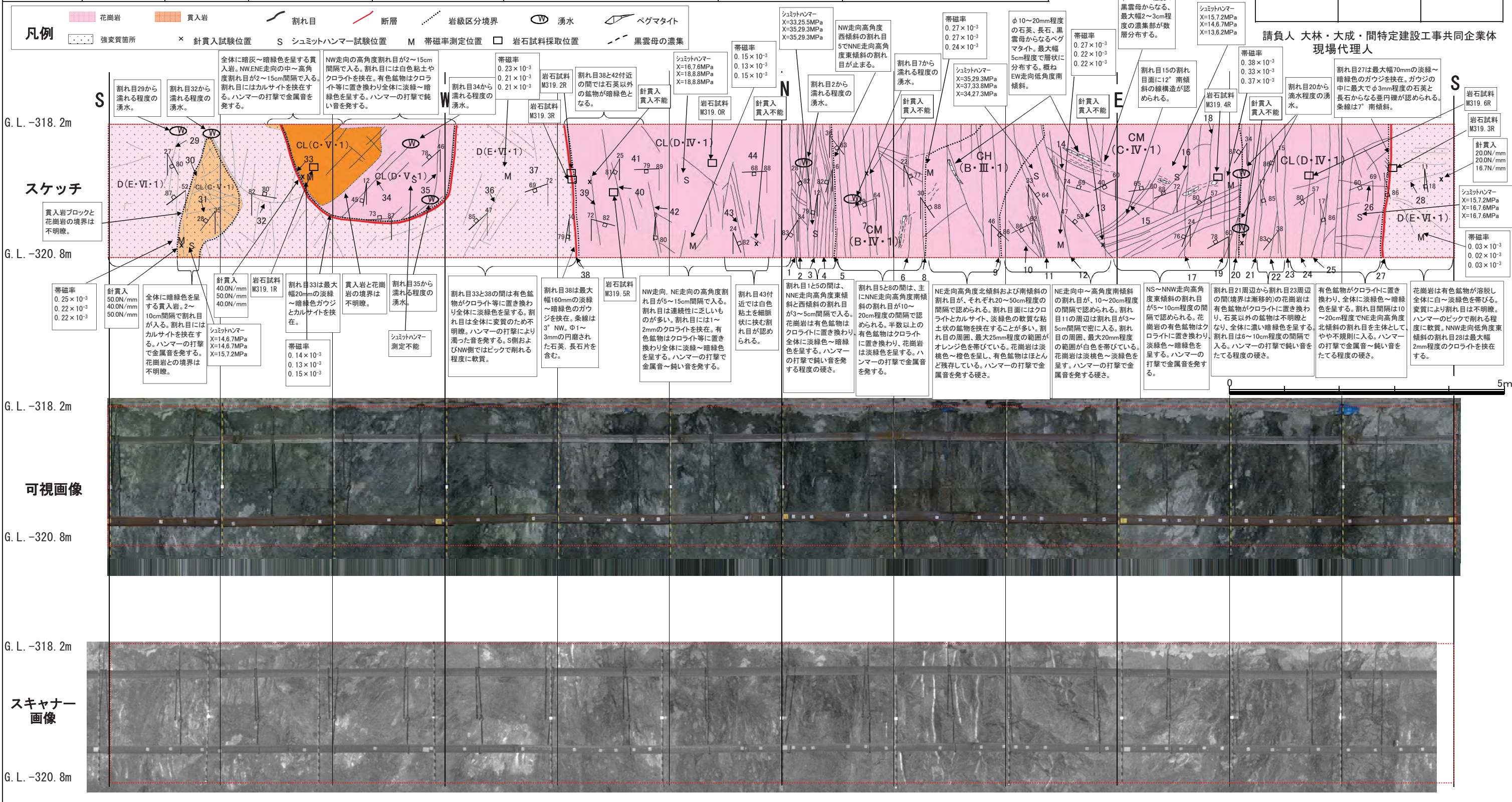
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090521

シート番号(注)	167	日時	2009/5/21 12:30~15:00	位置・深度	STEP256, 257 G.L. -318.2 m~G.L. -320.8 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員



岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -318.2m~-319.5m CH/CM/CL/D G.L. -319.5m~-320.8m CH/CM/CL/D	<b>特記事項</b> 湧水は割れ目20から滴水程度の量、割れ目2, 7, 29, 32, 34, 35から濡れる程度の量で認められた。 岩級区分は、NE側の割れ目8付近から割れ目9付近の花崗岩は、割れ目間隔が30~50cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることからCH(B・Ⅲ・1)級と評価した。NE側の割れ目5から8付近の間と割れ目9付近から20付近までの間の花崗岩は、割れ目間隔が10~20cm程度でハンマーで金属音をたてる程度の硬さであることから、CM(B・Ⅳ・1)級と評価した。W側の割れ目33の上盤側の花崗岩、NW側の割れ目38からNE側の割れ目5の間の花崗岩、SE側の割れ目20から27までの間の花崗岩は割れ目間隔が2~20cm程度でハンマーの打撃で鈍い音を発する程度の硬さであることからCL(D・Ⅴ・1)級、SW~W側の割れ目33付近と34付近の間、割れ目30付近の貫入岩は割れ目間隔が2~15cm程度でハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることからCL(C・Ⅴ・1)級、S~W側の割れ目27と38の間の花崗岩は割れ目が不明瞭でハンマーの打撃で濁った音あるいはビックで割れる程度の硬さであることからD(E・Ⅵ・1)級と評価した。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色、淡桃色) ②貫入岩(暗灰色)	RMR値	G.L. -318.2m~-319.5m 23.0 G.L. -319.5m~-320.8m 23.0	
風化	α	岩石試料番号	M319.4R(花崗岩), M319.6R(花崗岩), M319.3R(貫入岩) M319.0R(花崗岩), M319.5R(花崗岩), M319.2R(貫入岩) M319.3R(貫入岩), M319.1R(貫入岩)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			



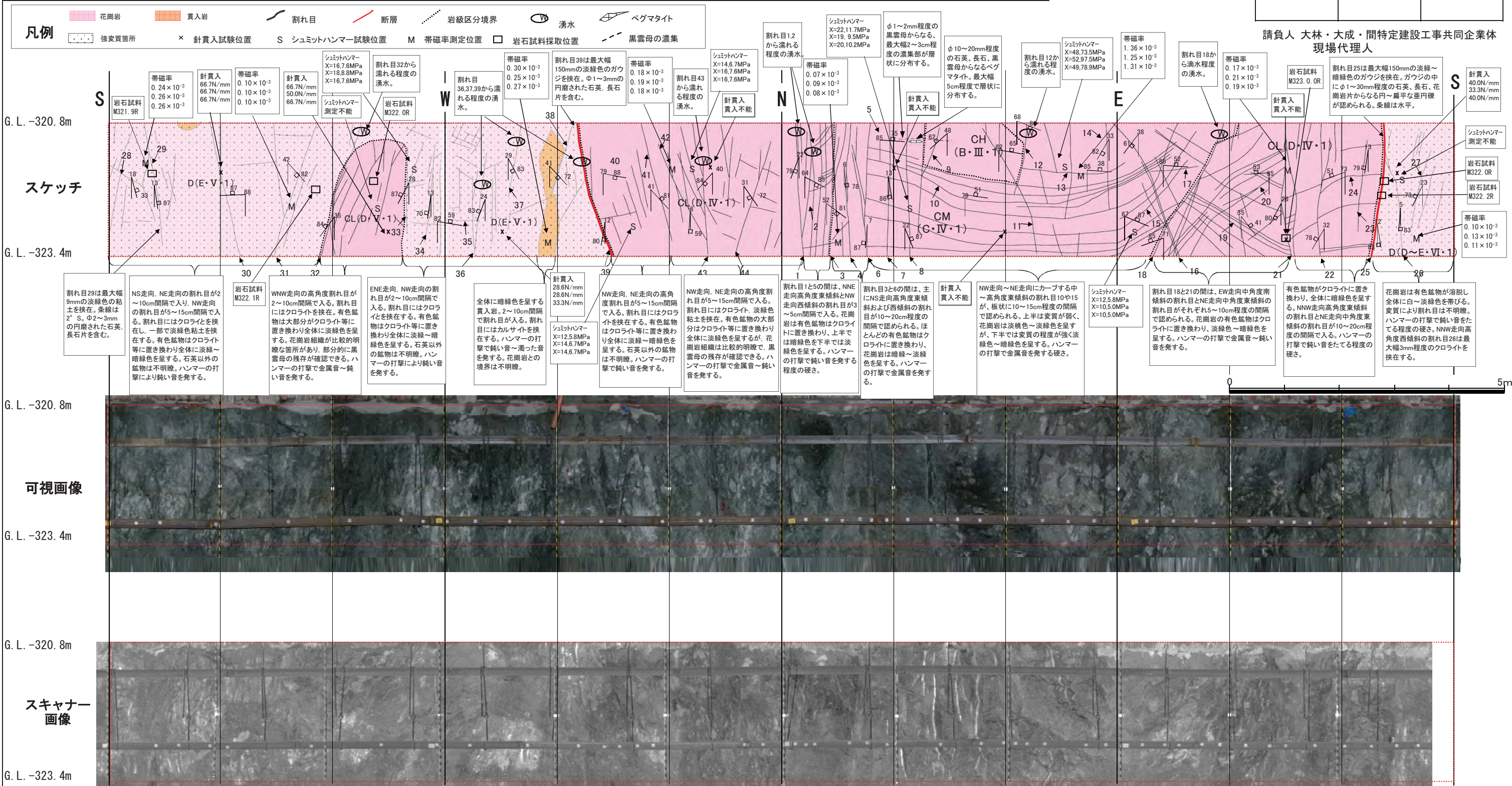
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090525

シート番号(注)	168	日時	2009/5/25 13:00~16:00	位置・深度	STEP258、259 G.L. -320.8 m~G.L. -323.4 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員



岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -320.8m~-322.1m CH/CM/CL/D G.L. -322.1m~-323.4m CH/CM/CL/D	特記事項 岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒花崗岩②貫入岩である。貫入岩は割れ目30付近および割れ目38付近にブロック状に認められる。花崗岩の石英の粒径はφ2~7mm程度である。NE側の花崗岩の中には石英、長石、黒雲母からなるベグマタイトが層状に認められる。花崗岩はNE側の一部を除き全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わり、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、S~NW側の割れ目25と39の間は、変質の程度が特に強く全体に白色~淡緑色を呈し、多くの割れ目は不明瞭である。最も花崗岩が硬質であったNE側の一部では有色鉱物が残存し、花崗岩は淡桃色を呈する。貫入岩は暗緑~暗灰色を呈し、全体に細粒で粒径を肉眼では確認できない。花崗岩と貫入岩の境界は全体に不明瞭となっている。 主な割れ目は44条である。割れ目の主要な走向傾斜はNE~ESE側にかけてはNE~NW走向高角度東傾斜、E~SW側にかけてはNS走向高角度、SW~NW側にかけてはNW~EW走向高角度南傾斜、NW~N側にかけてはNW走向高角度となっている。割れ目25、39はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。割れ目25、39は最大厚さ70~150mmの淡緑~暗緑色のガウジを挟んでいる。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色、淡桃色)②貫入岩(暗灰色)	RMR値	G.L. -320.8m~-322.1m 23.0 G.L. -322.1m~-323.4m 25.5	
風化	α	岩石試料番号	M325.0R(花崗岩), M322.0R(ガウジ), M322.2R(ガウジ) M321.9R(ガウジ), M322.1R(花崗岩), M322.0R(花崗岩)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			



# A工区地質記載シート

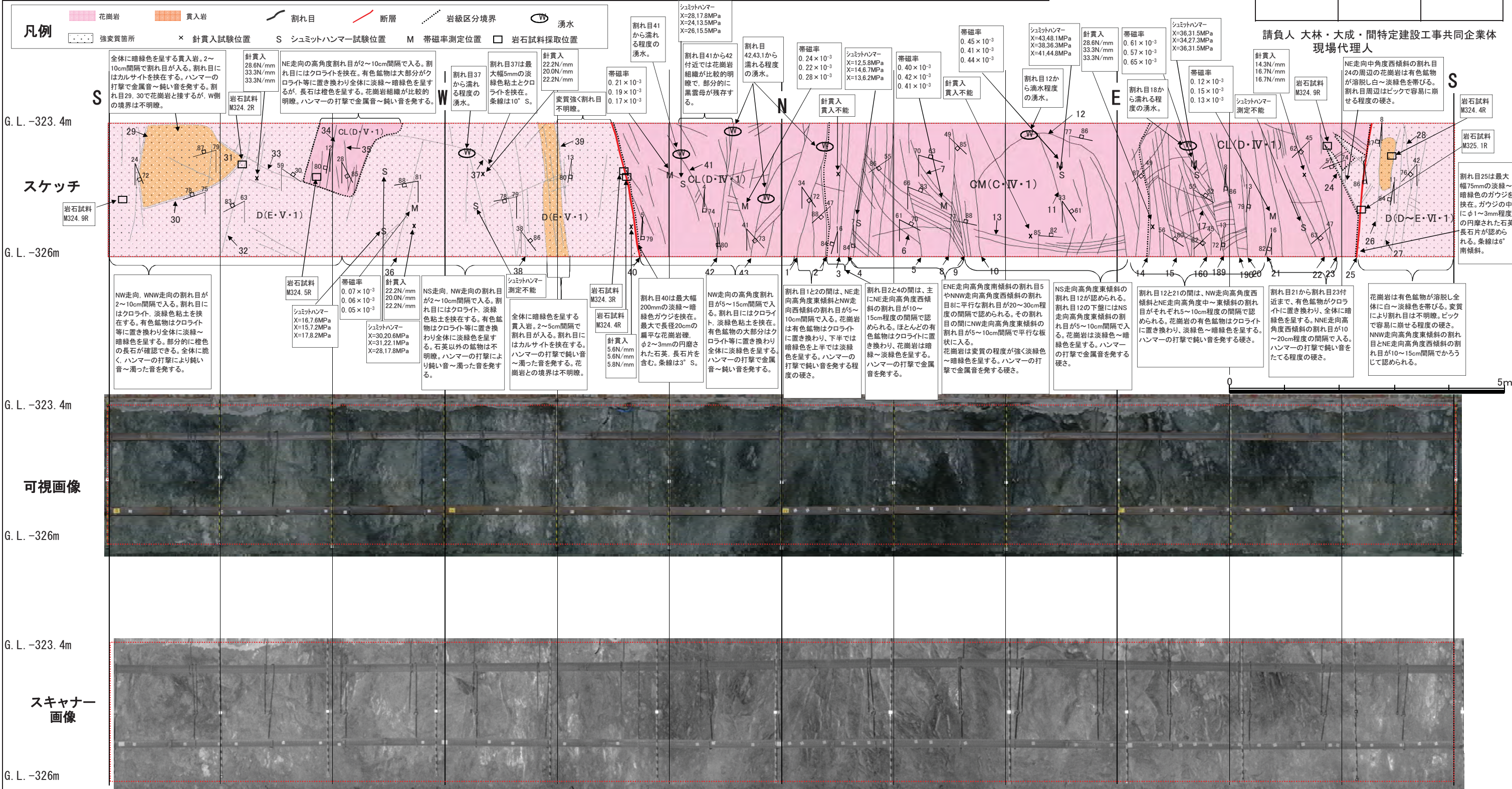
(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090527

シート番号(注)	169	日時	2009/5/27 20:00~22:30	位置・深度	STEP260, 261 G.L. -323.4 m~G.L. -326.0 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人



岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -323.4m~-324.7m CM/CL/D G.L. -324.7m~-326m CM/CL/D	特記事項 岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒花崗岩②貫入岩である。貫入岩はS側の割れ目26と27の間、割れ目29, 30付近およびNW側の割れ目39付近に認められる。花崗岩の石英の粒径はφ2~7mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクォーartz等に置き換わり、全体に暗緑色~暗緑色を呈する。S~NW側の割れ目24付近から40の間は、変質の程度が特に強く全体に白色~淡緑色を呈し、多くの割れ目は不明瞭である。貫入岩は暗緑~暗灰色を呈し、全体に細粒で粒径を肉眼では確認できない。花崗岩と貫入岩の境界は全体に不明瞭となっている。 主な割れ目は43条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向高角度で、このほかにN~SSE側にかけてはNE走向高角度南傾斜とNS走向高角度東傾斜、SW側ではNNW走向高角度南傾斜の割れ目が認められる。割れ目25, 40はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。割れ目25, 40は最大厚さ55~200mmの淡緑~暗緑色のガウジを挟んでいる。ガウジの中には長径20cmの扁平な花崗岩礫やφ2~3mmの円磨された石英、長石片が認められる。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色)②貫入岩(暗灰色)	RMR値	G.L. -323.4m~-324.7m 21.5 G.L. -324.7m~-326m 22.8	
風化	α	岩石試料番号	M324. 9R(花崗岩), M325. 1R(ガウジ), M324. 4R(花崗岩) M324. 9R(花崗岩), M324. 2R(花崗岩), M324. 5R(花崗岩) M324. 3R(ガウジ), M324. 4R(ガウジ)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			



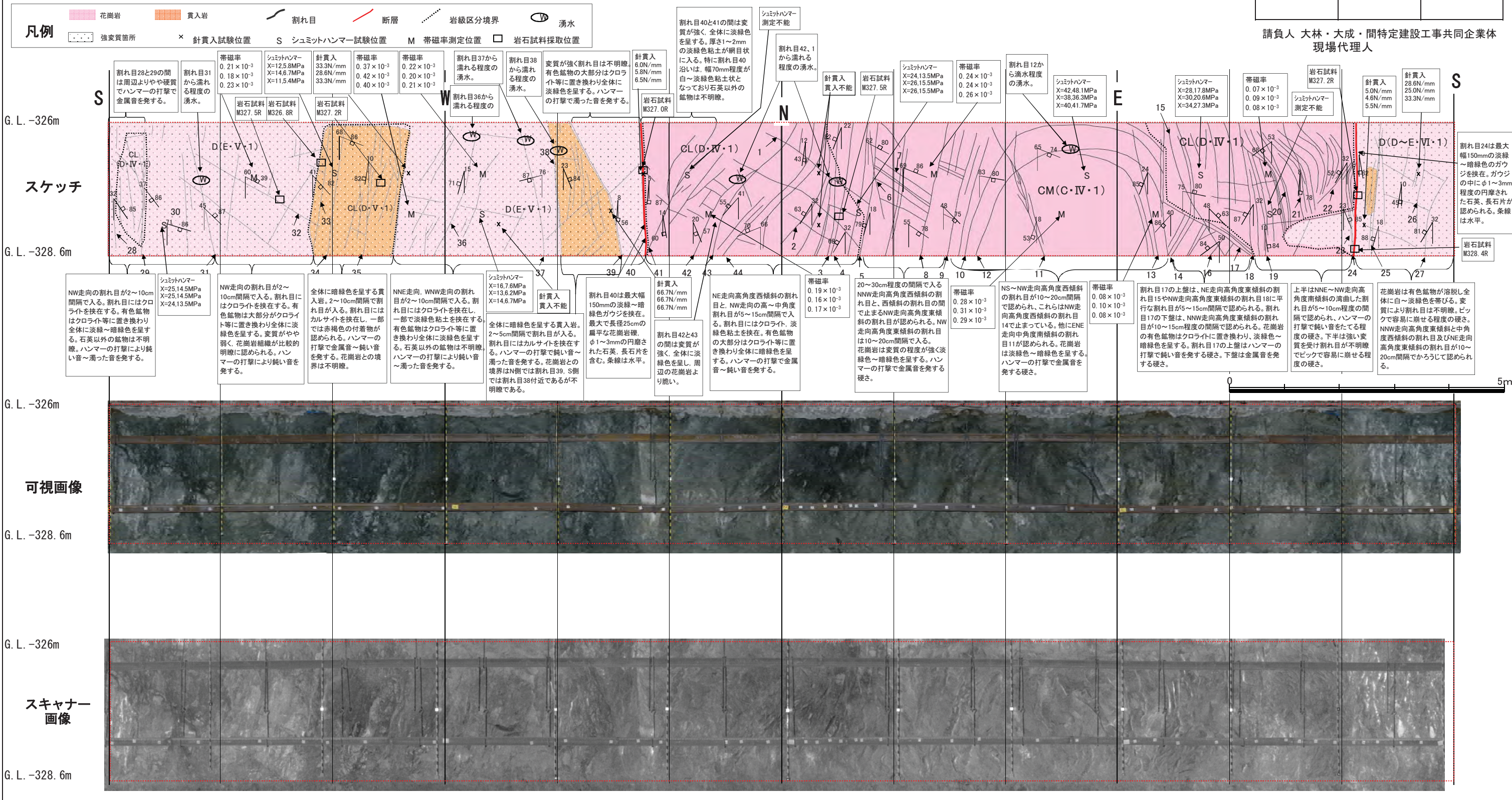
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090530

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号(注)	170	日時	2009/5/30 0:00~2:30	位置・深度	STEP262、263 G.L. -326.0 m~G.L. -328.6 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	------------------------	-------	--	--------	--



請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

スケッチ

可視画像

スキャナー画像

岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -326m~-327.3m CM/CL/D G.L. -327.3m~-328.6m CM/CL/D	特記事項 岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒花崗岩②貫入岩である。貫入岩はS側の割れ目24と25の間の一部、SW側の割れ目33付近から35付近の間、NW側の割れ目38付近と39の間に認められる。花崗岩の石英の粒径はφ2~7mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、S~NW側の割れ目24と40の間は変質の程度が強く、全体に白色~淡緑色を呈し、多くの割れ目は不明瞭である。貫入岩は暗緑~暗灰色を呈し、全体に細粒で粒径を肉眼では確認できない。花崗岩と貫入岩の境界はNW側の割れ目38、39では明瞭であるが、他の箇所では不明瞭となっている。 主な割れ目は44条である。割れ目の主要な走向傾斜はN~NEにかけてはNE走向高角度北傾斜、そのほかにはNS~NW走向高角度西傾斜となっており、このほかにW側でEW走向高角度南傾斜の割れ目11が認められる。割れ目24、40はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。割れ目24、40は最大厚さ70~150mmの淡緑~暗緑色のガウジを挟み、φ1~3mmの円磨された石英片や長石片、長径25cmの扁平な花崗岩礫を混入している。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色、淡桃色)②貫入岩(暗灰色)	RMR値	G.L. -326m~-327.3m 21.0 G.L. -327.3m~-328.6m 23.5	
風化	α	岩石試料番号	M327.2R(ガウジ)、M328.4R(ガウジ)、M327.5R(花崗岩) M327.5R(花崗岩)、M326.8R(花崗岩/貫入岩)、M327.2R(花崗岩/貫入岩)、M327.0R(ガウジ)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			



# A工区地質記載シート

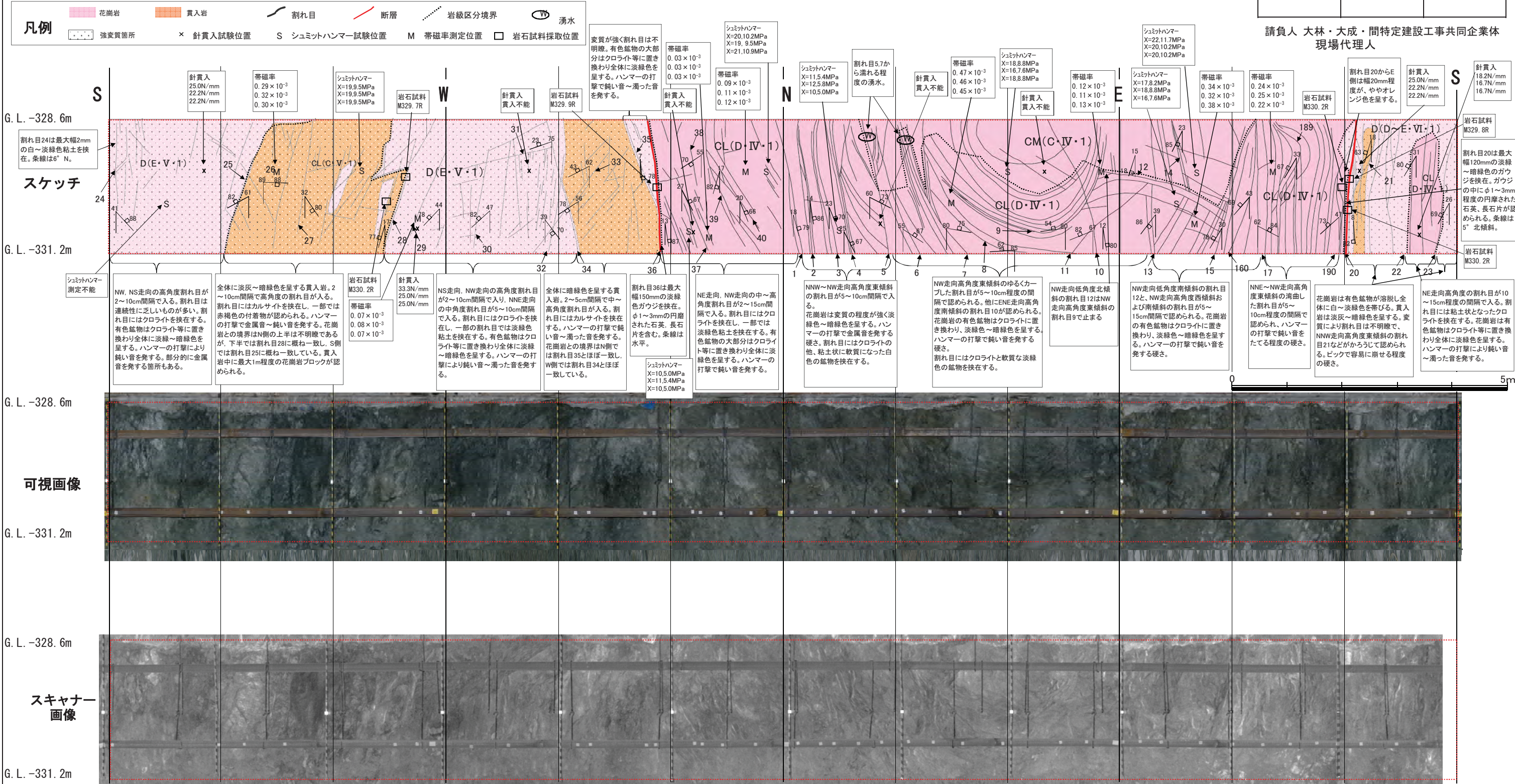
(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-09062

シート番号(注)	171	日時	2009/6/2 1:00~3:30	位置・深度	STEP264、265 G.L. -328.6 m~G.L. -331.2 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	-----------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人



岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -328.6m~-329.9m CM/CL/D	特記事項 岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒花崗岩②貫入岩である。貫入岩はS側の割れ目20付近と21付近の間、SW側の割れ目25付近から28付近の間、NW側の割れ目34付近から35の間に認められる。花崗岩の石英の粒径はφ2~7mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、S~NW側の割れ目20と36までの間は、変質の程度が特に強く全体に白色~淡緑色を呈し、割れ目は不明瞭で、2~5cm程度(最大10~15cm程度)の間隔である。貫入岩は淡灰~暗緑色を呈し、全体に細粒で粒径を肉眼では確認できない。花崗岩と貫入岩の境界はSW側では割れ目25、28とほぼ一致し、NW側では割れ目34、35とほぼ一致しているが、その他の箇所では花崗岩と貫入岩の境界は不明瞭である。主な割れ目は40条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向中~高角度東傾斜となっており、断層よりW側のSE~SではNS~NE走向高角度、NW~W側ではNS走向中~高角度の割れ目が認められる。割れ目20、36はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。割れ目20、36は最大厚さ15~150mmの淡緑~暗緑色のφ1~3mmの円摩された石英片や長石片を含むガウジを挟んでいる。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色、淡桃色)②貫入岩(暗灰色、淡灰色)	RMR値	G.L. -328.6m~-329.9m 22.8 G.L. -329.9m~-331.2m 23.5	
風化	α	岩石試料番号	M330.2R(花崗岩), M329.8R(貫入岩), M330.2R(貫入岩), M330.2R(貫入岩), M329.7R(貫入岩), M329.9R(貫入岩)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			

湧水は割れ目5、7から濡れる程度の量で認められた。  
岩級区分は、NE側の上半の一部は割れ目間隔が10~20cm程度でハンマーで金属音をたてる程度の硬さであることから、CM(C・IV・1)級と評価した。NW側の割れ目36からSE側の割れ目20の間の花崗岩と、S側の割れ目22と23の間の花崗岩は割れ目間隔が概ね5~15cm程度でハンマーの打撃で鈍い音を発する程度の硬さであることからCL(D・IV・1)級と評価した。SW側の割れ目25付近から28付近の間の貫入岩は割れ目間隔が2~10cm程度でハンマーの打撃で金属音~鈍い音を発する程度の硬さであることからCL(C・V・1)級と評価した。SSE~NW側の割れ目20から36の間の花崗岩と貫入岩は、割れ目が不明瞭であるか、割れ目間隔が2~15cm程度でハンマーの打撃で鈍い音~濁った音を発する程度の硬さであることからD(E・V・1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

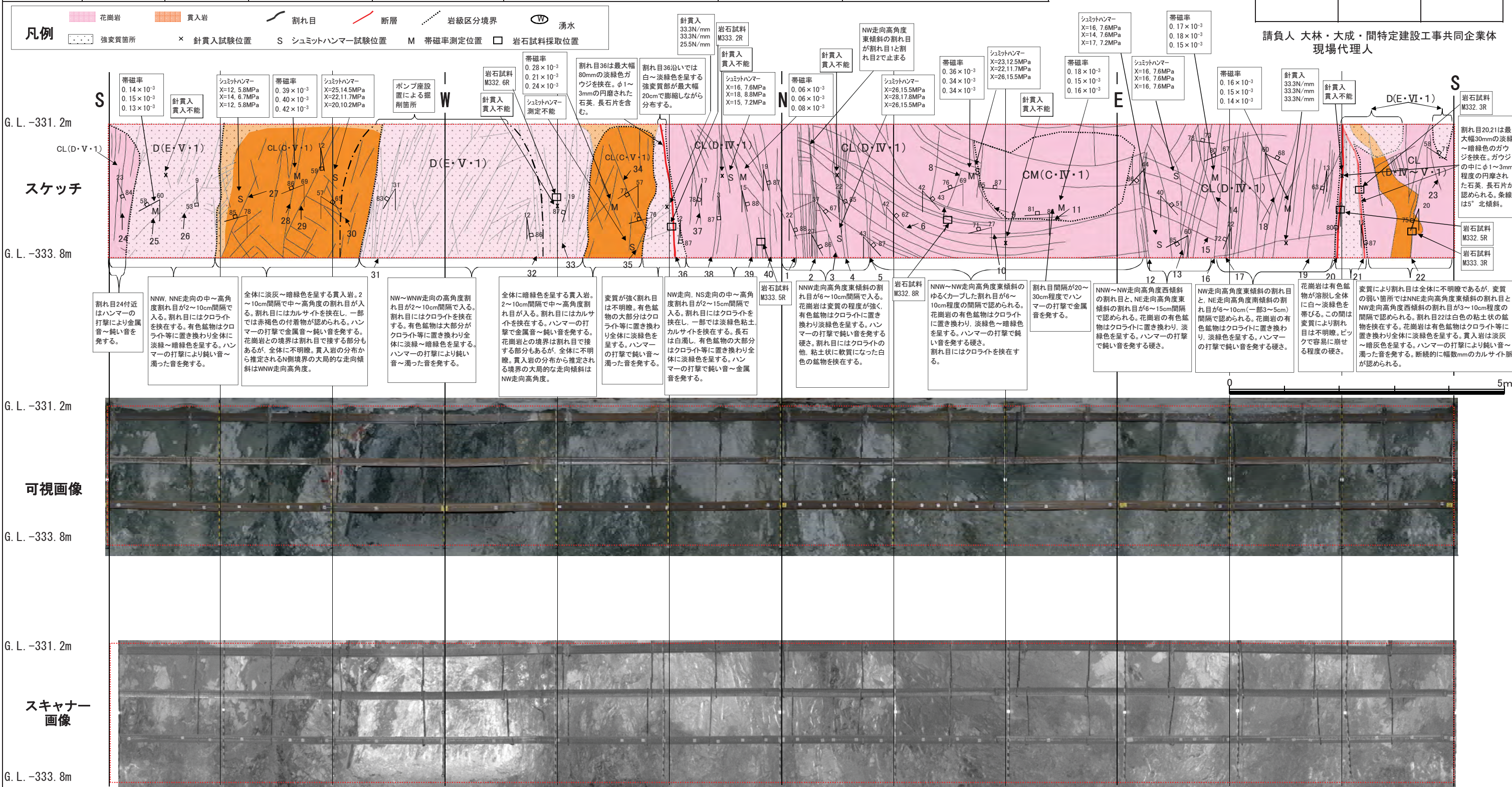
(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-09064

シート番号(注)	172	日時	2009/6/4 12:30~15:30	位置・深度	STEP266, 267 G.L. -331.2 m~G.L. -333.8 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	-------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人



岩種	花崗岩, 貫入岩	電研式岩級	G.L. -331.2m~-332.5m CM/CL/D G.L. -332.5m~-333.8m CM/CL/D	特記事項 岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒花崗岩②貫入岩である。貫入岩はS側の割れ目21付近と22の間、SW側の割れ目26付近から31付近の間、NW側の割れ目33付近から35付近の間に認められる。花崗岩の石英の粒径はφ2~7mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、SSE~NNW側の割れ目20と21の間、割れ目24付近と36の間は、変質の程度が強く全体に白色~淡緑色を呈し、割れ目間隔は2~10cm程度で、強変質箇所では割れ目が不明瞭である。貫入岩は淡灰~暗灰色を呈し、全体に細粒で粒径を肉眼では確認できない。花崗岩と貫入岩の境界は部分的に割れ目で接しているもの、大部分は不明瞭となっている。貫入岩の分布から大域的に推定される境界の走向は、S側では概ねNS走向、SW側では概ねEW走向、NW側ではNW走向となっている。 主な割れ目は40条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向中~高角度東傾斜となっており、SW側の貫入岩付近ではNE走向中~高角度、W側ではEW走向高角度の割れ目が認められる。割れ目20, 21, 36はガウジや糸線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色, 淡緑色, 淡桃色) ②貫入岩(暗灰色, 淡灰色)	RMR値	G.L. -331.2m~-332.5m 23.5 G.L. -332.5m~-333.8m 23.5	
風化	α	岩石試料番号	M332.3R(ガウジ), M332.5R(ガウジ), M332.8R(花崗岩), M333.3R(貫入岩), M332.6R(花崗岩), M333.2R(ガウジ), M333.5R(花崗岩)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			

割れ目20, 21, 36は厚さ10~80mmの淡緑~暗緑色のガウジを挟んでいる。ガウジの中にはφ1~3mmの円磨された石英片や長石片が認められる。  
湧水はほとんど認められなかった。  
岩級区分は、NE側の一部の花崗岩は、割れ目間隔が20~30cm程度でハンマーで金属音をたてる程度の硬さであることから、CM(C・IV・1)級と評価した。NW側の割れ目36からSE側の割れ目20の間の花崗岩と、S側の割れ目21付近から24付近までの花崗岩と貫入岩は、割れ目間隔が概ね6~15cmで、ハンマーの打撃で鈍い音を発する程度の硬さであることからCL(D・IV・V・1)級と評価した。SW側の割れ目26付近から31付近の間、NW側の割れ目33付近から35付近の間の貫入岩は割れ目間隔が2~10cm程度でハンマーの打撃で金属音~鈍い音を発する程度の硬さであることからCL(C・V・1)級と評価した。上記以外のSSE~NW側の割れ目20と21の間、割れ目24から36付近の間の花崗岩と貫入岩は割れ目間隔が2~10cm程度でハンマーの打撃で鈍い音~濁った音を発する程度の硬さであることからD(E・V・1)級と評価した。



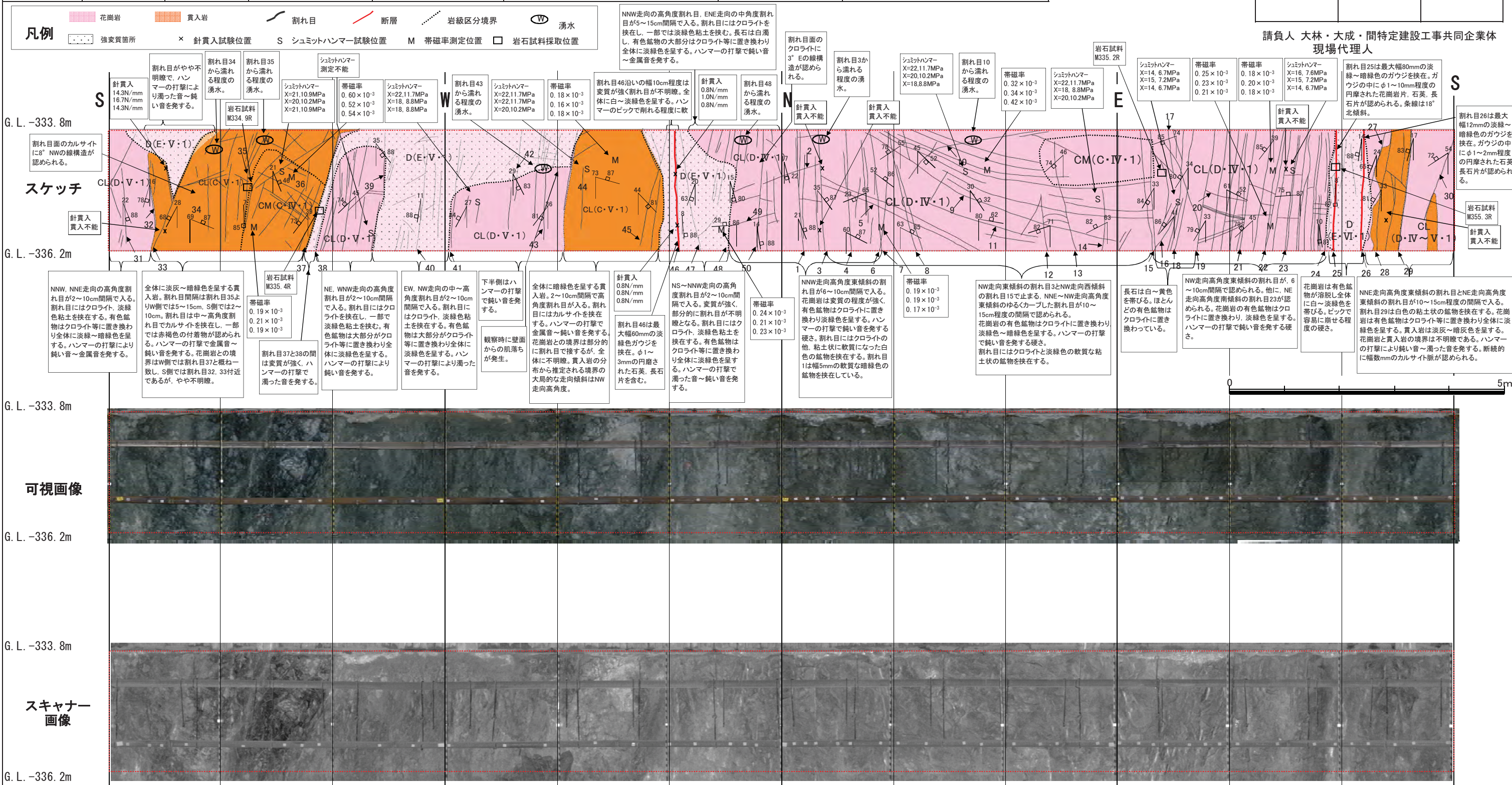
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090609

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号(注)	173	日時	2009/6/9 13:00~16:00	位置・深度	STEP268, 269 G.L. -333.8 m~G.L. -336.2 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	-------------------------	-------	---	--------	--



岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -333.8m~-334.9m CM/CL/D G.L. -334.9m~-336.2m CM/CL/D	特記事項 岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒花崗岩②貫入岩である。貫入岩はS側の割れ目28付近、30付近、SW側の割れ目33付近から37付近の間、NW側の割れ目43付近から45付近の間に認められる。花崗岩の石英の粒径はφ2~7mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し、有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、S側の割れ目25付近と26付近の間、SSW~NNW側の割れ目33付近から46の間は、変質の程度が強く全体に白色~淡緑色を呈し、強変質箇所では割れ目が不明瞭である。E側の割れ目15と19の間は花崗岩は、長石が白~黄色を呈する。貫入岩は淡灰~暗緑色を呈し、全体に細粒で粒径を肉眼では確認できない。花崗岩と貫入岩の境界は部分的に割れ目で接しているもの、大部分は不明瞭となっている。貫入岩の分布から大域的に推定される境界の走向は、S側では概ねNNW走向、SW側では概ねEW走向、NW側ではNW走向となっている。 主な割れ目は50条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向高角度東傾斜とNE走向高角度東傾斜。W側ではEW走向高角度の割れ目が認められる。割れ目25、26、46はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。割れ目25、26、46は最大80mmの厚さの淡緑色~暗緑色のガウジを挟んでいる。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色)②貫入岩(暗灰色、淡灰色)	RMR値	G.L. -333.8m~-334.9m 21.3 G.L. -334.9m~-336.2m 23.5	
風化	α	岩石試料番号	M334.9R(貫入岩), M335.4R(花崗岩), M335.2R(花崗岩), M335.3R(ガウジ)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			



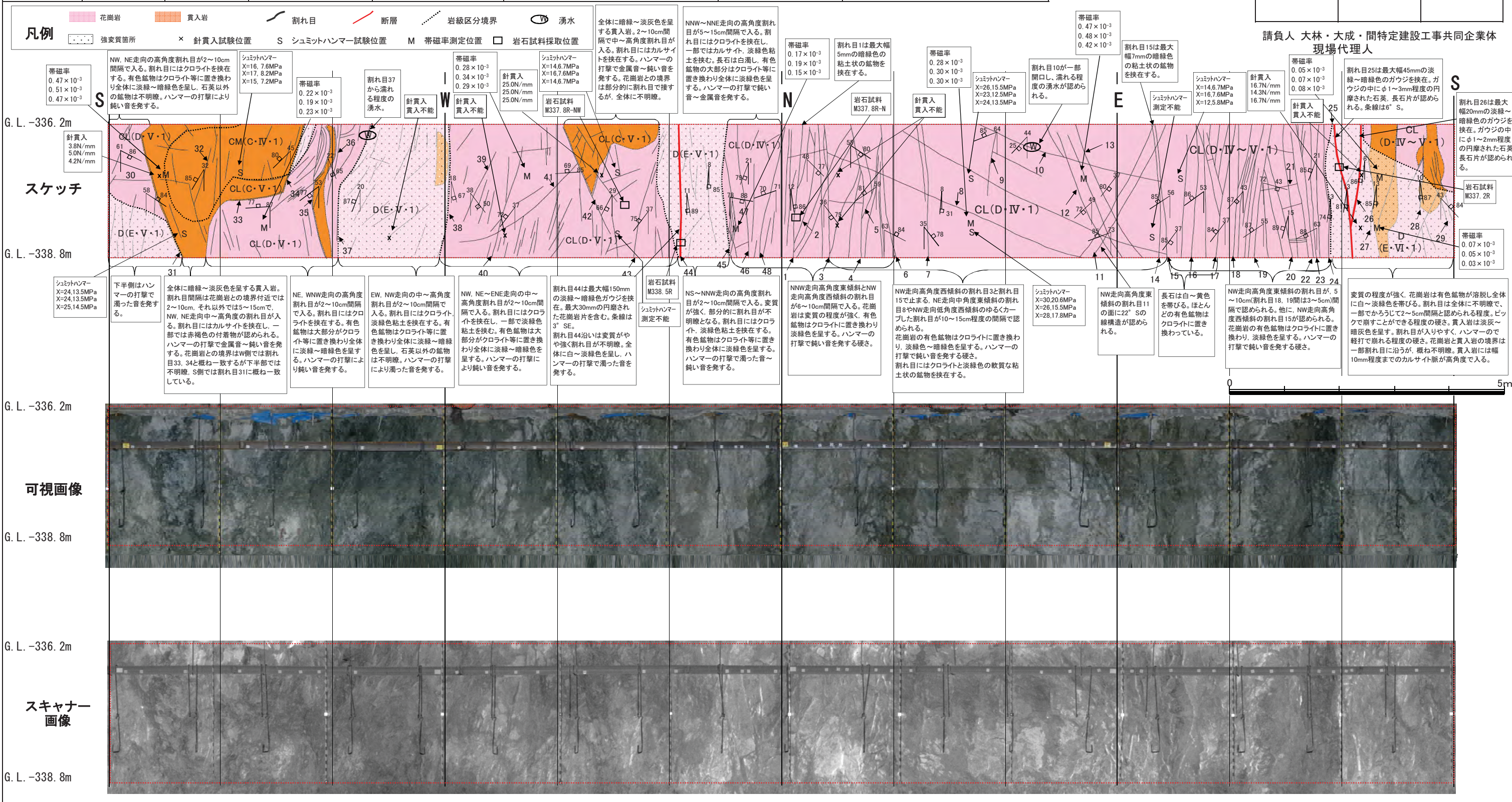
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090611

シート番号(注)	174	日時	2009/6/11 18:50~20:30	位置・深度	STEP270, 271 G.L. -336.2 m~G.L. -338.8 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員



岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -336.2m~-337.5m CM/CL/D	特記事項
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色)②貫入岩(暗灰色、淡灰色)	RMR値	G.L. -336.2m~-337.5m 22.0 G.L. -337.5m~-338.8m 23.5	
風化	α	岩石試料番号	M337. 8R-NW(花崗岩), M338. 5R(貫入岩), M337. 8R-N(花崗岩), M337. 2R(貫入岩)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			

岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒花崗岩②貫入岩である。貫入岩はSW側の割れ目31付近から34付近の間、NW側の割れ目42付近から43付近の間の上半側、S側の割れ目27から29付近に認められ、SW側の割れ目35付近、W側の割れ目38付近ではブロック状に分布している。花崗岩の石英の粒径はφ2~7mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、SSE~NNW側の割れ目24と31の間、割れ目37と38の間、割れ目44付近と45の間は、変質の程度が強く全体に白色~淡緑色を呈し、割れ目は不明瞭である。貫入岩は淡灰~暗緑色を呈し、全体に細粒で粒径を肉眼では確認できない。花崗岩と貫入岩の境界は部分的に割れ目で接しているものの、大部分は不明瞭となっている。貫入岩の分布から大局的に推定される境界の走向は、S側では概ねNS走向、SW、NW側では概ねNW走向となっている。

主な割れ目は48条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向、NE走向高角度東傾斜となっており、W側ではEW走向高角度の割れ目が認められる。割れ目25、26、44はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。割れ目25、26、44は最大厚さ150mmの淡緑~暗緑色のガウジを挟んでいる。

ガウジの中には円摩されたφ1~3mmの石英片や長石片、φ30mmまでの花崗岩片が認められる。湧水は、割れ目10、37から濡れる程度の量で認められた。岩級区分は、SW側の割れ目31付近から34付近の貫入岩の一部は割れ目間隔が5~15cmでハンマーの打撃で金属音~鈍い音を発する程度の硬さであることから、CM(C・IV・1)級と評価した。S側の一部の上半の花崗岩、SW側の割れ目31付近から37の間の花崗岩と貫入岩、W側の割れ目38付近からNW側の割れ目44付近の間の花崗岩と貫入岩、NW側の割れ目45付近からSE側の割れ目24の間の花崗岩は、割れ目間隔が2~15cm程度でハンマーの打撃で金属音~鈍い音を発する程度の硬さであることからCL(C・D・IV~V・1)級と評価した。W側の割れ目37から38付近の間、NW側の割れ目44付近から45の間、SE側の割れ目24付近からS側の割れ目31付近の間の花崗岩と貫入岩は、割れ目が不明瞭であるか、かろうじて認められる箇所割れ目間隔が2~10cm程度で、ハンマーの打撃で濁った音~鈍い音を発する程度の硬さであることからD(E・V・1)級と評価した。



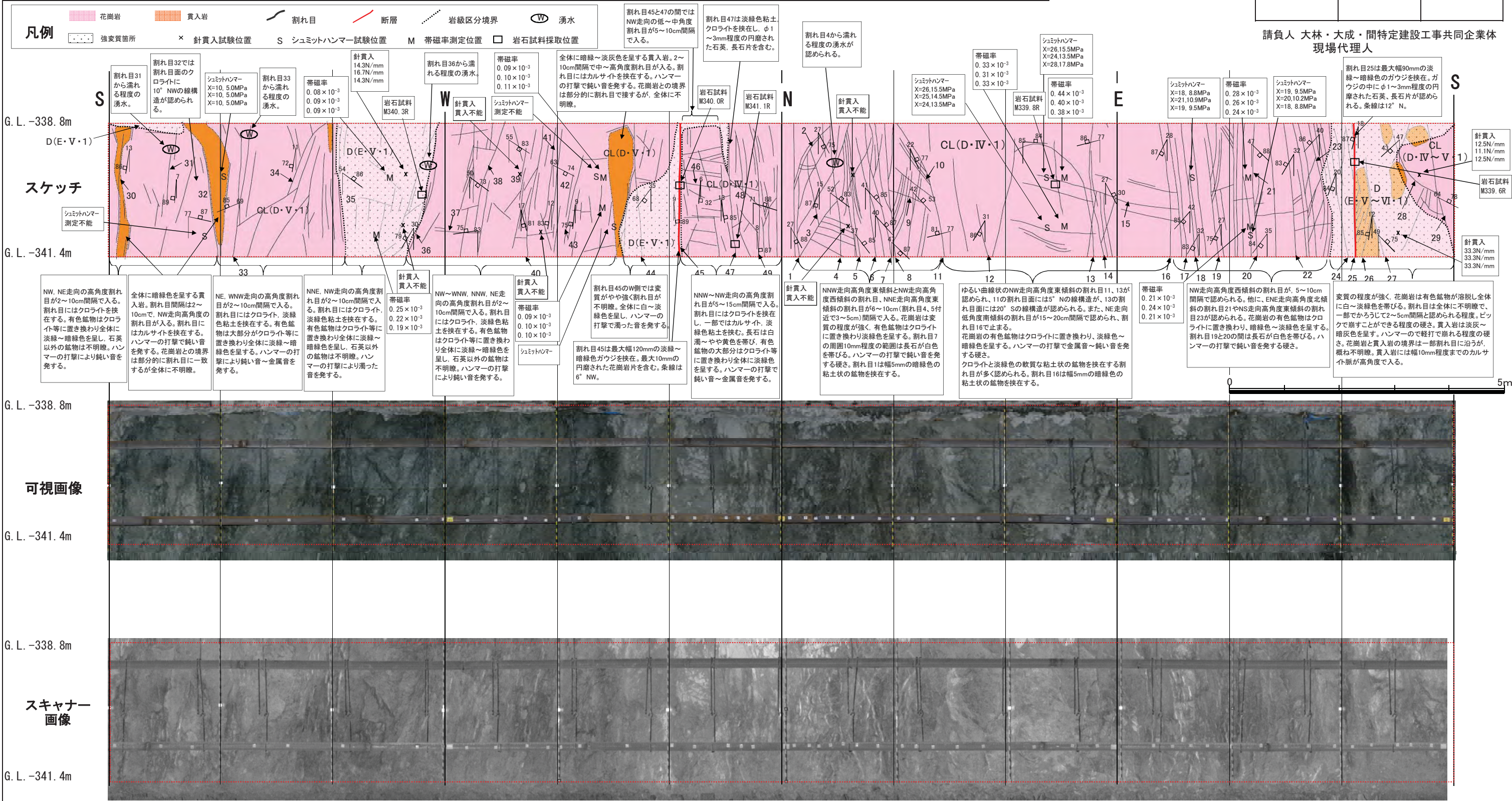
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090615

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号(注)	175	日時	2009/6/15 13:00~16:00	位置・深度	STEP272, 273 G.L. -338.8 m~G.L. -341.4 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	--------------------------	-------	---	--------	--



請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -338.8m~-340.1m CL/D G.L. -340.1m~-341.4m CL/D	特記事項	岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒花崗岩②貫入岩である。貫入岩はS側の割れ目30付近、SW側の割れ目32付近から33付近の間、割れ目35付近、NW側の割れ目44付近、SE側の割れ目25から29付近の間に認められる。花崗岩の石英の粒径はφ2~7mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、SW側の割れ目35と割れ目36の間、NW側の割れ目44付近から割れ目45の間、SSE~NNW側の割れ目23付近と29の間、変質の程度が強く全体に白色~淡緑色~暗緑色を呈し、割れ目間隔は2~10cm程度で、最も強変質箇所では割れ目が不明瞭である。貫入岩は淡灰~暗緑色を呈し、全体に細粒で粒径を肉眼では確認できない。花崗岩と貫入岩の境界は割れ目25や割れ目27など一部で割れ目で接しているもの、大部分は不明瞭となっている。貫入岩の分布から大域的に推定される境界の走向は、S側では概ねNS走向、SW、NW側では概ねNW走向となっている。 主な割れ目は49条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向、NE走向高角度東傾斜となっており、W側ではEW走向高角度の割れ目が認められる。割れ目25、45はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色)②貫入岩(暗灰色、淡灰色)	RMR値	G.L. -338.8m~-340.1m 22.0 G.L. -340.1m~-341.4m 23.5		
風化	α	岩石試料番号	M340.3R(花崗岩), M340.0R(ガウジ), M341.1R(花崗岩・挟在物), M339.8R(花崗岩), M339.6R(ガウジ)		
変質	3~4	採水試料番号	-		
湧水	滴水程度				



# A工区地質記載シート

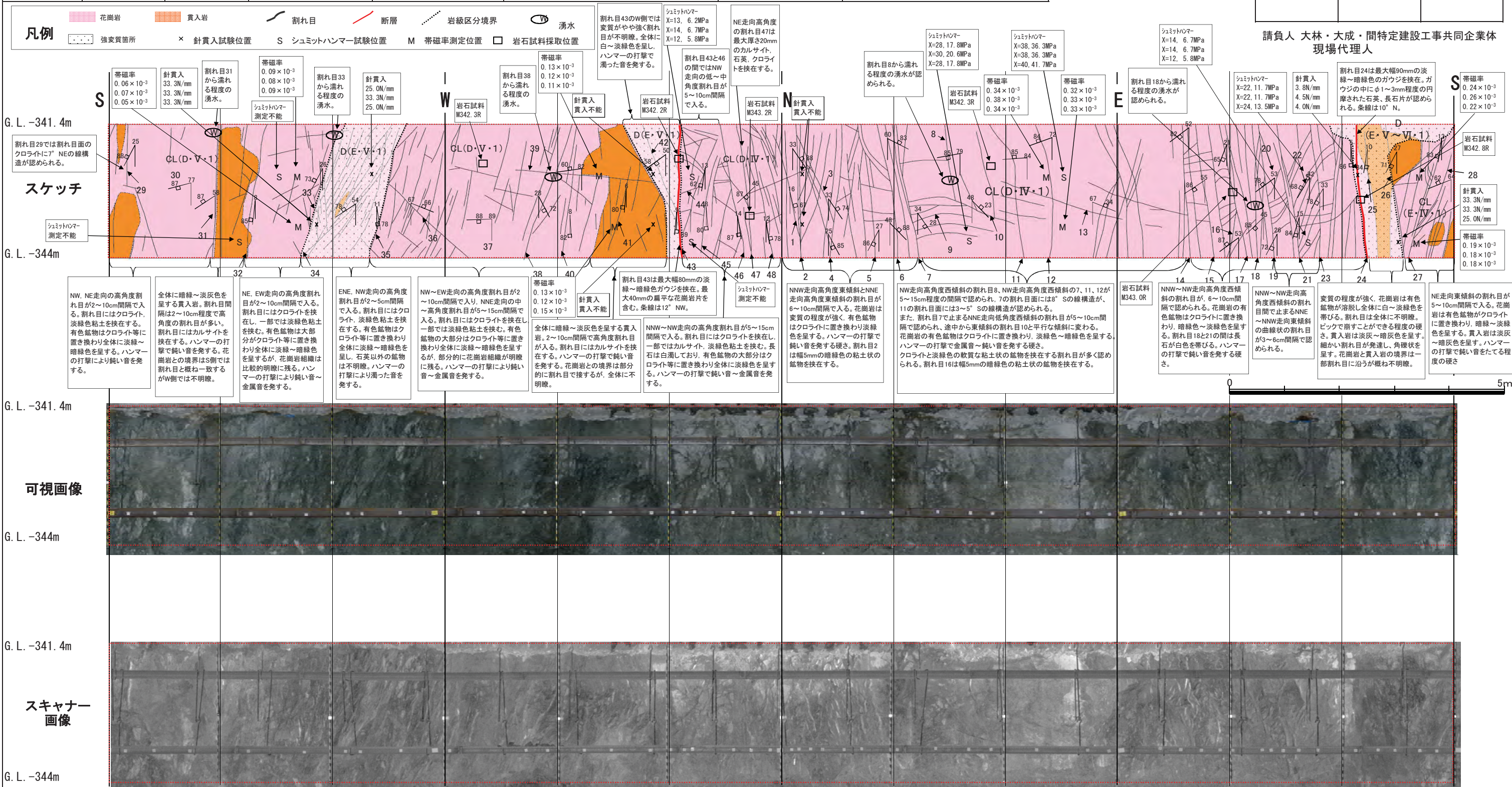
(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090617

シート番号(注)	176	日時	2009/6/17 9:30~12:00	位置・深度	STEP274, 275 G.L. -341.4 m~G.L. -344.0 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	-------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人



岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -341.4m~-342.7m CL/D G.L. -342.7m~-344m CL/D	特記事項 岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒花崗岩②貫入岩である。貫入岩はSE側の割れ目24付近から26付近、S側の割れ目29付近、SW側の割れ目31付近から32付近の間、割れ目34付近、NW側の割れ目40付近から42付近の間に認められる。花崗岩の石英の粒径はφ2~7mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、SSE~NNW側の割れ目24から26付近の間、割れ目33から35の間、割れ目42から43の間の花崗岩は、変質の程度が強く白色~淡緑色を呈する。強変質箇所では花崗岩に入る割れ目が不明瞭となる箇所がある。貫入岩は淡灰~暗緑色を呈し、全体に細粒で粒径を肉眼では確認できない。花崗岩と貫入岩の境界は部分的に割れ目で接しているもの、大部分は不明瞭となっている。貫入岩の分布から大局的に推定される境界の走向は、S側では概ねNS走向、SW側ではNE走向、NW側では概ねNW走向となっている。 主な割れ目は48条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向高角度となっており、このほかにSSE~S側ではNE走向の高角度割れ目、S~W側ではEW走向の高角度割れ目が認められる。割れ目24、43はガウジや糸線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色)②貫入岩(暗灰色、淡灰色)	RMR値	G.L. -341.4m~-342.7m 21.8 G.L. -342.7m~-344m 22.8	
風化	α	岩石試料番号	M342.3R(花崗岩), M342.2R(貫入岩), M343.2R(花崗岩・挟在物), M342.3R(花崗岩), M343.0R(花崗岩), M342.8R(貫入岩)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	濡れる程度			



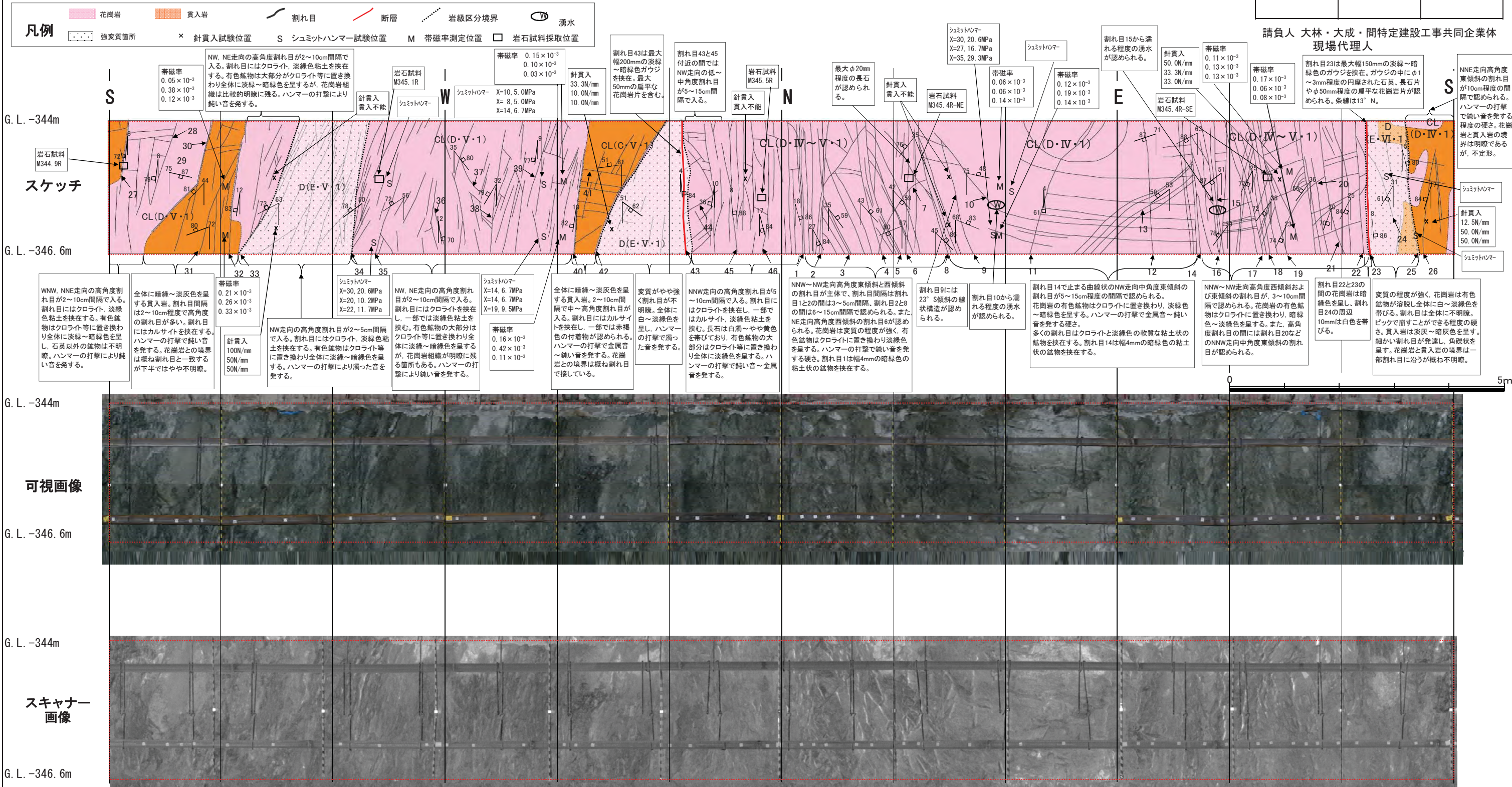
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090623

シート番号(注)	177	日時	2009/6/23 23:30~2:00	位置・深度	STEP276, 277 G.L. -344.0 m~G.L. -346.6 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	-------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員



岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -344m~-345. 3m CL/D	特記事項 岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒花崗岩②貫入岩である。貫入岩はSW側の割れ目30付近から32付近の間、NW側の割れ目40付近から42付近の間、SE側の割れ目23付近からS側の割れ目27の間に認められる。花崗岩の石英の粒径はφ2~7mm程度で、NE側付近ではφ20mm程度の長石が認められる。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、SSE~NNW側の割れ目23から25の間、割れ目33と34の間、割れ目42から43沿いのW側は変質の程度が強く、割れ目が不明瞭で白色~淡緑色を呈する。貫入岩は淡灰~暗緑色を呈し、全体に細粒で粒径を肉眼では確認できない。花崗岩と貫入岩の境界は概ね割れ目で接しているが、S側では境界は明瞭であるが不定形な形状をなしている。貫入岩の分布から大局的に推定される境界の走向は、S側では概ねNS走向、SW側ではNE走向、NW側では概ねNW走向となっている。 主な割れ目は46条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向高角度で、S~SW側ではNE走向の高角度割れ目が認められる。割れ目23、43はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色)②貫入岩(暗灰色、淡灰色)	RMR値	G.L. -344m~-345. 3m 23. 5 G.L. -345. 3m~-346. 6m 22. 0	
風化	α	岩石試料番号	M344. 9R(花崗岩/貫入岩), M345. 1R(花崗岩), M345. 5R(花崗岩), M345. 4R-NE(花崗岩), M345. 4R-SE(花崗岩)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	濡れる程度			



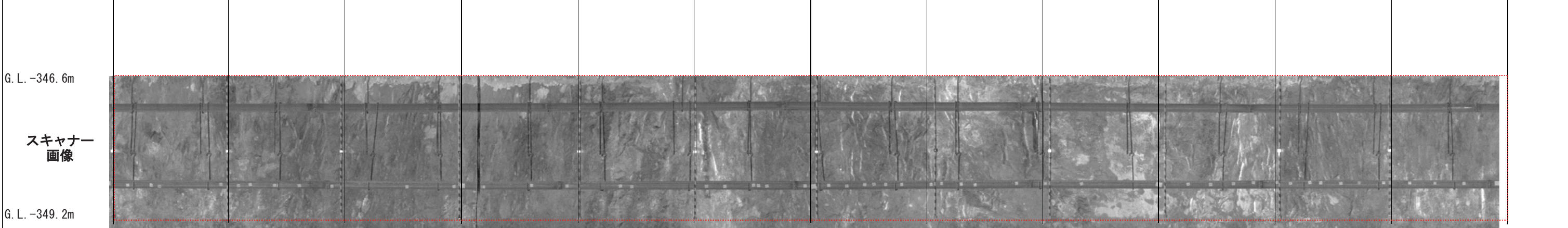
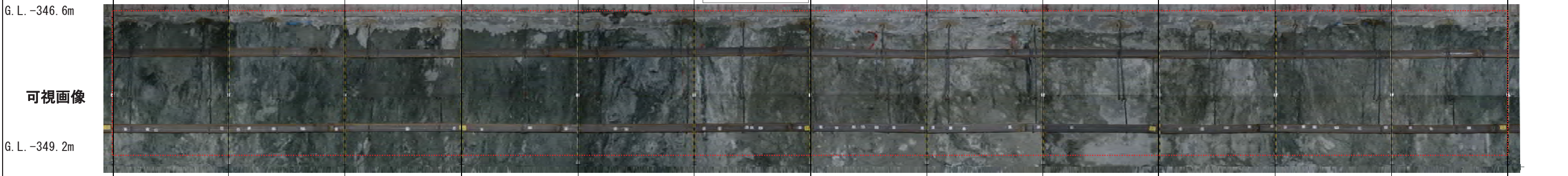
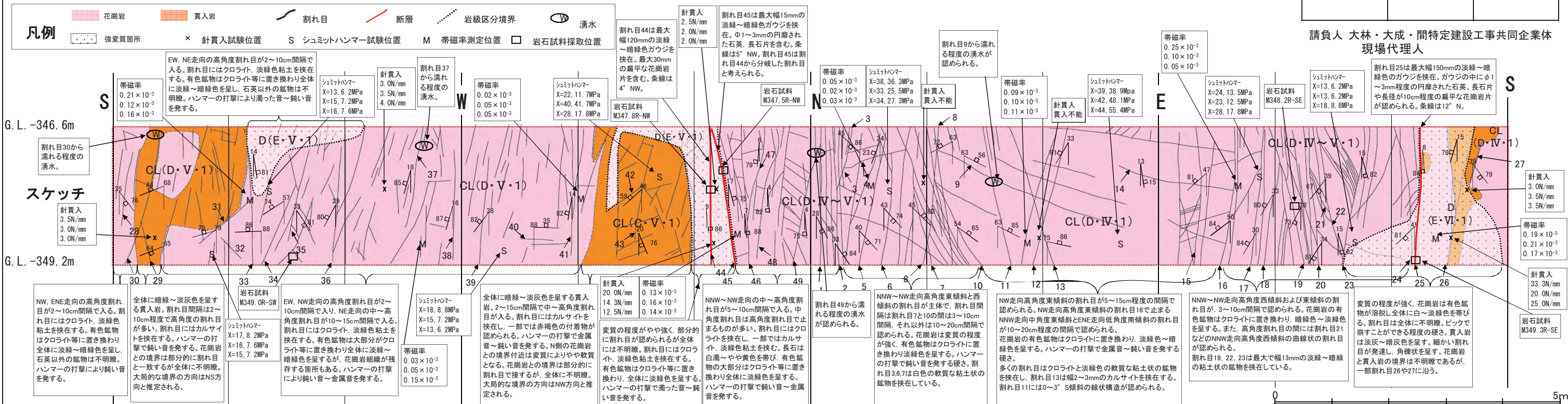
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090625

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号(注)	178	日時	2009/6/25 4:30~7:00	位置・深度	STEP278, 279 G.L. -346.6 m~G.L. -349.2 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	------------------------	-------	---	--------	--



岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -346.6m~-347.9m CL/D G.L. -347.9m~-349.2m CL/D	特記事項 岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒花崗岩②貫入岩である。貫入岩はSW側の割れ目30付近から33付近の間、NW側の割れ目41付近から44付近の間、SE側の割れ目25付近、割れ目26付近から27付近の間に認められる。花崗岩の石英の粒径はφ2~7mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け長石は概ね白濁し、有色鉱物はクロライトに置き換わり、淡緑色～暗緑色を呈する。特に、SSE~NNW側は変質の程度が強く、最も変質の程度が強い割れ目25から27付近と、SWの上半の一部、割れ目44付近から45の間は、割れ目が不明瞭で白色～淡緑色を呈する。貫入岩は淡灰～暗緑色を呈し、全体に細粒で粒径を肉眼では確認できない。花崗岩と貫入岩の境界は割れ目26など割れ目面で接する箇所もあるが、全体に不明瞭である。貫入岩の分布から大域的に推定される境界の走向は、S側、SW側では概ねNS走向、NW側では概ねNW走向となっている。 主な割れ目は49条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向高角度である。このほかにS~SW側ではNE走向の高角度割れ目、W側ではEW走向の高角度割れ目、NW側ではNE走向の中～高角度割れ目が認められる。割れ目25、44、45はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色)②貫入岩(暗灰色、淡灰色)	RMR値	G.L. -346.6m~-347.9m 23.3 G.L. -347.9m~-349.2m 23.8	
風化	α	岩石試料番号	M349.0R-SW(花崗岩), M347.8R-NW(貫入岩), M347.5R-NW(貫入岩), M348.2R-SE(花崗岩), M349.3R-SE(貫入岩)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	濡れる程度			



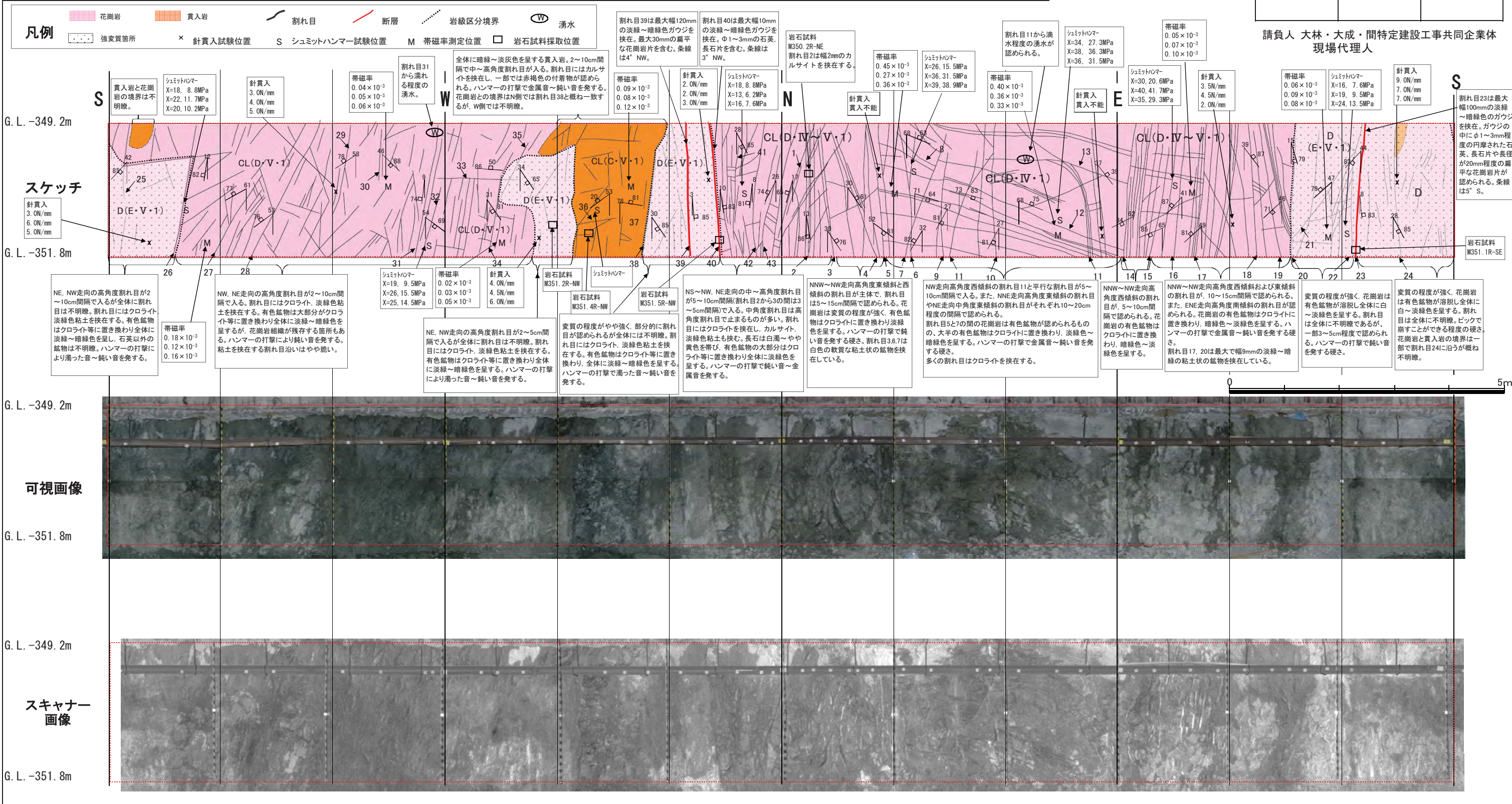
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090626

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号(注)	179	日時	2009/6/26 22:30~1:00	位置・深度	STEP280, 281 G.L. -349.2 m~G.L. -351.8 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	-------------------------	-------	---	--------	--



請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

岩種	花崗岩, 貫入岩	電研式岩級	G.L. -349.2m~-350.5m CL/D G.L. -350.5m~-351.8m CL/D	特記事項 岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒花崗岩②貫入岩である。貫入岩はSW側の割れ目25付近、NW側の割れ目35付近から38付近の間、SE側の割れ目24付近に認められる。花崗岩の石英の粒径はφ2~7mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、SSE~SSW側の割れ目20付近から26付近、NW側の割れ目35付近から40までの間は、変質の程度が強く割れ目間隔は2~10cm程度で、最も強変質箇所では割れ目が不明瞭で白色~淡緑色を呈する。貫入岩は淡灰~暗緑色を呈し、全体に細粒で粒徑を肉眼では確認できない。花崗岩と貫入岩の境界は割れ目で接する箇所もあるが、全体に不明瞭である。貫入岩の走向はS~SW側では概ねNS走向、NW側では概ねNW走向となっている。 主な割れ目は43条である。割れ目の主要な走向傾斜はNNW~NW走向高角度西傾斜および東傾斜である。他には、SE~SSW側でNE走向の高角度割れ目、NW側ではNE走向の中~高角度割れ目、NE~E側ではNE~EW走向高角度割れ目が認められる。割れ目23, 39, 40はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色, 淡緑色) ②貫入岩(暗灰色, 淡灰色)	RMR値	G.L. -349.2m~-350.5m 21.5 G.L. -350.5m~-351.8m 23.8	
風化	α	岩石試料番号	M351. 2R-NW(花崗岩), M351. 4R-NW(貫入岩), M351. 5R-NW(ガウジ), M350. 2R-NE(花崗岩), M351. 5R-SE(ガウジ)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			



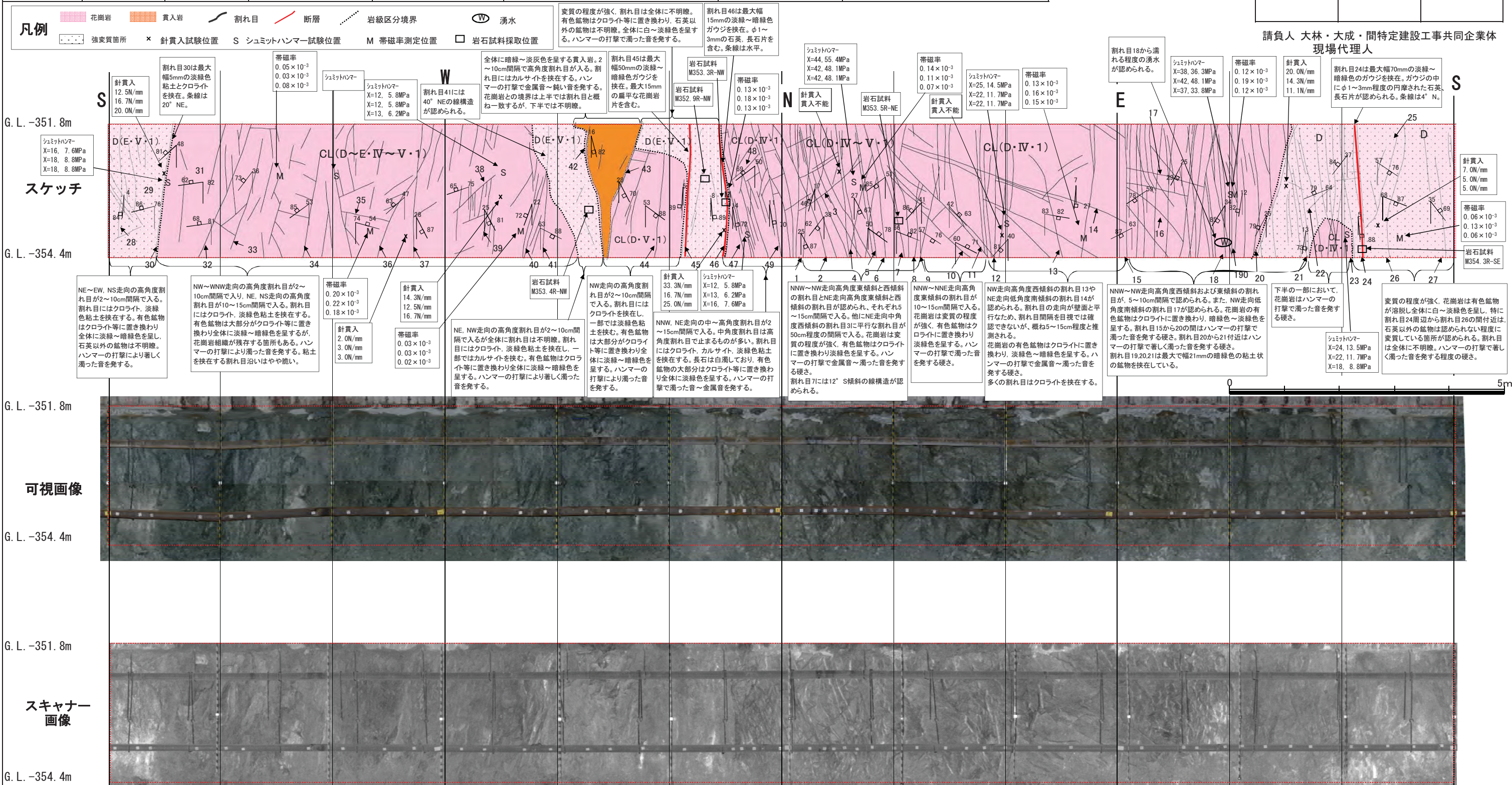
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090702

シート番号(注)	180	日時	2009/7/2 5:00~7:50	位置・深度	STEP282, 283 G.L. -351.8 m~G.L. -354.4 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	-----------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員



岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -351.8m~-353.1m CL/D G.L. -353.1m~-354.4m CL/D	<b>特記事項</b> 岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒花崗岩②貫入岩である。貫入岩はNW側の割れ目42付近から43付近の間に認められる。花崗岩の石英の粒径はφ2~7mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、NW側の割れ目41付近から42付近までの間、割れ目45付近から46付近までの間、SE~S側の割れ目20付近から30の間の花崗岩は、変質の程度が強く石英以外の鉱物は溶脱し、白色~淡緑色を呈する。この間の割れ目の間隔は2~10cm程度または割れ目が不明瞭となっている。貫入岩は淡灰~暗緑色を呈し、全体に細粒で粒径を肉眼では確認できない。花崗岩と貫入岩の境界は割れ目と接する箇所もあるが、全体に不明瞭である。貫入岩の大局的な分布方向は上位の深度も含めた分布状況などから、概ねNW走向と推定される。 主な割れ目は49条である。割れ目の主要な走向傾斜はNNW~NW走向高角度、NE走向、NS走向の高角度割れ目が認められる。割れ目24, 45, 46はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。条線は水平~4°Nである。 割れ目24, 45, 46は最大厚さ70mmの淡緑~暗緑色のガウジを挟んでいる。ガウジには長径が15mm程度の扁平な小判状の花崗岩片や、φ1~3mm程度の石英片や長石片が混入する。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色)②貫入岩(暗灰色、淡灰色)	RMR値	G.L. -351.8m~-353.1m 24.8 G.L. -353.1m~-354.4m 22.5	
風化	α	岩石試料番号	M353. 4R-NW(花崗岩), M352. 9R-NW(花崗岩), M353. 3R-NW(ガウジ), M353. 5R-NE(花崗岩), M354. 3R-SE(ガウジ)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	濡れる程度			

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人



# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

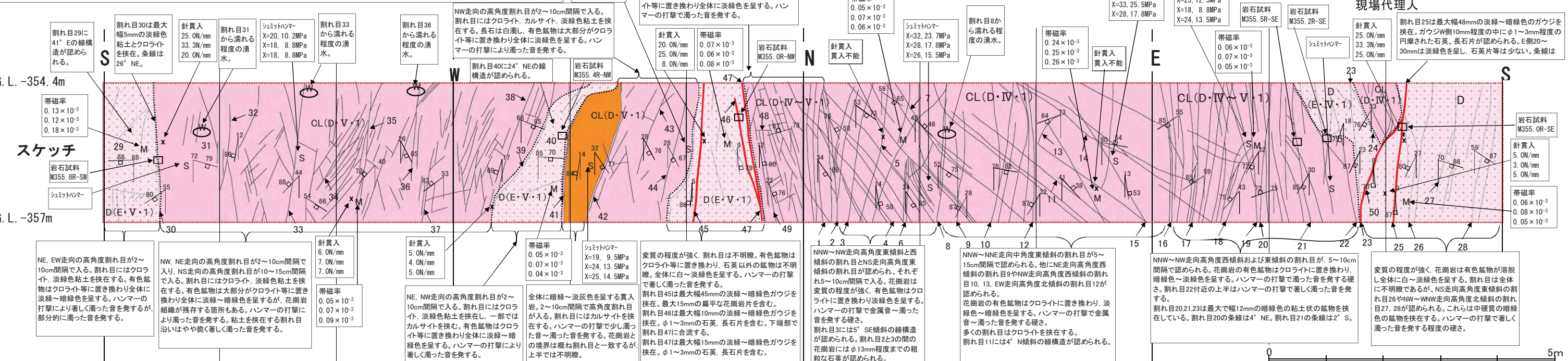
A3-請負-計測工(地質)-090704

総括監督員	主任監督員	監督員

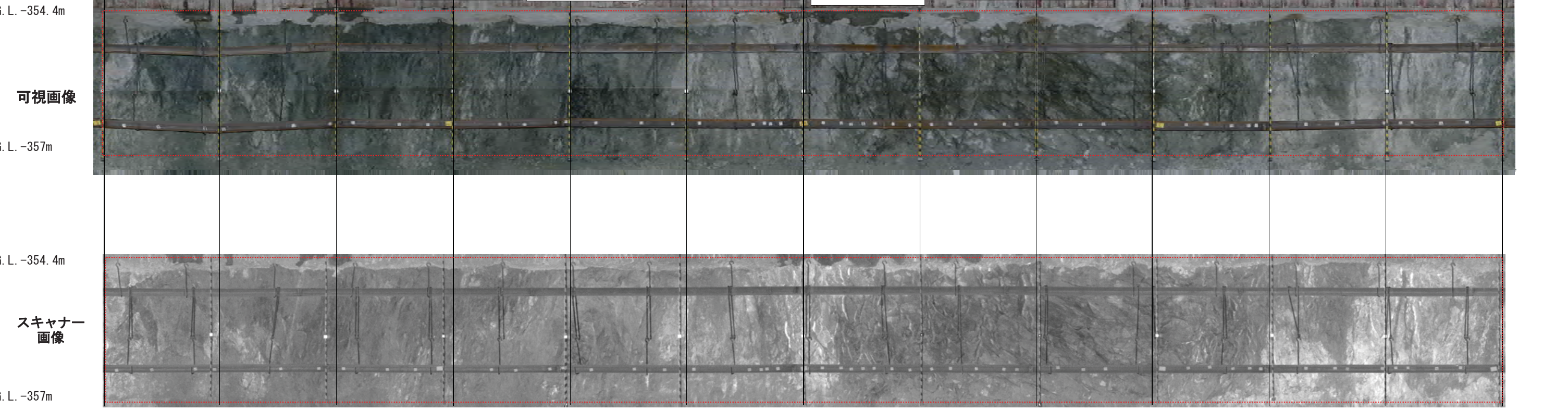
シート番号(注)	181	日時	2009/7/4 13:00~16:00	位置・深度	STEP284, 285 G.L. -354.4 m~G.L. -357.0 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	-------------------------	-------	---	--------	--

## 凡例

- 花崗岩 (ピンク色)
- 貫入岩 (オレンジ色)
- 割れ目 (黒線)
- 断層 (赤線)
- 岩級区分境界 (点線)
- 湧水 (W)
- 強変質箇所 (点線)
- 針貫入試験位置 (X)
- S シュミットハンマー試験位置
- M 帯磁率測定位置
- 岩石試料採取位置 (□)



請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人



岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -354.4m~-355.7m CL/D G.L. -355.7m~-357m CL/D	特記事項 岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒~粗粒花崗岩②貫入岩である。貫入岩はNW側の割れ目41付近から42付近の間に認められる。花崗岩の石英の粒径は概ねφ2~7mm程度であるが、NE側の一部ではφ13mmまでの石英が認められる。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わり、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、NW側の割れ目39付近から41付近までの間、割れ目45付近から47付近までの間、SE~S側の割れ目23付近から30の間は、変質の程度が強く、有色鉱物は溶脱し白色~淡緑色を呈している。割れ目間隔は2~10cm程度で、最も強変質箇所では割れ目が不明瞭である。貫入岩は淡灰~暗緑色を呈し、全体に細粒で粒径を肉眼では確認できない。花崗岩と貫入岩の境界は概ね割れ目で接するが、不明瞭な箇所もある。主な割れ目は49条である。割れ目の主要な走向傾斜はNNW~NW走向高角度で、NE走向やNS走向の高角度割れ目も認められる。また、NE側ではNNW~NNE走向中角度東傾斜の割れ目が認められ、S~SW側ではEW走向の高角度割れ目が認められる。
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(暗緑色、淡緑色)②貫入岩(暗灰色、淡灰色)	RMR値	G.L. -354.4m~-355.7m 22.5 G.L. -355.7m~-357m 23.0	
風化	α	岩石試料番号	M355. 8R-SW(花崗岩), M355. 4R-NW(花崗岩), M355. 0R-NW(ガウジ), M355. 5R-SE(粘土), M355. 2R-SE(花崗岩), M355. 0R-SE(ガウジ)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	濡れる程度			

割れ目25, 45, 46, 47, 50はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。割れ目25, 45, 46, 47, 50は最大厚さ48mmの淡緑~暗緑色のガウジを挟んでいる。ガウジには長径が15mm程度の扁平な小判状の花崗岩片や、φ1~3mm程度の石英片や長石片が混入する。

湧水は割れ目8, 31, 33, 36から濡れる程度の量で認められた。

岩級区分は、S側の割れ目30付近からNW側の割れ目39付近の間花崗岩、NW側の割れ目41から45付近の間の貫入岩と花崗岩、NNW側の割れ目47からSE側の割れ目23付近の間花崗岩は、割れ目間隔が2~15cmでハンマーの打撃で濡った音~少し濡った音が発する程度の硬さであることからCL(C~D・IV~V・1)級と評価した。NW側の割れ目39付近から41付近の間、割れ目45付近から47の間、SE側の割れ目23付近からSW側の割れ目30付近の間花崗岩は割れ目間隔が2~10cm程度あるいは割れ目が不明瞭で、ハンマーの打撃で著しく濡った音~濡った音が発する程度の硬さであることからD(E・V・1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

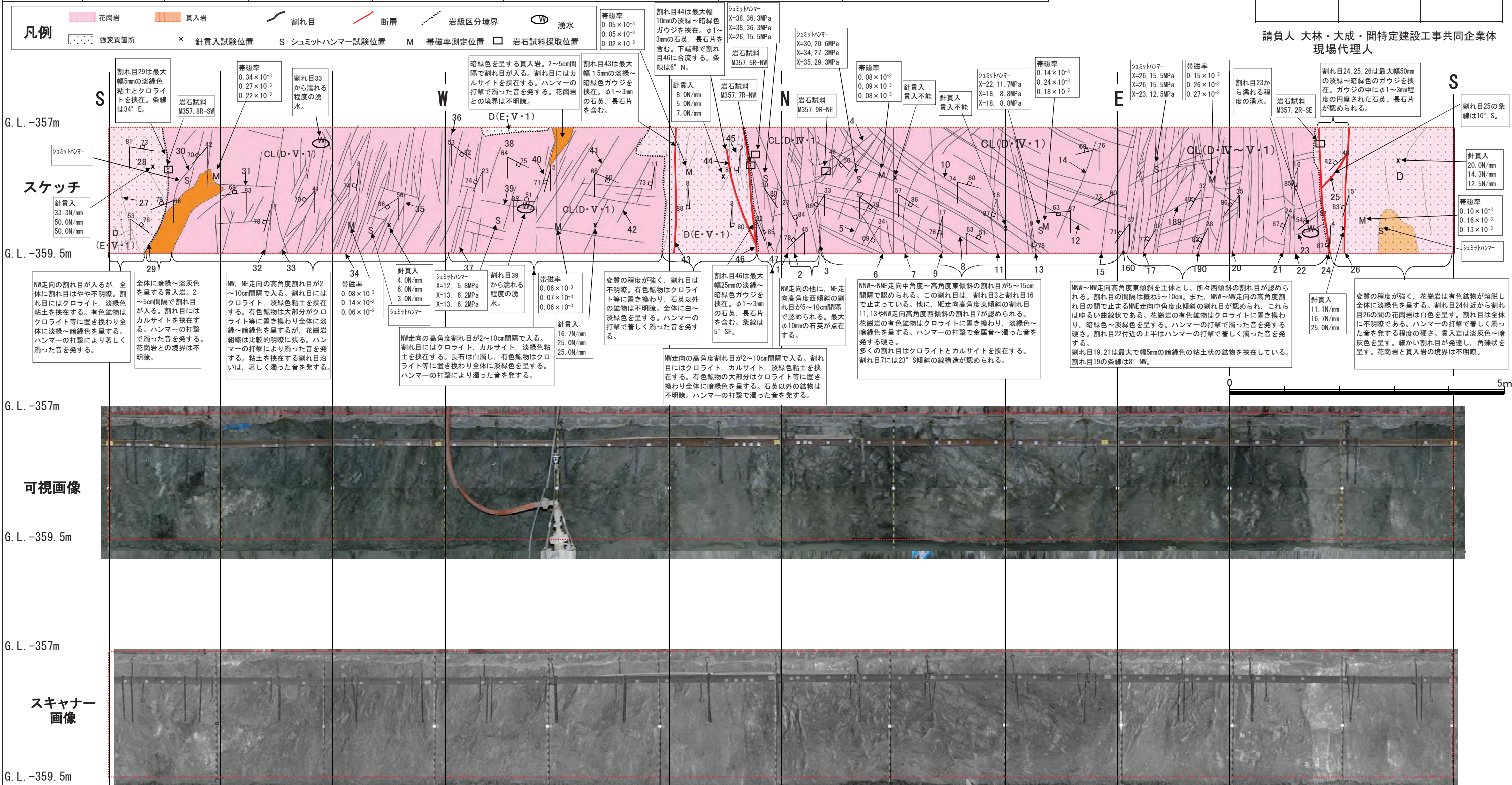
(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090707

シート番号(注)	182	日時	2009/7/7 12:00~14:40	位置・深度	STEP286, 287 G.L. -357.0 m~G.L. -359.5 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	-------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人



岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -357m~-358.2m CL/D G.L. -358.2m~-359.5m CL/D	特記事項 岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒花崗岩②貫入岩である。貫入岩はSW側の割れ目30付近の下半側、NW側の割れ目40付近の上半側、SSE側の一部に認められる。花崗岩の石英の粒径は概ねφ2~7mm程度であるが、N側ではφ10mm程度の粒径の石英が花崗岩中に認められる。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、NW側の割れ目43付近から46付近までの間、SE~S側の割れ目24付近から29の間は変質の程度が強く、割れ目間隔は2~10cm程度で、最も強変質箇所では割れ目が不明瞭で、白色~淡緑色を呈する。貫入岩は淡灰~暗緑色を呈し、全体に細粒で粒径を肉眼では確認できない。花崗岩と貫入岩の境界は割れ目で接する箇所もあるが、全体に不明瞭である。 主な割れ目は47条である。割れ目の主要な走向傾斜はNNW~NW走向高角度で、他にNE走向やEW走向の高角度割れ目が認められ、N~E側にはNNW~NW走向中角度~高角度東傾斜の割れ目が認められる。また、SE側にはNW走向の割れ目間で止まるNNE走向中角度東傾斜の割れ目が認められる。割れ目24、25、26、43、44、46はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(暗緑色、淡緑色)②貫入岩(暗灰色、淡灰色)	RMR値	G.L. -357m~-358.2m 23.3 G.L. -358.2m~-359.5m 21.8	
風化	α	岩石試料番号	M357.8R-SW(花崗岩、挟在物), M357.5R-NW(花崗岩), M357.7R-NW(花崗岩), 357.9R-NE(花崗岩), M357.2R(花崗岩)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	濡れる程度			



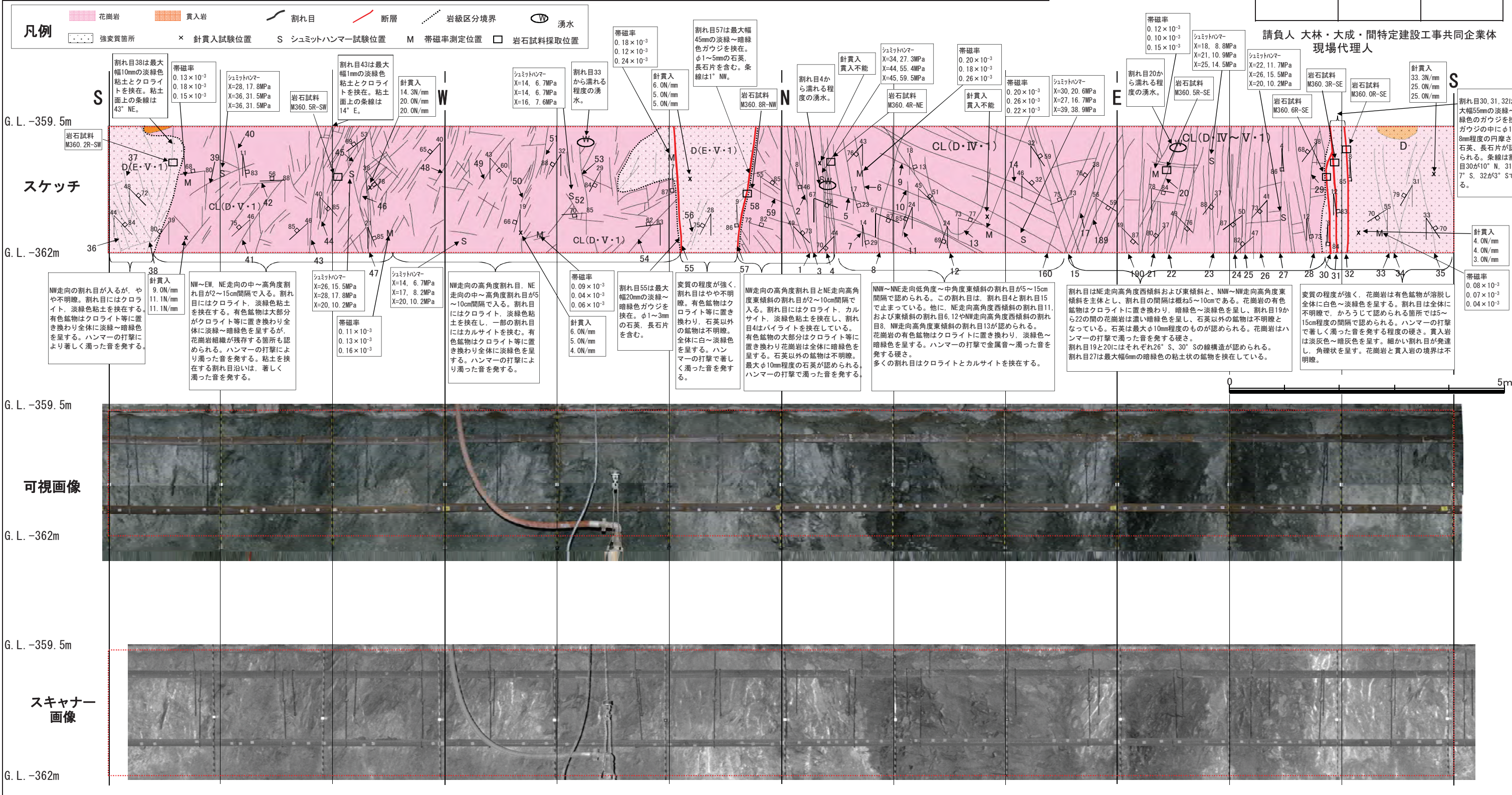
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090711

シート番号(注)	183	日時	2009/7/11 0:00~2:30	位置・深度	STEP288, 289 G.L. -359.5 m~G.L. -362.0 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員



請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -359.5m~-360.7m CL/D G.L. -360.7m~-362m CL/D	特記事項 岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒花崗岩②貫入岩である。貫入岩はSW側の割れ目38付近やSSE側の一部に認められる。花崗岩の石英の粒径は概ねφ2~7mm程度であるが、N~NE側ではφ10mm程度の粒径の石英が花崗岩中に認められる。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、NW側の割れ目55付近から57付近までの間、SE~S側の割れ目30付近から38の間は変質の程度が強く、割れ目間隔は2~15cm程度で、最も強変質箇所では割れ目が不明瞭で、白色~淡緑色を呈する。貫入岩は淡灰色~暗緑色を呈し、全体に細粒で粒径を肉眼では確認できない。花崗岩と貫入岩の境界は割れ目で接する箇所もあるが、全体に不明瞭である。 主な割れ目は59条である。割れ目の主要な走向傾斜はNNW~NW走向高角度とNE走向高角度で、他にEW走向の高角度割れ目が認められる。N~E側にはNNW~NNW走向低角度~中角度東傾斜の割れ目が認められる。割れ目30, 31, 32, 55, 57はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(暗緑色、淡緑色)②貫入岩(暗灰色、淡灰色)	RMR値	G.L. -359.5m~-360.7m 21.5 G.L. -360.7m~-362m 24.0	
風化	α	岩石試料番号	M360. 2R-SW(花崗岩、挟在物), M360. 5R-SW(花崗岩), M360. 8R-NW(か'ウジ'), M360. 4R-NE(花崗岩), M360. 5R-SE(花崗岩), M360. 6R-SE(か'ウジ'), M360. 3R-SE(か'ウジ'), M360. 0R-SE(か'ウジ')	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	濡れる程度			



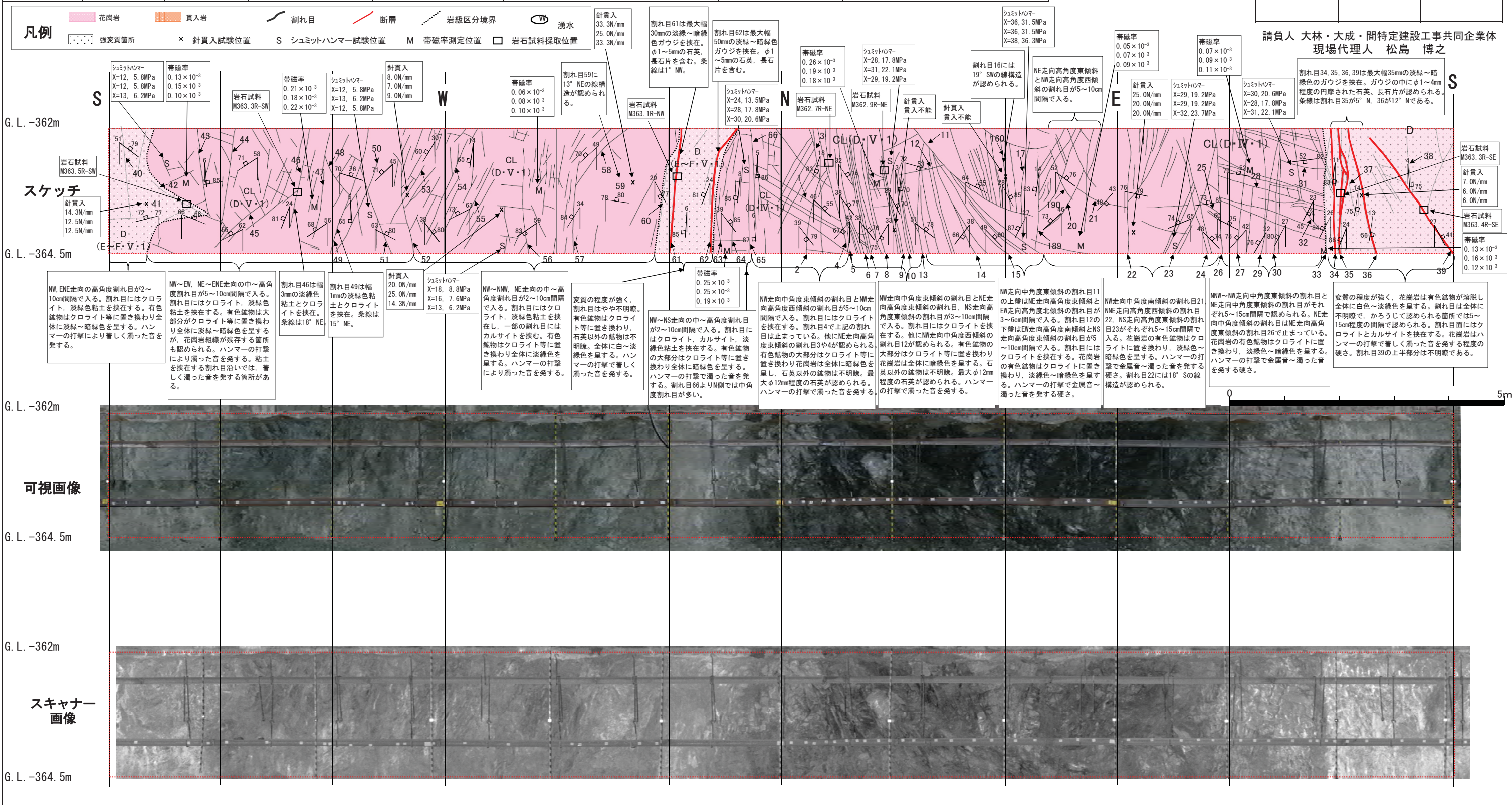
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090715

シート番号(注)	184	日時	2009/7/15 12:00~14:40	位置・深度	STEP290, 291 G.L. -362.0 m~G.L. -364.5 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -362m~-363.2m CL/D G.L. -363.2m~-364.5m CL/D	特記事項 岩種は花崗岩で、岩相は①中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の石英の粒径は概ねφ2~7mm程度であるが、N~E側では最大φ12mm程度の粒径の石英が花崗岩中に認められる。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、NW側の割れ目60付近から62付近までの間、SE~S側の割れ目33付近から42付近の間は変質の程度が強く、割れ目間隔は2~10cm程度で、最も強変質箇所では割れ目が不明瞭で、白色~淡緑色を呈する。また、N~NE側の割れ目1付近から割れ目13付近までやE側の割れ目22付近では、花崗岩はクロライト化により濃い暗緑色を呈し、石英以外の鉱物は不明瞭となっている。主な割れ目は66条である。割れ目の主要な走向傾斜はNNW~NW走向高角度で、他にNE走向やEW走向、NS走向の高角度割れ目が認められる。また、NE側ではNW走向中角度東傾斜の割れ目が、SE側ではNE走向中角度東傾斜の割れ目が認められる。割れ目34, 35, 36, 39, 61, 62はガウジや条線が認められること、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色)	RMR値	G.L. -362m~-363.2m 22.5 G.L. -363.2m~-364.5m 23.3	
風化	α	岩石試料番号	M363. 5R-SW(花崗岩), M363. 3R-SW(花崗岩), M363. 1R-NW(花崗岩), M362. 7R-NE(花崗岩), M362. 9R-NE(花崗岩), M363. 3R-SE(花崗岩), M363. 4R-SE(花崗岩)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	しめっぽい程度			



# A工区地質記載シート

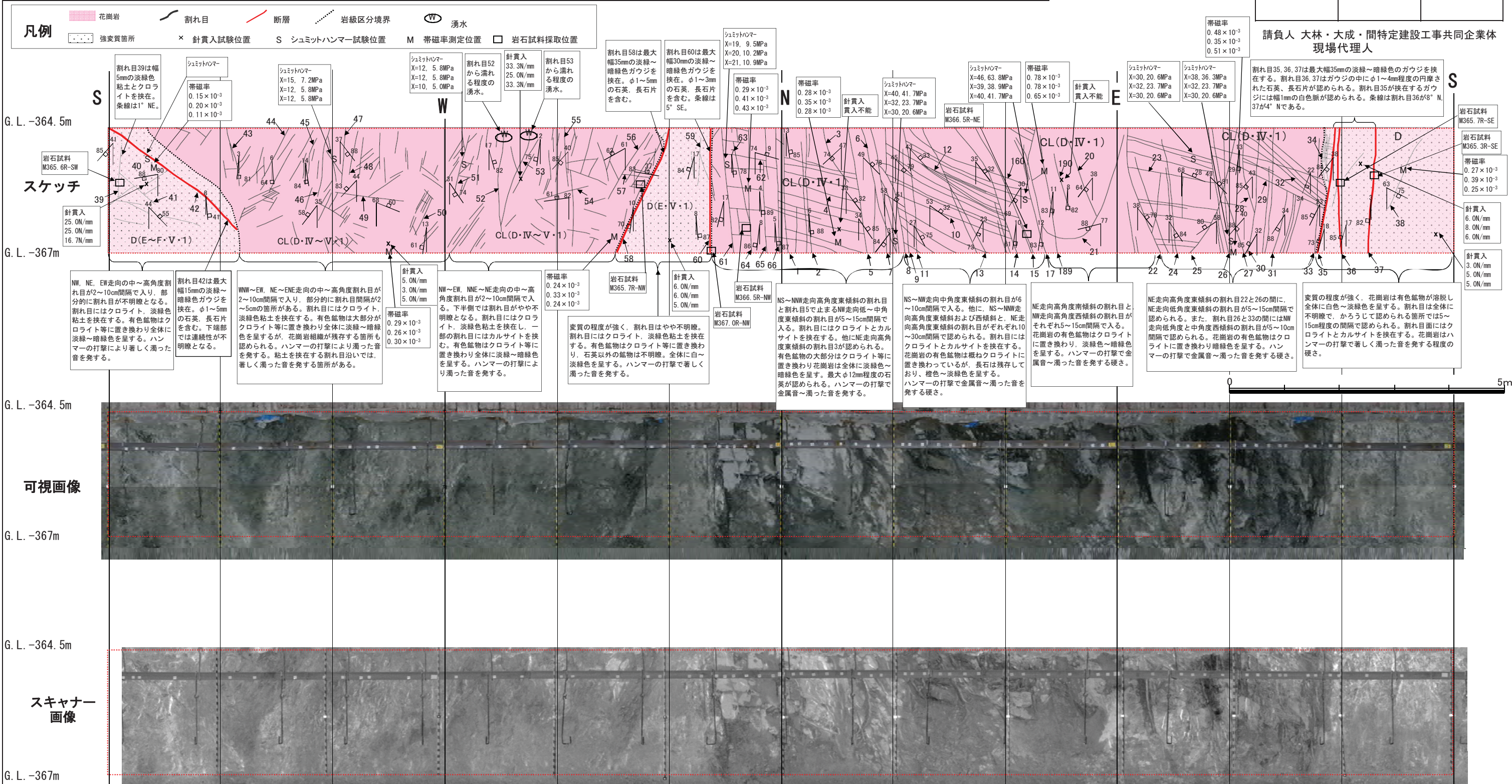
(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090717

シート番号(注)	185	日時	2009/7/17 5:50~8:30	位置・深度	STEP292, 293 G.L. -364.5 m~G.L. -367.0 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人



岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -364.5m~-365.7m CL/D G.L. -365.7m~-367m CL/D	特記事項 岩種は花崗岩で、岩相は①中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の石英の粒径は概ねφ2~7mm程度であるが、N~E側では最大φ10mm程度の粒径の石英が花崗岩中に認められる。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、NW側の割れ目58付近から60付近までの間、SE~S側の割れ目35付近から42付近の間は変質の程度が強く、割れ目間隔は2~10cm程度で、最も強変質箇所では割れ目が不明瞭で、白色~淡緑色を呈する。また、SE側の割れ目22付近から割れ目33付近までは、花崗岩はクロライト化により濃い暗緑色を呈し、石英以外の鉱物は不明瞭となっている。なお、N~NE側では長石が残存しており、花崗岩は橙色を呈する 主な割れ目は66条である。割れ目の主要な走向傾斜はNS~NW走向高角度で、他にNE走向やEW走向、NS走向の高角度割れ目が認められる。また、NE側ではNS~NW走向中角度東傾斜の割れ目、SE側ではNE走向低~中角度東傾斜の割れ目、SW側ではNE、EW走向中角度の割れ目が認められる。割れ目35, 36, 37, 42, 58, 60はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色, 淡緑色, 橙色) ②貫入岩(暗灰色, 淡灰色)	RMR値	G.L. -364.5m~-365.7m 23.3 G.L. -365.7m~-367m 23.5	
風化	α	岩石試料番号	M365. 6R-SW(花崗岩, 挟入物), M365. 7R-NW(花崗岩), M367. 0R-NW(か'ウジ'), M366. 5R-NW(花崗岩), M366. 5R-NE(花崗岩), M365. 7R-SE(か'ウジ'), M365. 3R-SE(か'ウジ')	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	濡れる程度			



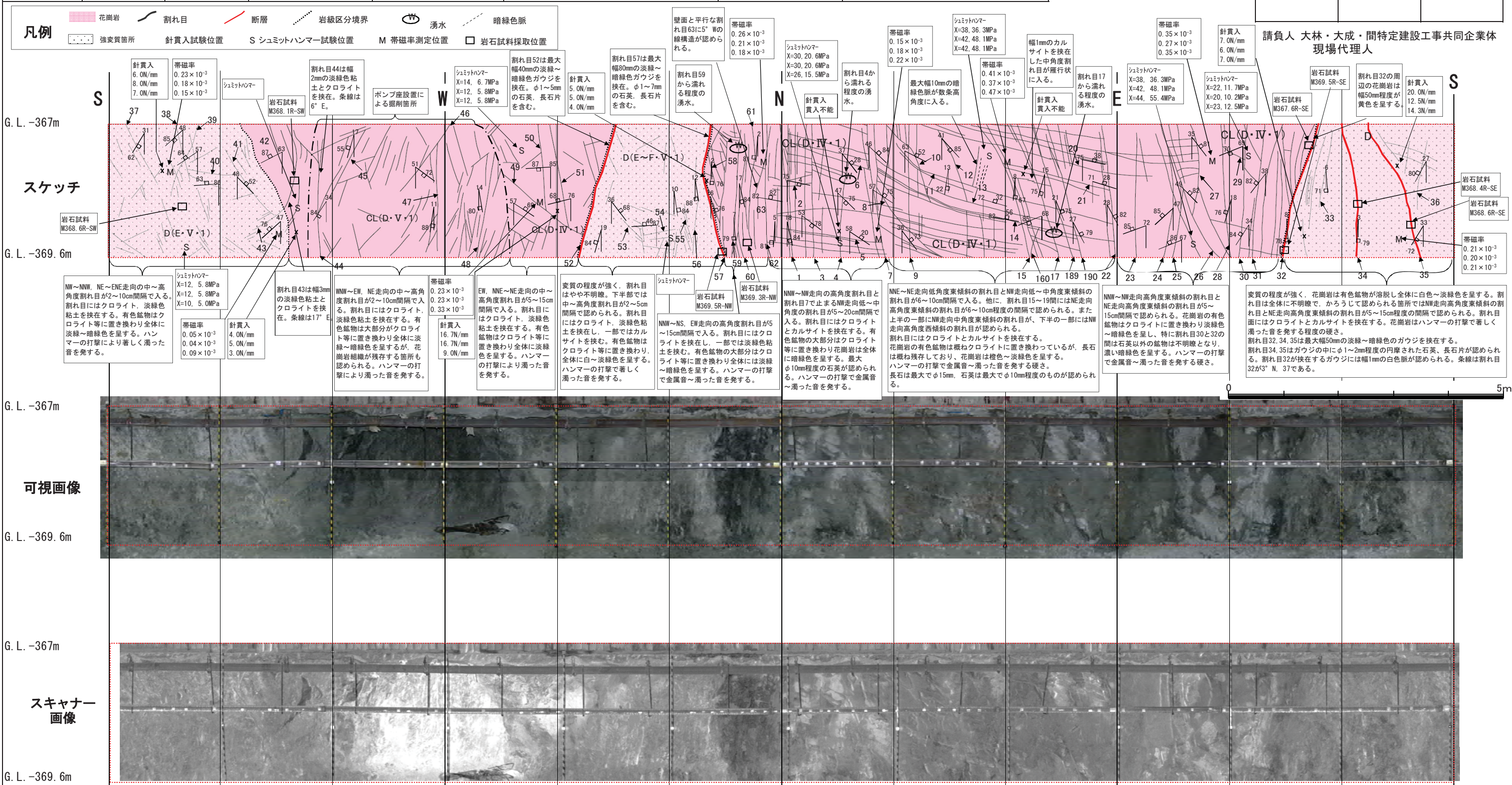
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090721

シート番号(注)	186	日時	2009/7/21 12:00~14:40	位置・深度	STEP294, 295 G.L. -367.0 m~G.L. -369.6 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -367m~-368.3m CL/D G.L. -368.3m~-369.6m CL/D
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(橙色, 暗緑色, 淡緑色)	RMR値	G.L. -367m~-368.3m 17.0 G.L. -368.3m~-369.6m 17.5
風化	α	岩石試料番号	M368. 6R-SW(花崗岩), M368. 1R-SW(花崗岩, 挟在物), M369. 5R-NW(花崗岩), M369. 3R-NW(花崗岩), M367. 6R-SE(花崗岩), M369. 5R-SE(花崗岩), M368. 4R-SE(花崗岩), M368. 6R-SE(花崗岩)
変質	3~4	採水試料番号	-
湧水	濡れる程度		

**特記事項**

岩種は花崗岩で、岩相は①中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の石英の粒径は概ねφ2~7mm程度であるが、N~E側では最大でφ10mm程度の粒径の石英やφ15mmの長石が認められる。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、NW側の割れ目52付近から57付近までの間やSE~S側の割れ目32付近から42付近の間は変質の程度が強く、最も強変質箇所では割れ目が不明瞭で、白色~淡緑色を呈する。また、N側の割れ目62から割れ目7付近までとSE側の割れ目30付近から割れ目32付近までは、花崗岩はクロライト化により濃い暗緑色を呈し、石英以外の鉱物は不明瞭となっている。なお、NNE~E側では長石が残存しており、花崗岩は橙色を呈する。

主な割れ目は63条である。割れ目の主要な走向傾斜はNS~NW走向高角度で、他にNE走向やEW走向高角度割れ目が認められる。また、NE側ではNW走向とNE走向低~中角度東傾斜の割れ目、SW側ではNE~EW走向中角度の割れ目が認められる。割れ目32, 34, 35, 52, 57はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。

割れ目32, 34, 35, 52, 57は最大厚さ80mmの淡緑~暗緑色のガウジを挟み、ガウジの中にはφ1~7mm程度の円磨された石英片や長石片が含まれる。条線は割れ目32で3° Nある。その他の断層では条線は不明瞭であった。SW側の割れ目43の挟在物の粘土に17° Eの条線、割れ目44の挟在物の粘土に6° Eの条線が認められた。N側の割れ目63は割れ目挟在物のクロライトに5° Wの線構造が認められた。

湧水は割れ目59, 4, 17から濡れる程度で認められた。

岩級区分は、SW側の割れ目42付近からNW側の割れ目52の間、NNW側の割れ目57からSE側の割れ目32の間の花崗岩は割れ目間隔が2~15cm程度でハンマーの打撃で金属音~濁った音を発する程度の硬さであることからCL(D・IV~V・1)級と評価した。NW側の割れ目52から57の間、SE側の割れ目32からSW側の割れ目42付近の間の花崗岩は、割れ目間隔が2~10cm程度あるいは割れ目が不明瞭で、ハンマーの打撃で著しく濁った音を発する程度の硬さであることからD(E~F・IV~V・1)級と評価した。



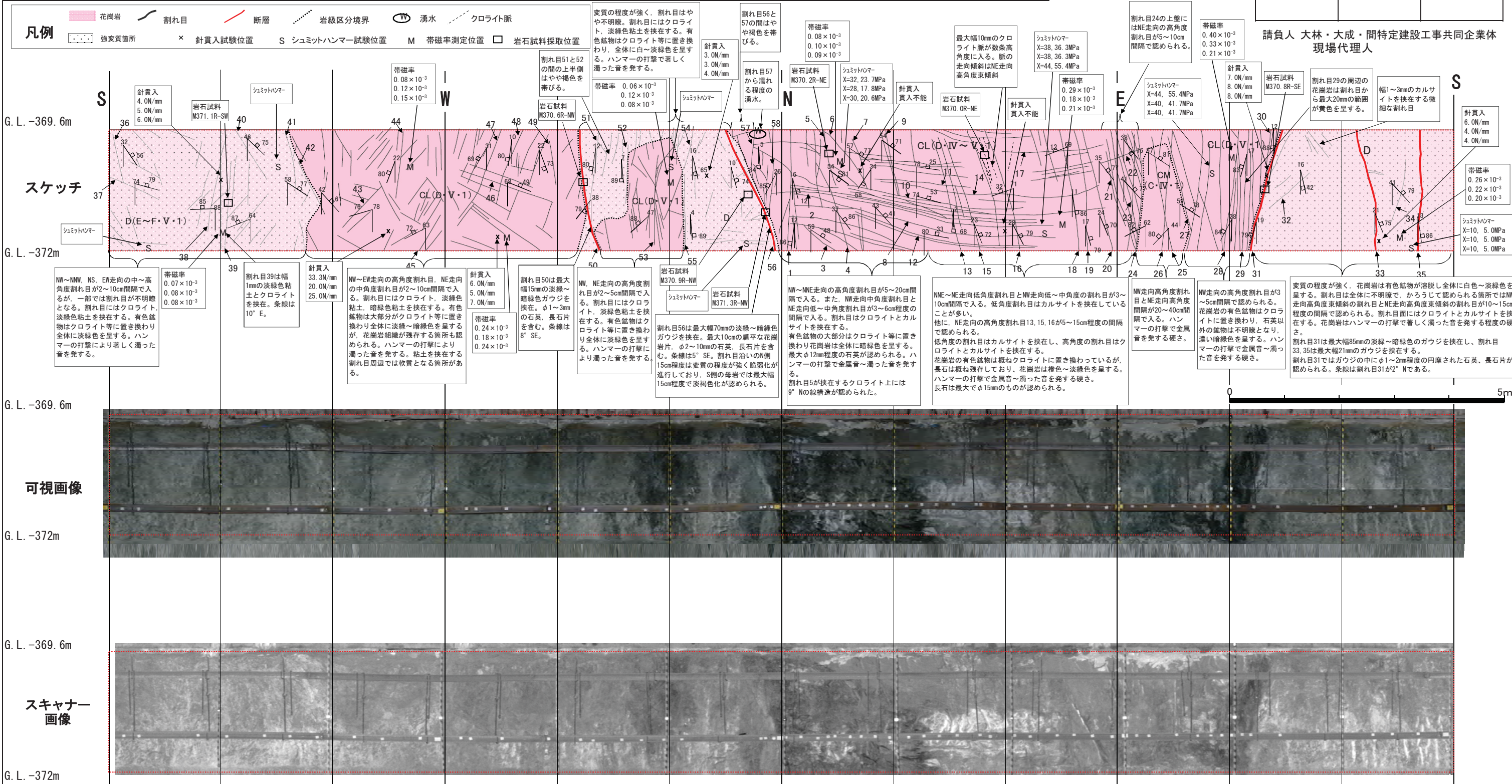
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090724

シート番号(注)	187	日時	2009/7/24 10:50~13:30	位置・深度	STEP296, 297 G.L. -369.6 m~G.L. -372.0 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員



請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -369.6m~-370.7m CM/CL/D G.L. -370.7m~-372m CM/CL/D	特記事項 岩種は花崗岩で、岩相は①中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の石英の粒径は概ねφ2~12mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、NW側の割れ目50付近から56付近までの間やSE~SW側の割れ目31付近から割れ目42付近の間は変質の程度が強く、有色鉱物は溶脱し石英以外の鉱物は軟質になり、花崗岩は白色~淡緑色を呈する。強変質部では割れ目が不明瞭となっている。また、N側の割れ目56付近から割れ目9付近までとSE側の割れ目27付近から割れ目31までの花崗岩は、クロライト化により濃い暗緑色を呈し、石英以外の鉱物は不明瞭となっている。なお、NE~E側では変質の程度が若干弱く長石が残存しており、花崗岩は橙色を呈する。 主な割れ目は58条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向高角度とNE走向高角度で、他にN~E側ではNW走向とNE走向の低~中角度東傾斜の割れ目、SW側ではNW走向中角度の割れ目、NW側ではNE走向中角度の割れ目が認められる。 割れ目31, 33, 35, 50, 56はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色、橙色)	RMR値	G.L. -369.6m~-370.7m 17.3 G.L. -370.7m~-372m 18.5	
風化	α	岩石試料番号	M371.1R-SW(花崗岩、挟在物)、M370.6R-NW(ガウジ)、M370.9R-NW(花崗岩)、M371.3R-NW(ガウジ)、M370.2R-NE(花崗岩)、M370.0R-NE(花崗岩)、M370.8R-SE(ガウジ)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	濡れる程度			

割れ目31, 33, 35, 50, 56は最大厚さ85mmの淡緑~暗緑色のガウジを挟み、割れ目31, 50, 56のガウジの中にはφ1~10mm程度の円磨された石英片や長石片が含まれ、割れ目56では最大10cmの扁平な花崗岩片が認められる。条線は割れ目31で2°N、割れ目50で8°SE、割れ目56で5°SEである。また、NE側の割れ目5は割れ目挟在物のクロライトに9°Nの線構造、SW側の割れ目39で挟在物の粘土に10°Eの条線が認められた。  
湧水は割れ目57から濡れる程度で認められた。  
岩級区分は、E側の一部では割れ目間隔が20~40cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する硬さであることからCM(C・IV・1)級と評価した。SW側の割れ目42付近からNW側の割れ目50付近の間、NW側の一部、NNW側の割れ目56付近からSE側の割れ目31の間は、割れ目間隔が2~15cm程度でハンマーの打撃で金属音~濁った音を発する程度の硬さであることからCL(D・IV~V・1)級と評価した。NW側の割れ目50付近から52付近の間、割れ目55付近から56付近の間、SE側の割れ目31からSW側の割れ目42付近の間の花崗岩は、割れ目間隔が2~10cm程度あるいは割れ目が不明瞭で、ハンマーの打撃で著しく濁った音を発する程度の硬さであることからD(E~F・IV~V・1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

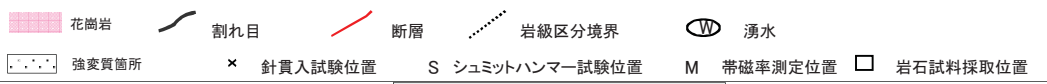
(注) シート番号は、その1工区から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090727

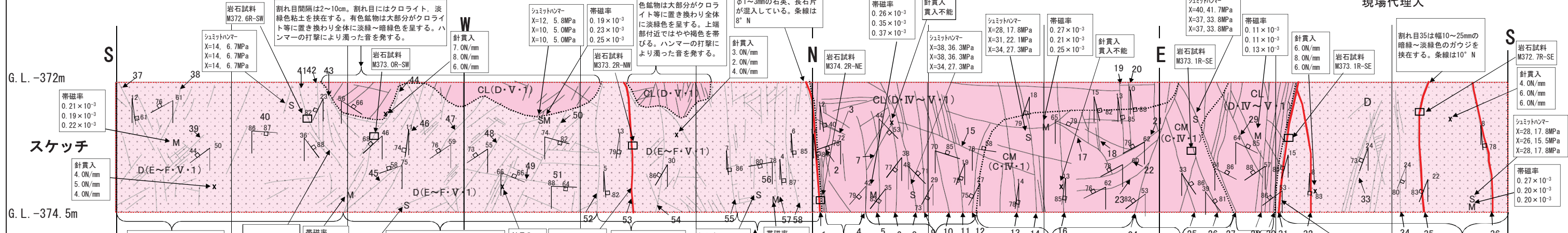
総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号(注)	188	日時	2009/7/27 15:40~18:20	位置・深度	STEP298, 299 G.L. -372.0 m ~ G.L. -374.5 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	--------------------------	-------	---	--------	--

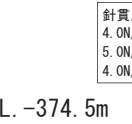
## 凡例



請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人



### スケッチ



**帯磁率**  
0.21 × 10<sup>-3</sup>  
0.19 × 10<sup>-3</sup>  
0.22 × 10<sup>-3</sup>

**針貫入**  
4.0N/mm  
5.0N/mm  
4.0N/mm

割れ目1は幅10~25mmの暗緑色~淡緑色のガウジを挟み、ガウジの中にはφ1~3mmの石英、長石片が混入している。条線は8° N

割れ目2は幅10~25mmの暗緑色~淡緑色のガウジを挟み、ガウジの中にはφ1~3mmの石英、長石片が混入している。条線は10° N

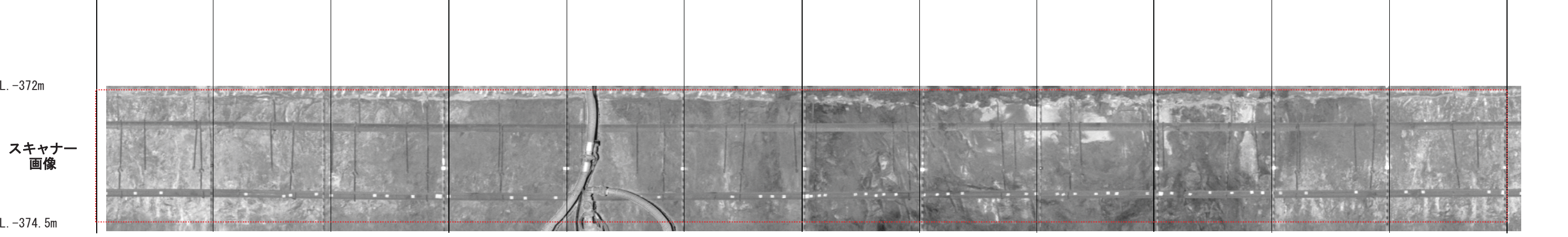
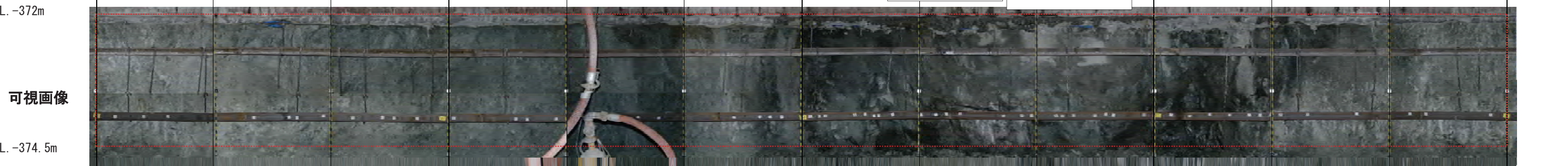
割れ目3は幅20~50mmの淡緑~暗緑色のガウジを挟み、割れ目1, 31, 53は最大厚さ50mmの淡緑~暗緑色のガウジを挟み、割れ目1, 31, 53の間のガウジの中にはφ1~3mm程度の石英片や長石片が含まれる。条線は割れ目53で5° SE、割れ目1で8° N、割れ目31で5° N、割れ目35で10° Nである。その他の断層では条線は不明瞭であった。また、SW側の割れ目41で割れ目挟み物の粘土に水平の条線が認められた。

変質の程度が強く、割れ目はやや不明瞭。割れ目にはクロライト、淡緑色粘土を挟み、一部は暗緑色粘土、カルサイトを含む。有色鉱物はクロライト等に置き換わり全体に淡緑色を呈する。ハンマーの打撃により著しく濁った音を発する。粘土を挟む割れ目沿いは軟質化が顕著。

変質の程度が強く、割れ目はやや不明瞭。割れ目にはクロライト、淡緑色粘土を挟み、一部は暗緑色粘土、カルサイトを含む。有色鉱物はクロライト等に置き換わり全体に淡緑色を呈する。ハンマーの打撃により著しく濁った音を発する。粘土を挟む割れ目沿いは軟質化が顕著。

変質の程度が強く、割れ目はやや不明瞭。割れ目にはクロライト、淡緑色粘土を挟み、一部は暗緑色粘土、カルサイトを含む。有色鉱物はクロライト等に置き換わり全体に淡緑色を呈する。ハンマーの打撃により著しく濁った音を発する。粘土を挟む割れ目沿いは軟質化が顕著。

変質の程度が強く、割れ目はやや不明瞭。割れ目にはクロライト、淡緑色粘土を挟み、一部は暗緑色粘土、カルサイトを含む。有色鉱物はクロライト等に置き換わり全体に淡緑色を呈する。ハンマーの打撃により著しく濁った音を発する。粘土を挟む割れ目沿いは軟質化が顕著。



岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -372m~-373.2m CM/CL/D G.L. -373.2m~-374.5m CM/CL/D	特記事項 岩種は花崗岩で、岩相は①中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の石英の粒径は概ねφ2~12mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、N側の割れ目1からSE側の割れ目31までは変質の程度が強く、有色鉱物は溶脱し石英以外の鉱物は軟質になり、花崗岩は白色~淡緑色を呈する。強変質部では割れ目が不明瞭となっている。また、N側の割れ目1から割れ目4付近までとE側の割れ目24付近からSE側の割れ目31までの花崗岩は、クロライト化により濃い暗緑色を呈し、石英以外の鉱物は不明瞭となっている。なお、NE~E側では変質の程度が若干弱く長石が残存しており、花崗岩は白色を呈する。 主な割れ目は58条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向高角度とNE走向高角度で、他にN~E側ではNW走向中角度東傾斜の割れ目、SW側ではNE走向中角度の割れ目、NW側ではEW走向高角度、NW走向中角度の割れ目が認められる。 割れ目1, 31, 35, 36, 53はガウジや条線が認められること、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。また、割れ目32は下位切羽の観察結果からガウジや条線が認められることから断層と判断した。
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、暗緑色、淡緑色)	RMR値	G.L. -372m~-373.2m 18.0 G.L. -373.2m~-374.5m 13.5	
風化	α	岩石試料番号	M372. 6R-SW(花崗岩), M373. 0R-SW(花崗岩, 挟み物), M373. 2R-NW(ガウジ), M374. 2R-NE(ガウジ), M373. 1R-SE(花崗岩), M373. 1R-SE(ガウジ), M372. 7R-SE(ガウジ)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	一部湿る程度			



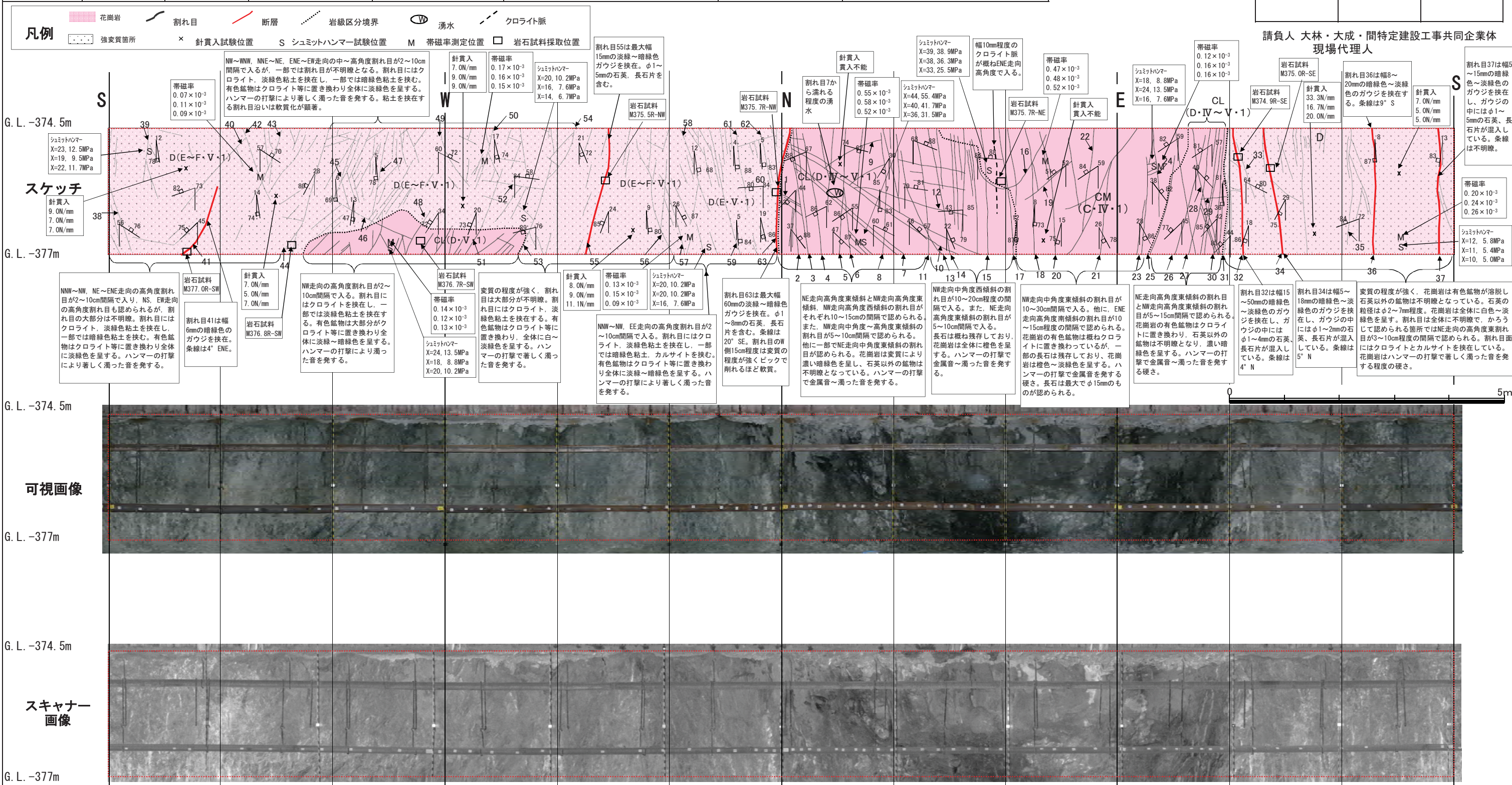
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090729

シート番号(注)	189	日時	2009/7/29 9:20~12:00	位置・深度	STEP300, 301 G.L. -374.5 m~G.L. -377.0 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	-------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員



請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -374.5m~-375.7m CM/CL/D G.L. -375.7m~-377m CM/CL/D
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(橙色, 暗緑色, 淡緑色)	RMR値	G.L. -374.5m~-375.7m 10.8 G.L. -375.7m~-377m 16.5
風化	α	岩石試料番号	M377. OR-SW (花崗岩, 挟在物), M376. 8R-SW (花崗岩, 挟在物), M376. 7R-SW (花崗岩), M375. 5R-NW (ガウジ), M375. 7R-NW (ガウジ), M375. 7R-NE (花崗岩), M374. 9R-SE (ガウジ), M375. 0R-SE (ガウジ)
変質	3~4	採水試料番号	-
湧水	濡れる程度		

**特記事項**

岩種は花崗岩で、岩相は①中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の石英の粒径は概ねφ2~12mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、N側の割れ目63からW側、さらにSE側の割れ目32付近までは変質の程度が強く、有色鉱物は溶脱し石英以外の鉱物は軟質になり、花崗岩は白色~淡緑色を呈する。強変質部では割れ目が不明瞭となっている。また、N側の割れ目63付近から割れ目11付近までとSE側の割れ目25付近から割れ目31付近までの花崗岩は、クロライト化により濃い暗緑色を呈し、石英以外の鉱物は不明瞭となっている。なお、NE側の一部では変質の程度が若干弱く長石が残存しており、花崗岩は橙色を呈する。

主な割れ目は63条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向高角度とNE走向高角度で、他にN~E側ではNW走向の中角度東傾斜の割れ目、SW~NW側ではEW走向中~高角度の割れ目が認められる。割れ目32, 34, 36, 37, 41, 55, 63はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。

割れ目32, 34, 36, 37, 41, 55, 63は最大厚さ60mmの淡緑~暗緑色のガウジを挟み、割れ目32, 34, 37, 55, 63のガウジの中にはφ1~8mm程度の円磨された石英片や長石片が含まれる。条線は割れ目63で20° SE、割れ目32で4° N、割れ目34で5° N、割れ目36で9° S、割れ目41で4° ENEである。その他の断層では条線は不明瞭であった。

湧水は割れ目7から濡れる程度で認められた。

岩級区分は、NE側の割れ目17付近からE側の割れ目25付近までは割れ目間隔が10~30cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する硬さであることからCM(C・IV・1)級と評価した。W側の割れ目44付近から割れ目53付近の下端部付近、N側の割れ目63付近からNE側の割れ目17付近の間及びE側の割れ目25付近からSE側の割れ目32付近の間の花崗岩は、割れ目間隔が2~15cm程度でハンマーの打撃で金属音~濡った音を発する程度の硬さであることからCL(D・IV・V・1)級と評価した。N側の割れ目63からW側にさらにSE側の割れ目32付近までは、割れ目間隔が2~10cm程度あるいは割れ目が不明瞭で、ハンマーの打撃で著しく濡った音を発する程度の硬さであることからD(E~F・IV~V・1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

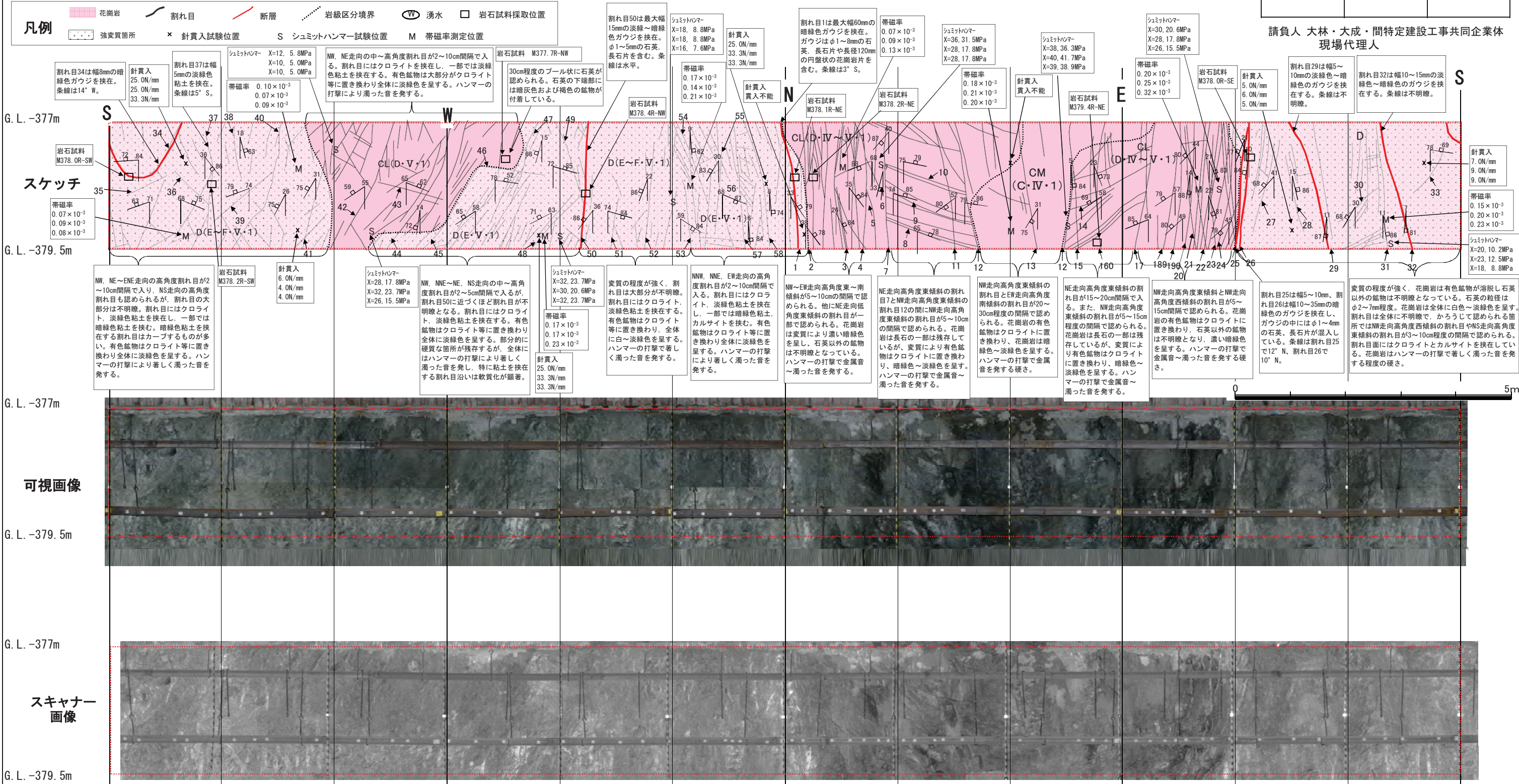
(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090731

シート番号(注)	190	日時	2009/7/31 12:00~14:45	位置・深度	STEP302, 303 G.L. -377.0 m~G.L. -379.5 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -377m~-378.2m CM/CL/D G.L. -378.2m~-379.5m CM/CL/D	特記事項 岩種は花崗岩で、岩相は①中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の石英の粒径は概ねφ2~12mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、W側の割れ目45付近とN側の割れ目1付近の間、SE側の割れ目25付近とSW側の割れ目41付近の間では変質の程度が強く、有色鉱物は溶脱し石英以外の鉱物は軟質になり、花崗岩は白色~淡緑色を呈する。強変質部では割れ目が不明瞭となっている。また、N側の割れ目1付近から割れ目7付近までとSE側の割れ目17付近から割れ目25までの花崗岩は、クロライト化により濃い暗緑色を呈し、石英以外の鉱物は不明瞭となっている。W側では30cm程度のプル状に石英が認められ、石英の下端部には暗灰色および褐色の鉱物が付着しているのが認められた。 主な割れ目は58条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向高角度とNE走向高角度である。他にNNE側やESE側ではEW走向高角度のものが、SSE側でNS走向高角度割れ目が認められる。 割れ目1, 25, 26, 29, 32, 34, 50はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。
岩相	①中粒花崗岩 (暗緑色、淡緑色)	RMR値	G.L. -377m~-378.2m 16.0 G.L. -378.2m~-379.5m 11.5	
風化	α	岩石試料番号	M378. OR-SW (ガウジ), M378. 2R-SW (花崗岩、挟在物), M377. 7R-NW (花崗岩、挟在物), M378. 4R-NW (ガウジ), M378. 1R-NE (ガウジ), M378. 2R-NE (花崗岩), M379. 4R-NE (花崗岩), M378. OR-SE (ガウジ)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	全体に湿っぽい程度			



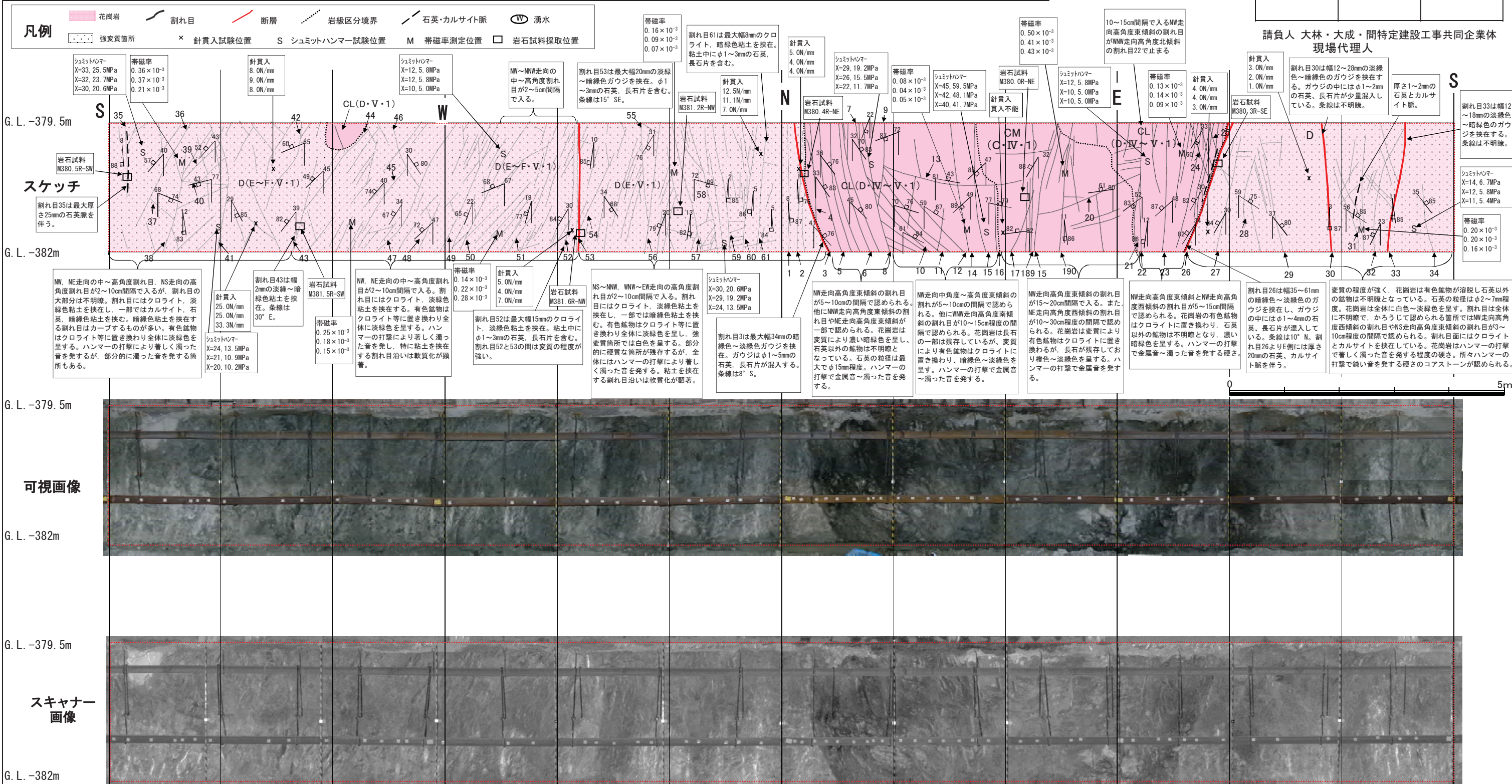
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090804

シート番号(注)	191	日時	2009/8/4 17:00~20:00	位置・深度	STEP304, 305 G.L. -379.5 m~G.L. -382.0 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	-------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -379.5m~-380.7m CM/CL/D	特記事項 岩種は花崗岩で、岩相は①中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の石英の粒径は概ねφ2~15mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、N側の割れ目3付近からW側、さらにSE側の割れ目26付近までは変質の程度が強く、有色鉱物は溶脱し石英以外の鉱物は軟質になり、花崗岩は白色~淡緑色を呈する。強変質部では割れ目が不明瞭となっている。また、N側の割れ目3付近から割れ目8付近までとSE側の割れ目22付近から割れ目26までの花崗岩は、クロライト化により濃い暗緑色を呈し、石英以外の鉱物は不明瞭となっている。なお、NE~E側では変質の程度が若干弱く長石が残存しており、花崗岩は橙色を呈する。 主な割れ目は61条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向高角度とNE走向高角度で、他に、S側ではNS走向高角度の割れ目、SW側ではNW、NE走向中角度の割れ目、N~NW側ではNNW~NS走向高角度の割れ目、N~E側ではNW走向の中~高角度東傾斜の割れ目が認められる。 割れ目3、26、30、33、53はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(橙色、暗緑色、淡緑色)	RMR値	G.L. -379.5m~-380.7m 10.5 G.L. -380.7m~-382m 11.3	
風化	α	岩石試料番号	M380.5R-SW(花崗岩、挟在物)、M381.5R-SW(花崗岩、挟在物)、M381.6R-NW(花崗岩)、M381.2R-NW(花崗岩)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	全体に湿っぽい程度			



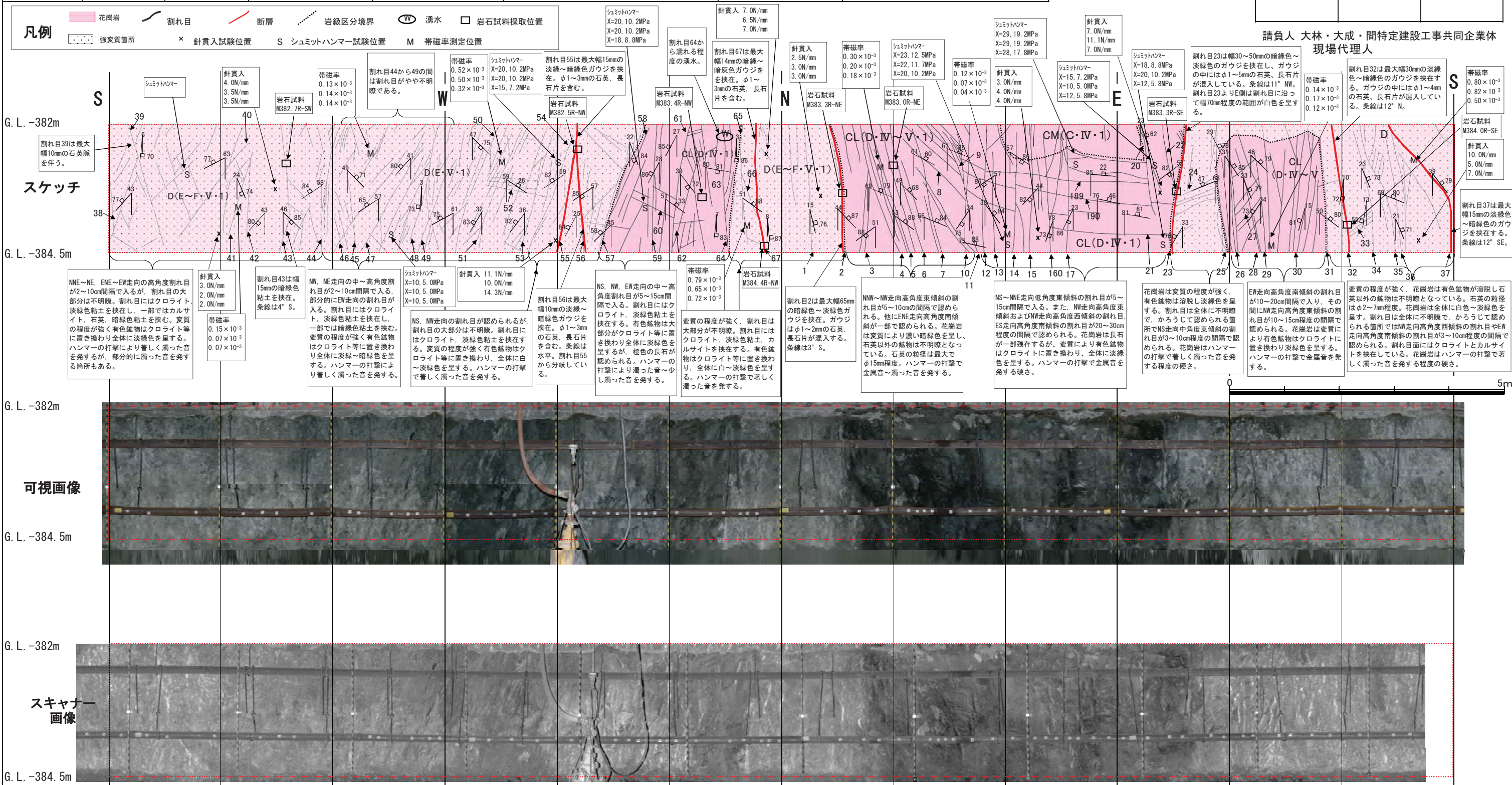
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090806

シート番号(注)	192	日時	2009/8/6 16:50~19:30	位置・深度	STEP306, 307 G.L. -382.0 m~G.L. -384.5 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	-------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -382m~-383.2m CM/CL/D G.L. -383.2m~-384.5m CL/D	特記事項 岩種は花崗岩で、岩相は①中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の石英の粒径は概ねφ2~12mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、N側の割れ目64付近から割れ目2の間、SE側の割れ目23付近から割れ目25付近の間、SE側の割れ目31付近からNW側の割れ目57付近の間では変質の程度が強く、有色鉱物は溶脱し石英以外の鉱物は軟質になり、花崗岩は白色~淡緑色を呈する。強変質部では割れ目が不明瞭となっている。また、N側の割れ目2付近から割れ目11付近までの花崗岩は、クロライト化により濃い暗緑色を呈し、石英以外の鉱物は不明瞭となっている。 主な割れ目は67条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向高角度とNE走向高角度で、他に、SW側ではNS走向やEW走向高角度の割れ目が認められる。NW側ではNS走向高角度の割れ目やNW走向中角度割れ目、NE走向中角度割れ目が認められる。N-E側ではNE~NNE走向の低角度東傾斜の割れ目が認められる。 割れ目2, 23, 32, 37, 55, 56, 67はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(暗緑色、淡緑色)	RMR値	G.L. -382m~-383.2m 10.3 G.L. -383.2m~-384.5m 11.3	
風化	α	岩石試料番号	M382.7R-SW(花崗岩、挟在物)、M382.5R-NW(ガウジ)、M383.4R-NW(花崗岩)、M384.4R-NW(ガウジ)、M383.3R-NE(花崗岩)、M383.0R-NE(花崗岩)、M383.3R-SE(ガウジ)、M384.0R-SE(ガウジ)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	濡れる程度			



# A工区地質記載シート

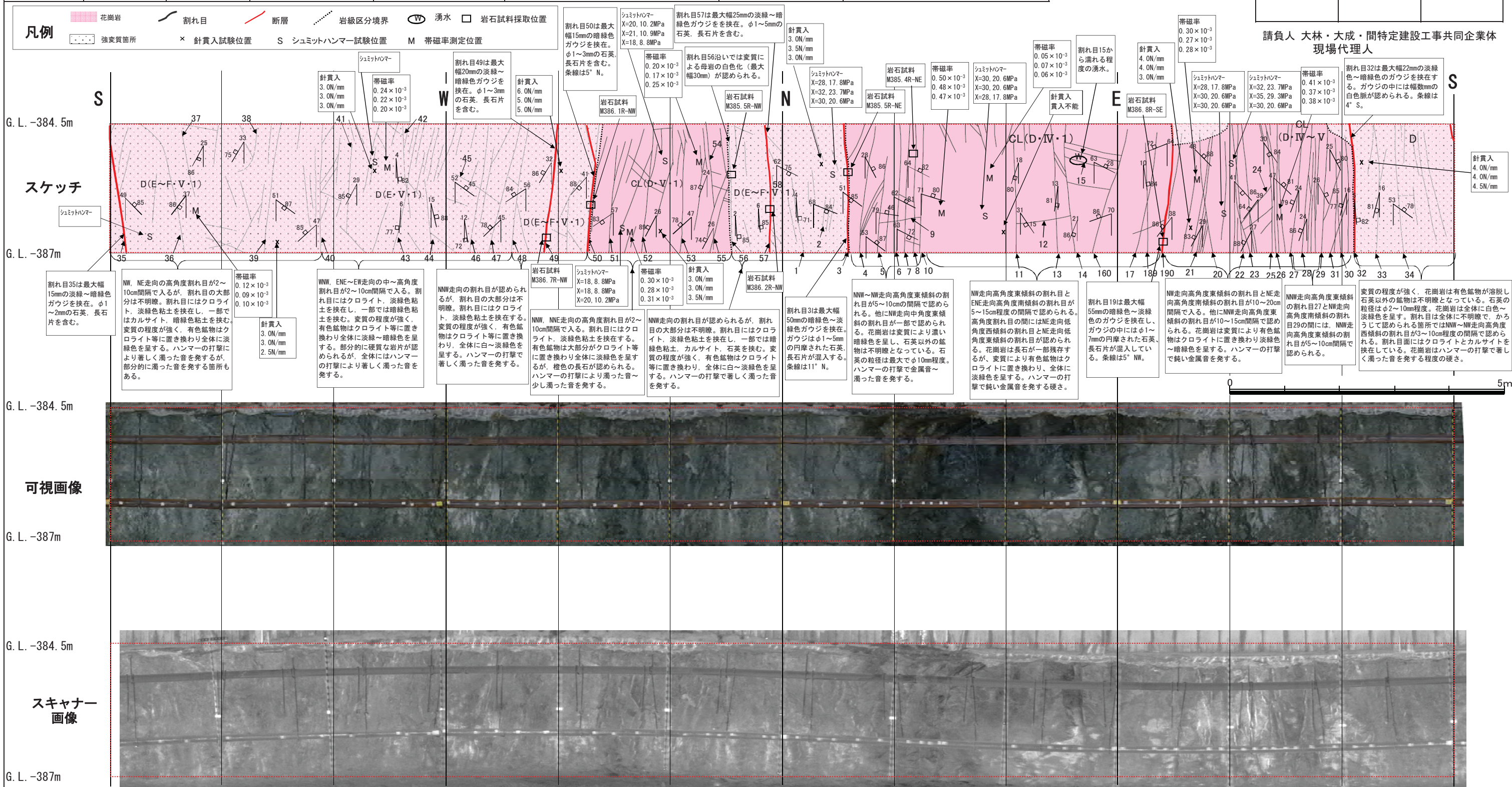
(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090818

シート番号(注)	193	日時	2009/8/18 4:00~7:00	位置・深度	STEP308, 309 G.L. -384.5 m~G.L. -387.0 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -384.5m~-385.7m CL/D G.L. -385.7m~-387m CL/D	特記事項 岩種は花崗岩で、岩相は①中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の石英の粒径は概ねφ2~10mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、N側の割れ目56付近から割れ目3の間、SE側の一部、SE側の割れ目32付近からNW側の割れ目50付近の間では変質の程度が強く、有色鉱物は溶脱し石英以外の鉱物は軟質になり、花崗岩は白色~淡緑色を呈する。強変質部では割れ目が概ね不明瞭となっている。また、N側の割れ目3付近から割れ目10付近までの花崗岩は、クロライト化により濃い暗緑色を呈し、石英以外の鉱物は不明瞭となっている。 主な割れ目は58条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向高角度とNE走向高角度で、他に、SW~W側ではEW走向高角度の割れ目、NW側ではNW走向中角度割れ目が認められる。NE側ではENE走向高角度南傾斜の割れ目が認められる。 割れ目3, 19, 32, 35, 49, 50, 57はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(暗緑色、淡緑色)	RMR値	G.L. -384.5m~-385.7m 10.5 G.L. -385.7m~-387m 11.3	
風化	α	岩石試料番号	M386, 7R-NW(α'ガウジ), M386, 1R-NW(α'ガウジ), M385, 5R-NW(花崗岩, 挟在物), M386, 2R-NW(α'ガウジ), M385, 5R-NE(α'ガウジ), M385, 4R-NE(花崗岩), M386, 8R-SE(α'ガウジ)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	濡れる程度			



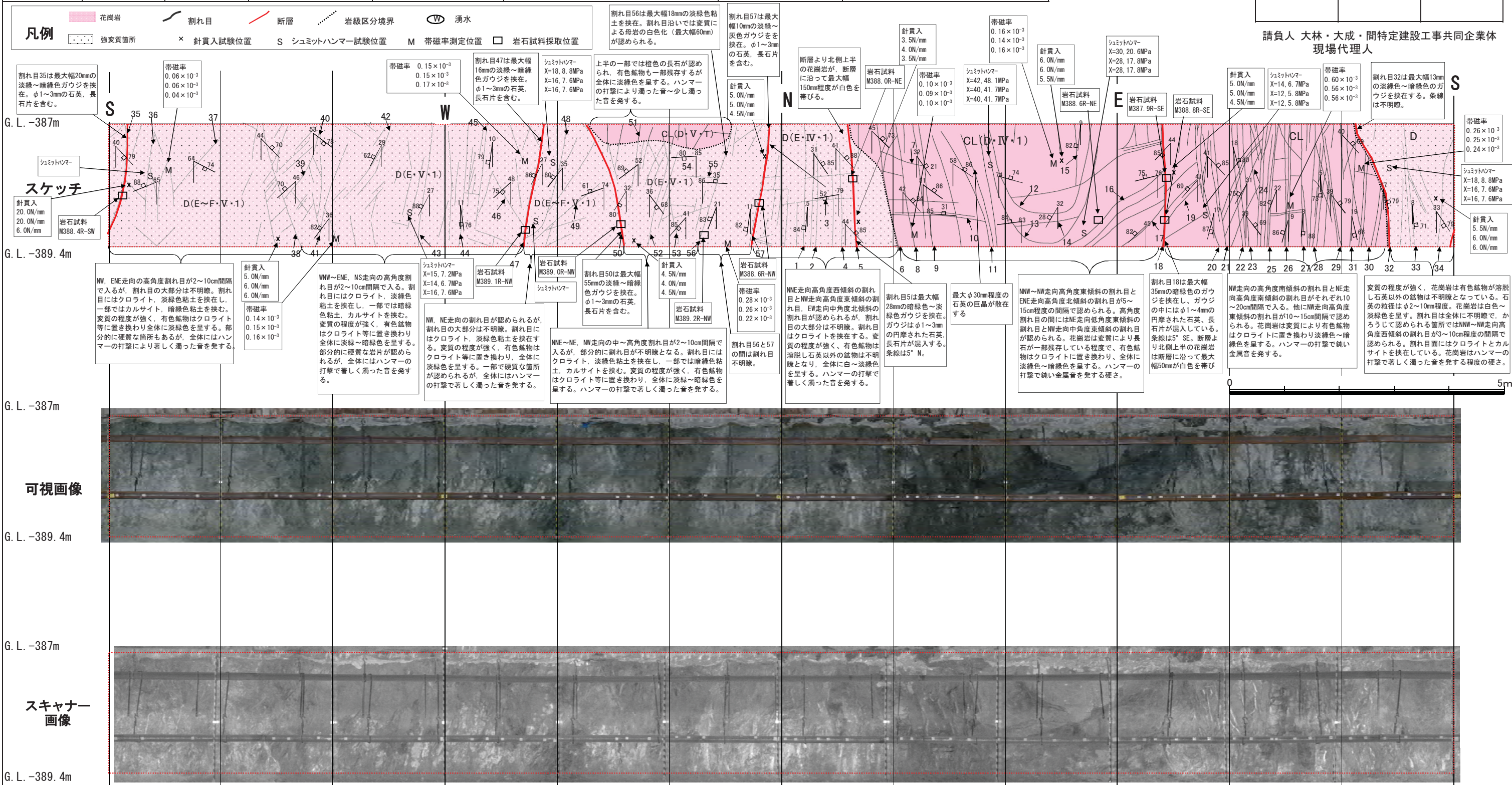
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090820

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号(注)	194	日時	2009/8/20 3:50~6:50	位置・深度	STEP310, 311 G.L. -387.0 m~G.L. -389.4 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	------------------------	-------	---	--------	--



請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -387m~-388.1m CL/D G.L. -388.1m~-389.4m CL/D
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(暗緑色、淡緑色)	RMR値	G.L. -387m~-388.1m 12.0 G.L. -388.1m~-389.4m 11.5
風化	α	岩石試料番号	M388. 4R-SW(ガウジ), M389. 1R-NW(ガウジ), M389. 0R-NW(花崗岩, 挟在物), M389. 2R-NW(花崗岩), M388. 6R-NW(ガウジ), M388. 0R-NE(ガウジ), M388. 6R-NE(花崗岩), M387. 9R-SE(ガウジ), M388. 8R-SE(ガウジ)
変質	3~4	採水試料番号	-
湧水	全体が湿っぽい程度		

**特記事項**

岩種は花崗岩で、岩相は①中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の石英の粒径は概ねφ2~10mm程度で、NE側ではφ30mm程度の石英の巨晶が認められる。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、N側の割れ目6付近からW側さらにSE側の割れ目32付近までは変質の程度が強く、有色鉱物は溶脱し石英以外の鉱物は不明瞭で軟質になり、花崗岩は白色~淡緑色を呈する。強変質部では割れ目が不明瞭となっている。

主な割れ目は57条である。割れ目の主要な走向傾斜はNNW~NW走向高角度で、他に、SW側ではNS走向高角度割れ目、SW~W側ではEW走向高角度割れ目、NW側ではNE走向高角度割れ目、N~E側ではNW走向中角度東傾斜とNE走向低角度東傾斜の割れ目、SE側ではNE走向高角度南傾斜の割れ目が認められる。

割れ目47, 50, 57, 5, 18, 32, 35はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。これらの断層は最大厚さ55mmの淡緑~暗緑色のガウジを挟在し、割れ目35, 47, 50, 57, 5, 18のガウジの中にはφ1~4mm程度の円磨された石英片や長石片が含まれる。

断層である割れ目5と割れ目18では条線が認められ、レイクはそれぞれ割れ目5が5° N、割れ目18が6° SEであった。その他の断層では条線は不明瞭。また、割れ目34は最大幅5mmの暗緑色の粘土を挟在し、12° Sの条線が認められた。

湧水は認められなかった。

岩級区分は、NW側の割れ目50から割れ目56の間の上半の一部、N側の割れ目6付近からSE側の割れ目32付近まで間の花崗岩は、割れ目間隔が5~15cm程度でハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さであることからCL(D・IV・V・1)級と評価した。割れ目6付近からW側さらにSE側の割れ目32付近までは、割れ目間隔が3~10cm程度あるいは割れ目が不明瞭で、ハンマーの打撃で著しく濁った音を発する程度の硬さであることからD(E~F・IV~V・1)級と評価した。



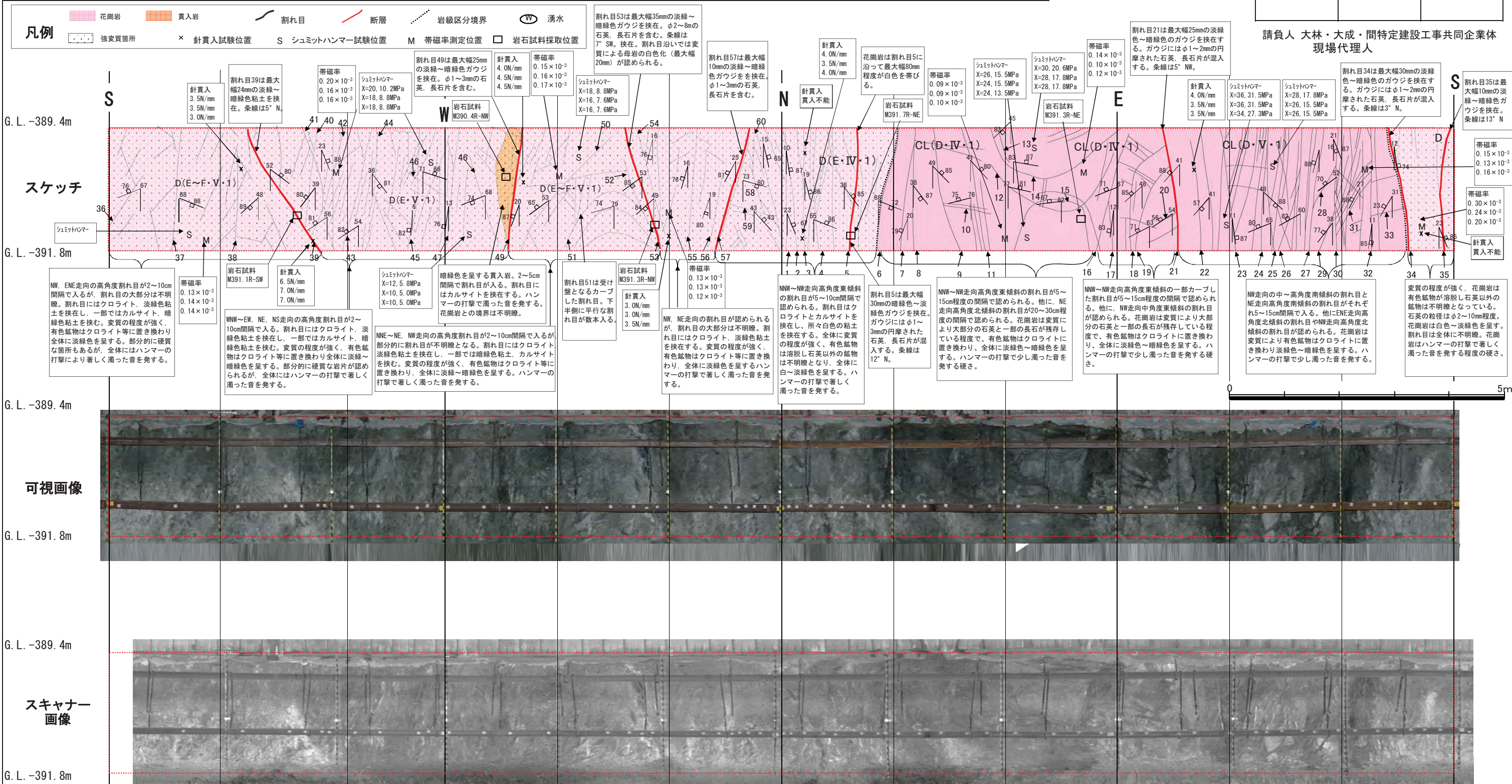
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090822

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号(注)	195	日時	2009/8/22 23:00~2:00	位置・深度	STEP312, 313 G.L. -389.4 m~G.L. -391.8 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	-------------------------	-------	---	--------	--



請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

岩種	花崗岩, 貫入岩	電研式岩級	G.L. -389.4m~-390.5m CL/D G.L. -390.5m~-391.8m CL/D
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(暗緑色、淡緑色) ②貫入岩(暗灰色、淡灰色)	RMR値	G.L. -389.4m~-390.5m 12.8 G.L. -390.5m~-391.8m 13.0
風化	α	岩石試料番号	M391.1R-SW(花崗岩 挟在物), M390.4R-NW(貫入岩), M391.3R-NW(貫入岩), M391.7R-NE(貫入岩), M391.3R-NE(花崗岩)
変質	3~4	採水試料番号	-
湧水	全体が湿っぽい程度		

**特記事項**

岩種は花崗岩と貫入岩で、岩相は①中粒~粗粒花崗岩と②貫入岩である。貫入岩はW側の割れ目49に沿って分布する。花崗岩の石英の粒径は概ねφ2~12mm程度。貫入岩の粒径は肉眼で観察できない程度に細粒。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、N側の割れ目6付近からW側さらにSE側の割れ目34までは変質の程度が強く、有色鉱物は溶脱し石英以外の鉱物は軟質になり、花崗岩は白色~淡緑色を呈する。花崗岩の強変質部では割れ目が不明瞭となっている。貫入岩は変質の程度が強くは淡灰~暗緑色を呈し、不規則に入る割れ目により最大でφ20~50mm程度の角礫状で認められる。主な割れ目は60条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向およびNE走向高角度で、他に、SW側ではNS走向高角度割れ目、SW~W側ではEW走向高角度割れ目、N側ではNW走向中角度割れ目が認められる。割れ目49, 53, 57, 5, 21, 34, 35, 39は割れ目53で7°SE、割れ目57で12°N、割れ目21で5°NW、割れ目34で3°N、割れ目39で5°Nである。その他の断層では条線は不明瞭であった。

湧水は明瞭なもの認められなかった。

岩級区分は、N側の割れ目6からSE側の割れ目34間の花崗岩は割れ目間隔が5~15cm程度でハンマーの打撃で少し濁った音を発する程度の硬さであることからCL(D・IV・V・1)級と評価した。上記以外のN側の割れ目5付近からW側さらにSE側の割れ目34付近までの花崗岩と貫入岩は、割れ目間隔が2~10cm程度あるいは割れ目が不明瞭で、ハンマーの打撃で著しく濁った音を発する程度の硬さであることからD(E・F・IV・V・1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

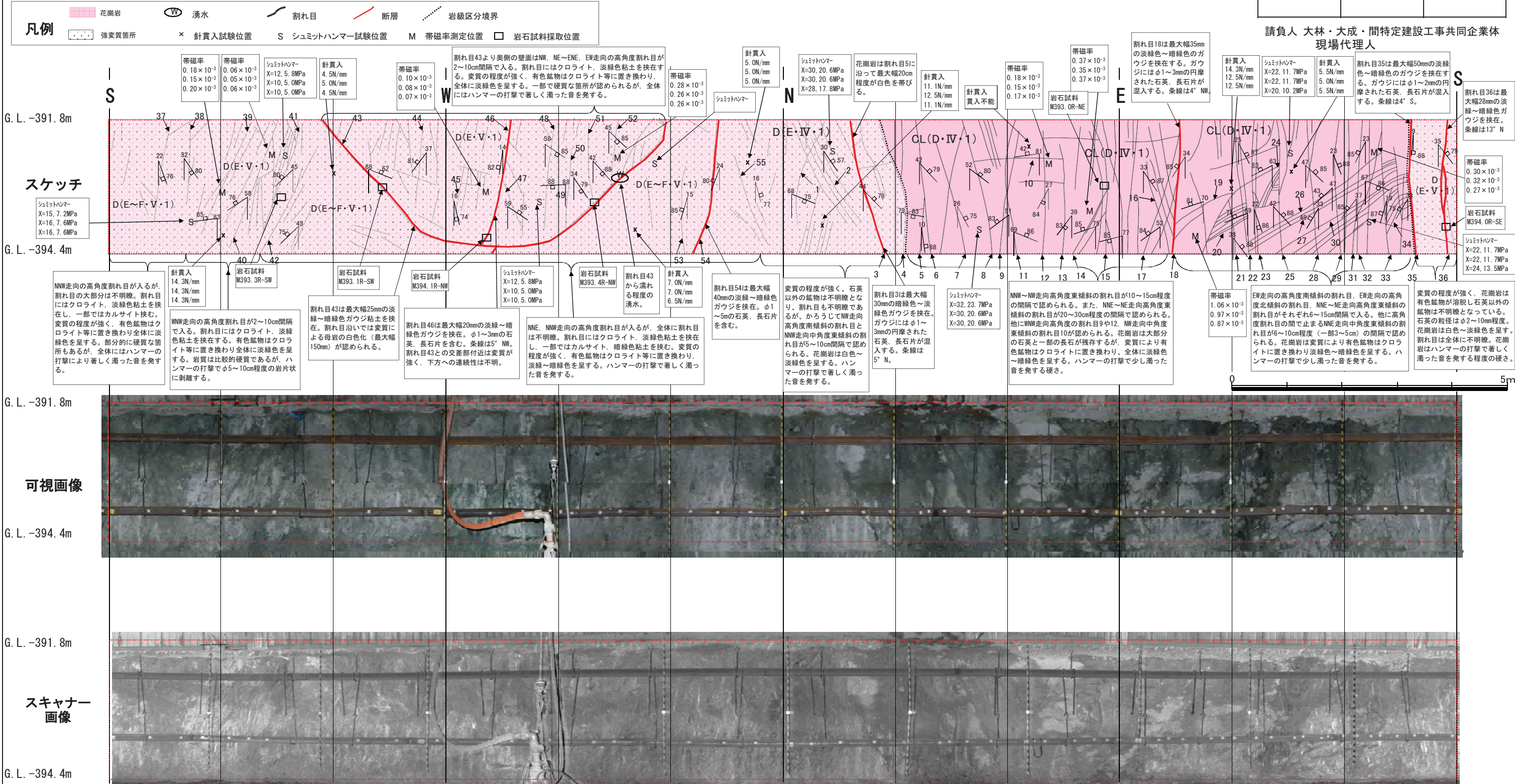
(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090825

シート番号(注)	196	日時	2009/8/25 22:00~0:40	位置・深度	STEP314, 315 G.L. -391.8 m~G.L. -394.4 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	-------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -391.8m~-393.1m CL/D G.L. -393.1m~-394.4m CL/D	<b>特記事項</b> 岩種は花崗岩で、岩相は①中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の石英の粒径は概ねφ2~10mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、N側の割れ目4からSE側の割れ目35までは変質の程度が強く、有色鉱物は溶解し石英以外の鉱物は軟質になり、花崗岩は白色~淡緑色を呈する。強変質部では割れ目が不明瞭となっている。また、割れ目3と割れ目43に沿って幅15~20cmにわたって花崗岩が白色を呈する。 主な割れ目は55条である。割れ目の主要な走向傾斜はNNW走向高角度およびNNE走向高角度である。他に、SW側ではEW走向高角度割れ目が認められる。NE側ではNNW走向高角度の割れ目とNNW走向高角度東傾斜の割れ目が認められる。SE側ではEW走向の高角度割れ目、NNE~NE走向の高角度割れ目が認められる。 割れ目43, 46, 54, 3, 18, 35, 36はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。花崗岩の変質が強く割れ目43は下半では不明瞭であった。
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (暗緑色、淡緑色)	RMR値	G.L. -391.8m~-393.1m 11.8 G.L. -393.1m~-394.4m 12.8	
風化	α	岩石試料番号	M393. 3R-SW (花崗岩), M393. 1R-SW (ガウジ), M394. 1R-NW (ガウジ), M393. 4R-NW (花崗岩, 挟在物), M393. 0R-NE (花崗岩), M394. 0R-SE (ガウジ)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	濡れる程度			



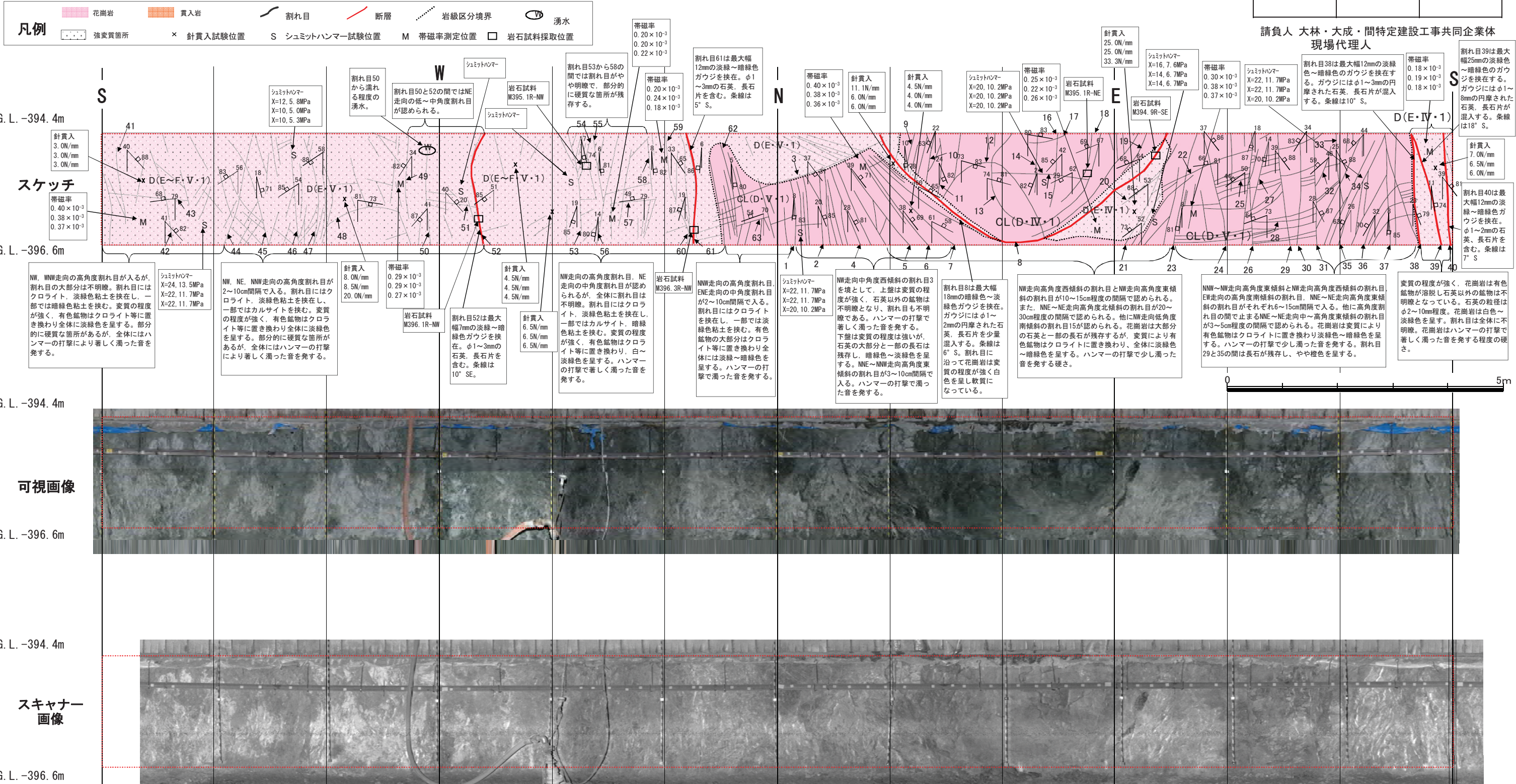
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090827

シート番号(注)	197	日時	2009/8/27 18:00~20:40	位置・深度	STEP316, 317 G.L. -394.4 m~G.L. -396.6 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員



請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -394.4m~-395.3m CL/D G.L. -395.3m~-396.6m CL/D	特記事項 岩種は花崗岩で、岩相は①中粒～粗粒花崗岩である。花崗岩の石英の粒径は概ねφ2~10mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色～暗緑色を呈する。特に、N側の割れ目62付近からW側さらにSE側の割れ目38まで変質の程度が強く、有色鉱物は溶脱し石英以外の鉱物は軟質になり、花崗岩は白色～淡緑色を呈する。強変質部では割れ目が不明瞭となっている。また、NE側の割れ目8に沿って花崗岩の変質の程度が強く、石英以外の鉱物は不明瞭となり白色を呈する。なお、SE側の一部では変質の程度が若干弱く長石が残存しており、花崗岩はやや橙色を呈する。 主な割れ目は63条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向高角度で、他に、SW側ではEW走向高角度割れ目、NW側ではNE走向低～中角度割れ目、NE側ではNNE~NNW走向高角度東傾斜とNW走向中角度西傾斜の割れ目が、SE側ではEW走向の高角度南傾斜の割れ目、NNE~NE走向高角度東傾斜の割れ目が認められる。 割れ目8, 38, 39, 40, 52, 61はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。
岩相	①中粒～粗粒花崗岩(暗緑色、淡緑色)	RMR値	G.L. -394.4m~-395.3m G.L. -395.3m~-396.6m	
風化	α	岩石試料番号	M396. 1R-NW(ガウジ), M395. 1R-NW(花崗岩), M396. 3R-NW(ガウジ), M395. 1R-NE(花崗岩), M394. 9R-SE(ガウジ)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	濡れる程度			



# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090902

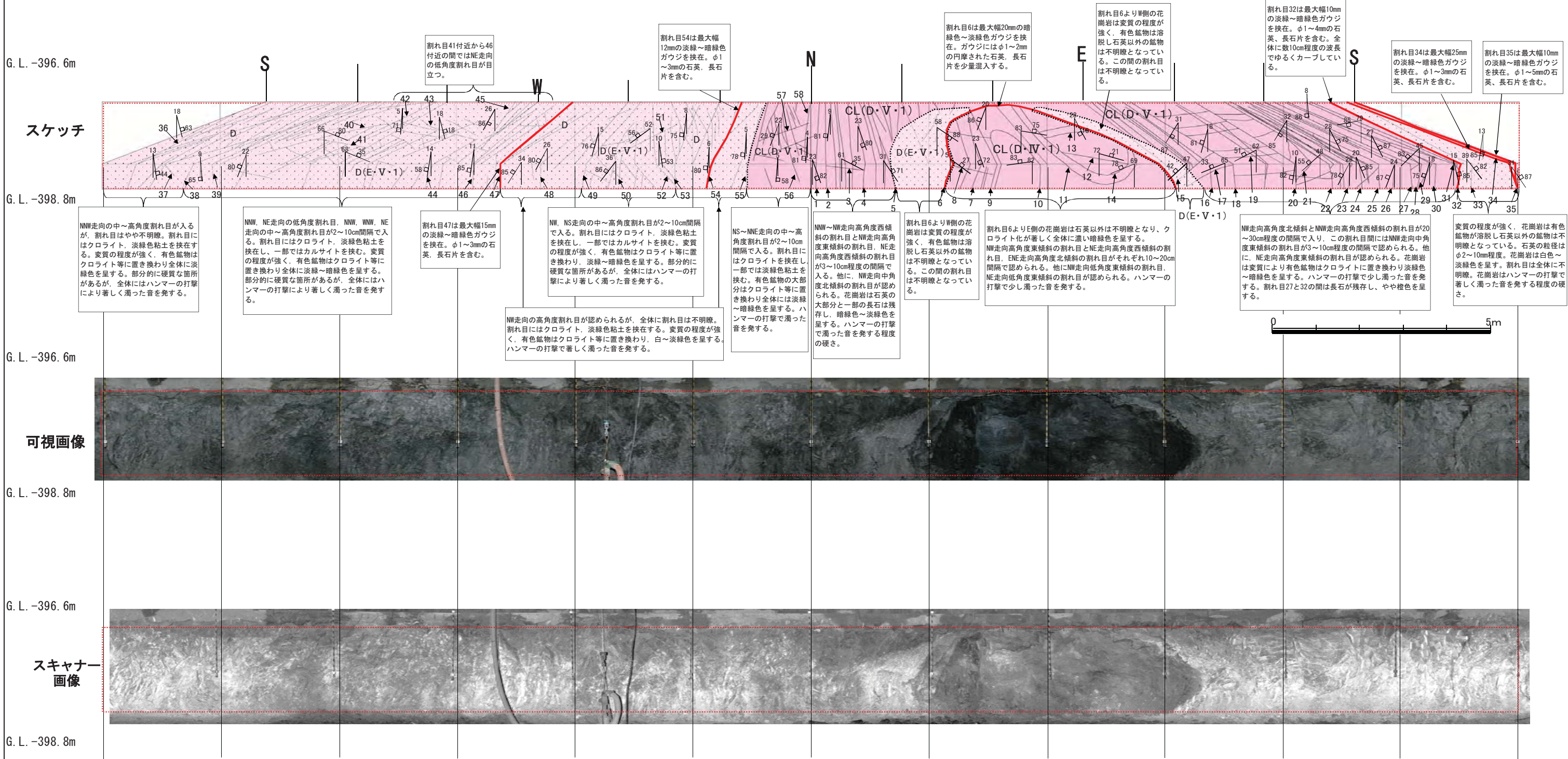
シート番号(注)	198	日時	2009/9/2 22:00~0:30	位置・深度	STEP318, 319 G.L. -396.6 m~G.L. -398.8 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

凡例

	花崗岩		湧水		割れ目		断層		岩級区分境界
	強変質箇所		針貫入試験位置		S シュミットハンマー試験位置		M 帯磁率測定位置		岩石試料採取位置



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -396.6m~-397.7m CL/D G.L. -397.7m~-398.8m CL/D	特記事項 観察範囲は接続部のハンテ下である。観察は壁面から離れた位置で行ったため、各種試験は実施していない。 岩種は花崗岩で、岩相は①中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の石英の粒径は概ねφ2~10mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わっており、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、N側の割れ目55付近からW側さらにSE側の割れ目32付近まで、NE側の割れ目6沿いでは変質の程度が強く、有色鉱物は溶脱し石英以外の鉱物は軟質になり、花崗岩は白色~淡緑色を呈する。強変質部では割れ目が不明瞭となっている。また、NE側の割れ目6からE側の花崗岩は、クロライト化により濃い暗緑色を呈し、石英以外の鉱物は不明瞭となっている。なお、SE側の一部では変質の程度が若干弱く長石が残存している。 主な割れ目は58条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向高角度である。他に、S側ではNS走向中~高角度割れ目、SW側ではNW走向低角度割れ目、NE走向低、高角度割れ目、W側ではEW走向中~高角度割れ目、NW側ではNW走向中角度割れ目、NS走向中~高角度割れ目、NE側ではNE走向高角度西傾斜の割れ目、SE側ではNNW走向中角度東傾斜の割れ目が認められる。
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(暗緑色、淡緑色)	RMR値	G.L. -396.6m~-397.7m 11.0 G.L. -397.7m~-398.8m 11.0	
風化	α	岩石試料番号	-	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	全体に湿っぽい程度			



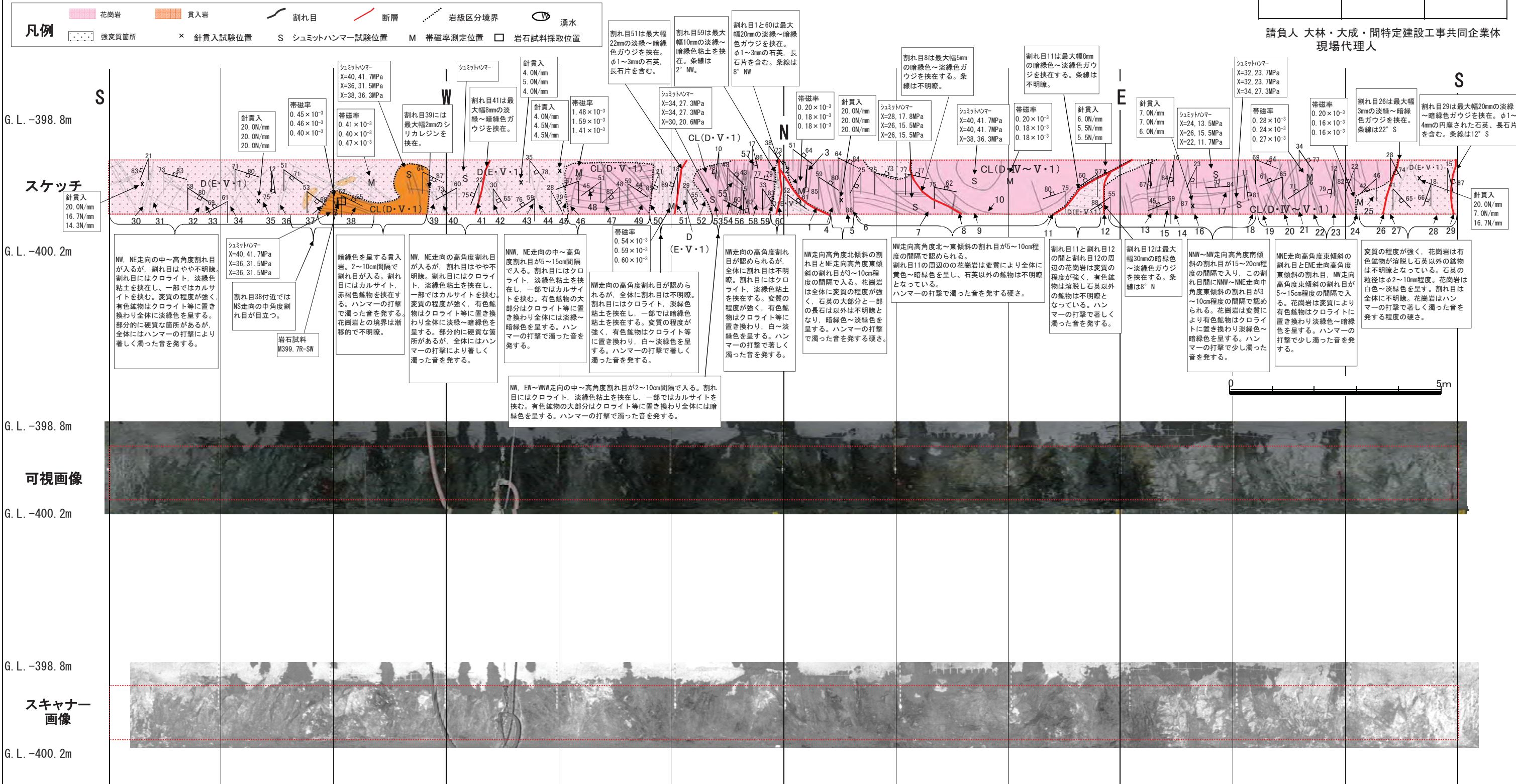
# A工区地質記載シート

(注) シート番号は、その1工事から連番とする。

A3-請負-計測工(地質)-090907

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号(注)	199	日時	2009/9/7 17:30~21:00	位置・深度	STEP320, 321 G.L. -398.8 m~G.L. -400.2 m	観察・撮影者	
----------	-----	----	-------------------------	-------	---	--------	--



請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

岩種	花崗岩、貫入岩	電研式岩級	G.L. -398.8m~-398.9m CL/D G.L. -398.9m~-400.2m CL/D	<b>特記事項</b> 岩種は花崗岩で、岩相は①中粒~粗粒花崗岩、②貫入岩である。貫入岩はW側の割れ目37付近から39付近の間に認められる。花崗岩の石英の粒径は概ねφ2~10mm程度である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は概ね白濁し有色鉱物はクロライトに置き換わり、淡緑色~暗緑色を呈する。特に、NW側の割れ目46からW側さらに割れ目24付近の間、NW側の割れ目50から52付近の間、N側の割れ目1からW側の割れ目59付近の間、E側の割れ目11から12の間では変質の程度が強く、有色鉱物は溶脱し石英以外の鉱物は軟質になり、花崗岩は白色~淡緑色を呈する。強変質部では割れ目が不明瞭となっている。また、NW側の割れ目52付近から割れ目59までの間の花崗岩は、クロライト化により濃い暗緑色を呈し、石英以外の鉱物は不明瞭となっている。NE~E側の割れ目8と11の周辺では変質により花崗岩は黄色を呈する。貫入岩は変質の程度が強く全体に暗緑色を呈し、全体に細粒で粒径を肉眼では確認できない。 主な割れ目は60条である。割れ目の主要な走向傾斜はNW走向高角度で、他に、SW側ではNE走向高角度割れ目、W側ではNS走向中~高角度割れ目、SE側ではNE走向高角度の割れ目が認められる。割れ目1, 8, 11, 12, 26, 29, 41, 51, 60はガウジや条線が認められることや、上位の観察結果と比較の上、断層と判断した。
岩相	①中粒花崗岩(暗緑色、淡緑色) ②貫入岩(暗灰色)	RMR値	G.L. -398.8m~-398.9m 10.8 G.L. -398.9m~-400.2m 11.0	
風化	α	岩石試料番号	M399.7R-SW(貫入岩), M399.2R-NE(ガウジ), M399.1R-NE(ガウジ)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	全体に湿っぽい程度			